

直轄診断報告書

【 猿 飼 橋 】

平成28年 3月



国土交通省

(白紙頁)

目次

	Page
1. はじめに -----	1
2. 調査概要 -----	2
3. 橋梁概要 -----	4
4. 技術的助言 -----	5
5. 調査結果 -----	12
5-1. 防食方法について -----	12
(1) 塗膜の劣化状況 -----	12
(2) 竣工時・塗替え時の塗装仕様 -----	14
(3) 防食機能の劣化・腐食状況の整理 -----	14
(4) 閉断面部材内部の防食 -----	126
5-2. 疲労亀裂について -----	139
(1) 疲労亀裂が懸念される溶接継手 -----	139
(2) 亀裂調査 -----	142
(3) 溶接箇所データベース作成の提案 -----	144
5-3. 高力ボルト (F11T) について -----	145
(1) 高力ボルト (F11T) の特性 -----	145
(2) 遅れ破壊の可能性 -----	145
(3) 叩き点検調査 -----	146
5-4. 洪水対策 -----	148
(1) 過去の洪水による影響 -----	148
(2) 周辺地盤について -----	149
(3) 法面保護工等対策工について -----	149
5-5. 維持管理設備の必要性など -----	150
(1) 恒久的維持管理設備の必要性 -----	150
(2) 今後の異常検知のための方策 -----	153

	Page
5-6. 各部損傷調査結果 -----	154
5-6-1. ランガー桁部 -----	155
(1) 補剛桁 -----	155
(2) アーチリブ -----	157
(3) 端支柱 -----	161
(4) 支柱接合部 -----	163
5-6-2. 側径間鈹桁部 -----	167
5-6-3. 支承 -----	169
5-6-4. 床版 -----	173
5-6-5. 下部工 -----	175
5-6-6. 橋面工・付属物 -----	177
(1) 伸縮装置 -----	177
(2) 排水装置 -----	179
(3) 舗装・地覆 -----	181
(4) 防護柵・親柱 -----	183

End 184

【巻末資料】

1. はじめに

猿飼橋は、奈良県十津川村により昭和 49 年 3 月に建設され、現在まで 41 年経過している橋梁で、村道平谷竹筒線上の橋長 138.8m 鋼ランガー桁橋である。猿飼地区、山手谷地区、玉置川地区の住民が日々利用しており、世界遺産紀伊山地の霊場と参詣道「大峰奥駆道」の霊峰玉置山に通じることから、多くの観光客の通行があり、地域の生活道路として重要な役割を担っている。

本橋は、中央径間 116.8m の鋼ランガー桁橋と鋼単純鉄桁の 3 径間の橋梁であり、特に中央径間の鋼ランガー桁橋については、2009 年に十津川村において点検が実施され、橋全体に防食機能の劣化やアーチ基部や桁端部など一部の補剛桁に断面減少を伴う腐食が進行していることから、今後適切な老朽化対策を検討するにあたり、高度な技術が必要となるため、技術者不在の十津川村では、それらの対応が重要な課題となっていた。

このため、平成 27 年 7 月十津川村より同橋の長寿命化のため、国土交通省に直轄診断の要請がなされたものである。

国土交通省は本橋が、維持管理に高度な技術力が必要であること、主要生活道路、観光ルート道路、緊急時の迂回道路として重要な路線であること等を勘案の上、直轄診断により、今後検討される修繕・措置等について、所要の調査・作業を行い技術的な助言が必要と判断したものである。

近畿地方整備局等による「道路メンテナンス技術集団」は、11 月 6 日より現地調査を開始し調査を進めてきたが、その調査結果がまとまったので、技術的助言として以下の通り報告する。



「道路メンテナンス技術集団」隊員

近畿地方整備局	道路部	道路保全企画官	松田好生(リーダー)
		道路構造保全官	中川匡史
	近畿技術事務所	副所長	杉若武
	奈良国道事務所	事務所長	若尾将徳
	国土技術政策総合研究所	維持管理技術課長	福島克章
	国立研究開発法人土木研究所	総括保全対策官	高村裕一
		道路構造物研究部橋梁研究室長	玉越隆史
		上席研究員	村越潤 星隈順一

2. 直轄診断 現地調査概要

直轄診断の現地調査では、橋梁点検車や仮設足場などを活用し、必要な情報を得るために橋梁工学の専門家を含む技術者による詳細な現地調査と管理者により提供された完成図や設計資料等の分析を行った。

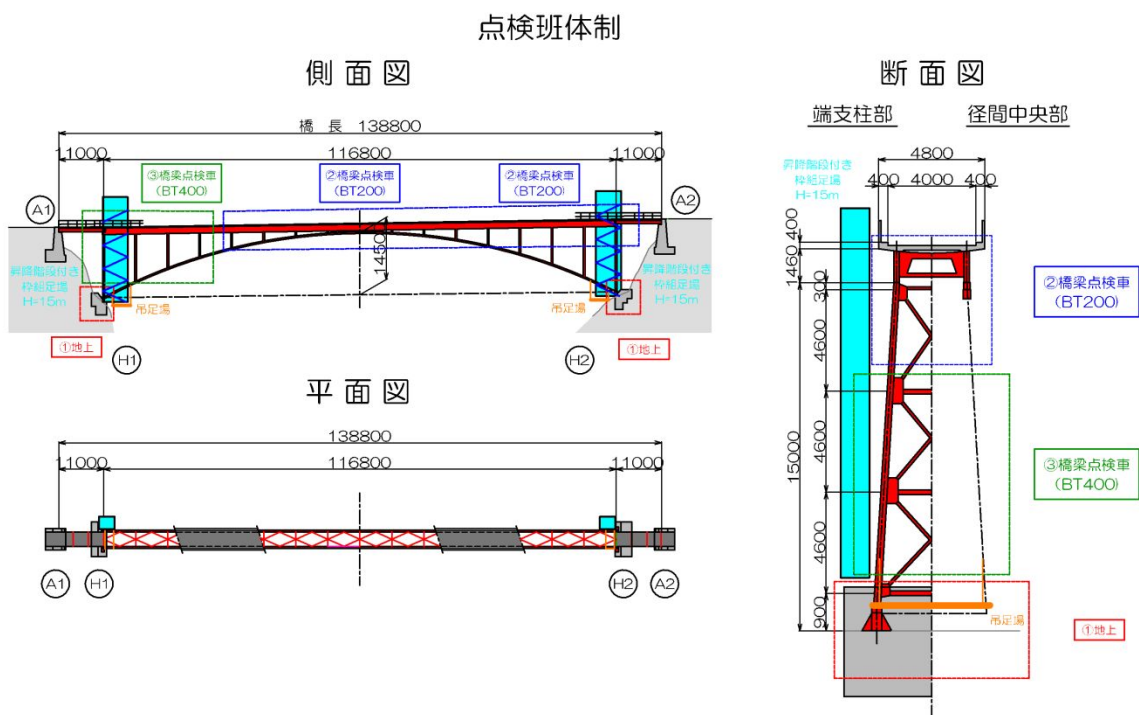
○直轄現地診断 日時 平成27年11月6日(金)

・調査方法・調査箇所 4班構成で全体を調査

【仮設足場】 アーチ端部、支承、アーチアバット周り

【橋梁点検車】 アーチリブ（下方）および格点、支柱 (BT-400)

アーチリブ（上方）、補剛桁および格点、床版 (BT-200)

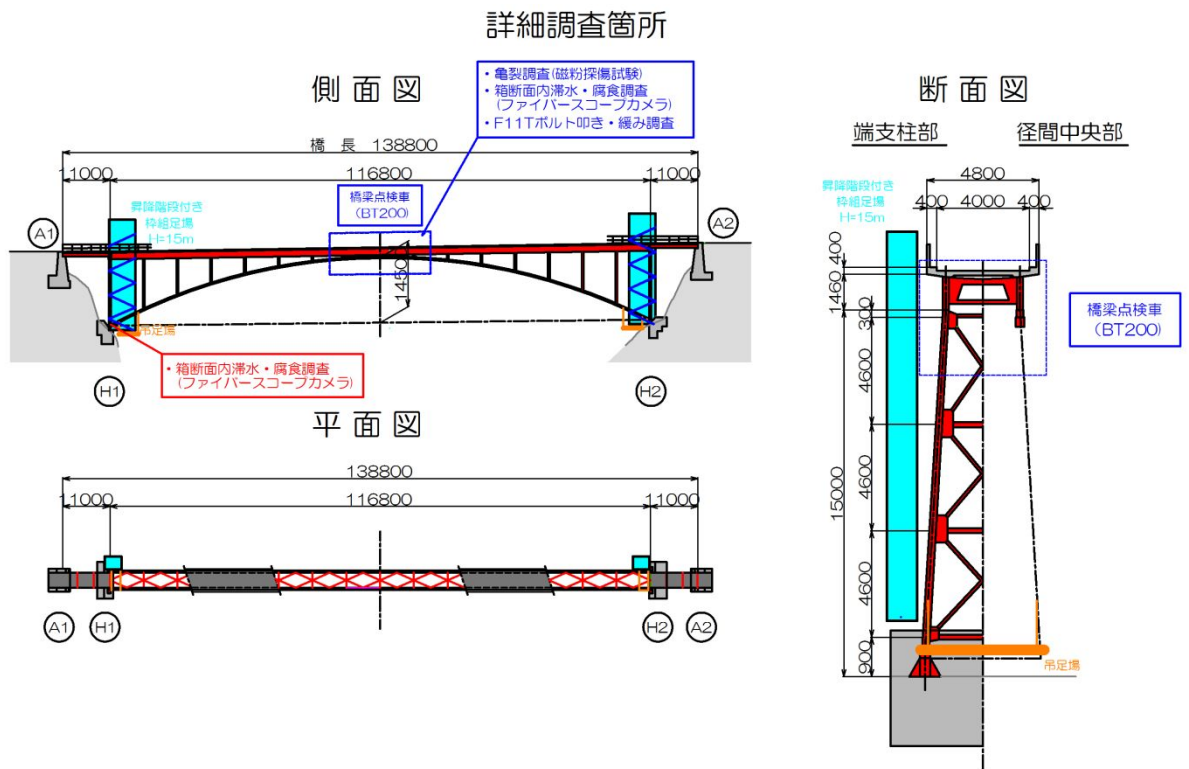


○直轄現地診断 日時 平成 27 年 11 月 27 日(金)

11月6日の現地診断結果を受け、重要部位を数カ所抽出し診断に必要な詳細調査を実施した。

・調査方法・調査箇所

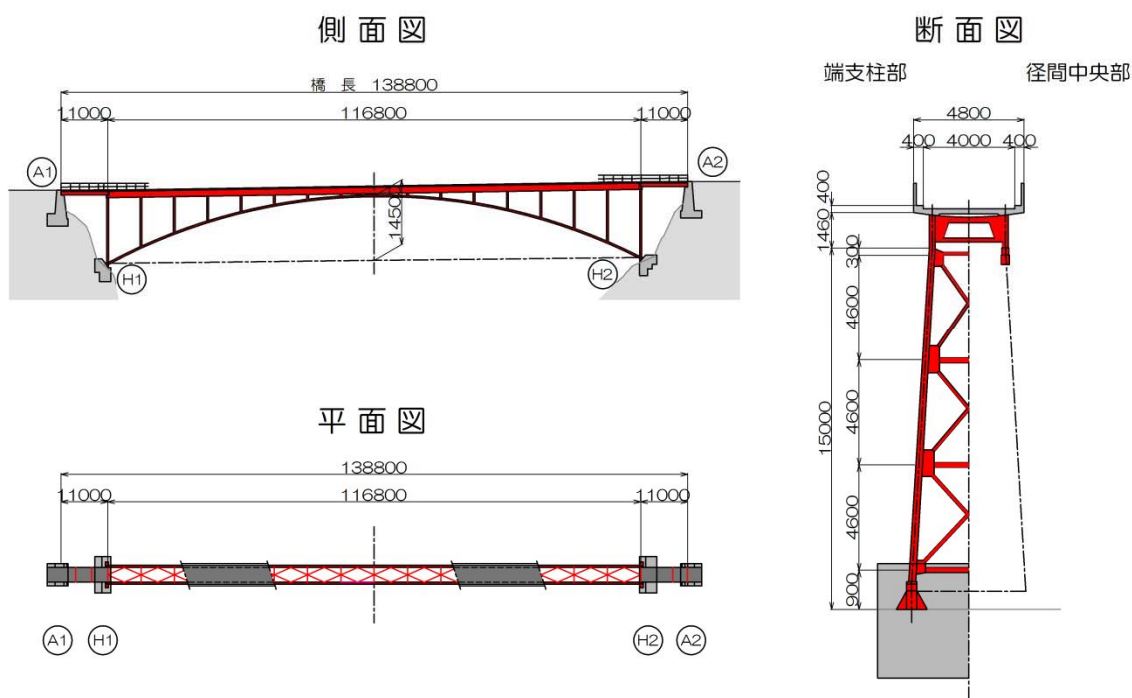
詳細調査項目		調査方法	仮設	備考
亀裂調査		磁粉探傷試験	BT200	アーチクラウン部
F11Tボルト調査		叩き・緩み点検	BT200	アーチクラウン付近のF11Tボルト継手
箱断面内部 滞水・腐食調査	継手部	ファイバースコープ カメラ挿入	BT200	アーチクラウン付近の継手部 ハンドホール利用
	アーチ基部		仮設足場	



3. 橋梁概要

項目	諸元
橋梁名	1級村道 猿飼橋（さるかいはし）
所在地	自) 奈良県吉野郡十津川村大字平谷
	至) 奈良県吉野郡十津川村大字平谷
路線名	村道平谷竹筒線
構造形式	鋼ランガー桁橋
	側径間：鋼単純鈹桁橋，中央径間：鋼ランガー桁橋
橋長	138.80 m
支間長	11.00 m + 116.80 m + 11.00 m
有効幅員	4.00 m
橋面積	1104.0 m ²
平面形状	直線（直角橋）
等級	二等橋
活荷重	TL-14
示方書	道路橋示方書（昭和47年）
竣工	1974（昭和49）年3月，1987年（昭和62年）12月 塗装工事
交通量	約400台/12h

全体一般図



4. 技術的助言

1. 橋全体について

猿飼橋の現地診断や構造特性から弱点部となる可能性が高い部材を中心にき裂や密閉断面内の滞水状況、塗膜の残存厚さなどの現地調査を行った結果、以下のような結果が得られた。

防食システムの劣化は橋全体に及んでいるものの、断面減少を伴う腐食は一部に限定しており、調査した範囲では、き裂などの損傷は確認されておらず、現時点で構造安全性の観点からは危険である可能性は低いと考えられる。

本橋は架設以降に行った維持管理行為としては、28年前に塗装の塗り替えが行われたのみであるが、排水システムや路面からの漏水、日射の影響など湿潤環境におかれている部材で腐食が認められるものの、橋の構造安全性に影響を及ぼす可能性のある著しい腐食は生じておらず、本橋が良好な架橋環境に設置されていることなども踏まえると、部材の劣化状態と原因を詳細に分析し、それぞれの材質や部材毎に適切かつ必要な改善措置を行ったうえで、防食仕様を材質や部材毎に適切に組み合わせることによって、将来の維持管理を一般的な塗り替え更新手法よりも確実性が高く経済的なものにできる可能性がある。

一方、本橋は疲労耐久性に注意が必要な構造形式であり、支間中央部など重要度の高い継手は優先的にき裂調査を行う必要がある。

また、接合の一部に遅れ破壊が懸念される高力ボルト（F 1 1 T）が用いられていることから、定期点検等適切な時期にボルトの評価を行う必要がある。

橋台支承部では、これまでの水害の影響を受けている形跡が見られるため、洪水対策について検討するのが望ましい。

2. 防食仕様

本橋は総じてマイルドな環境であり、現行の塗装仕様による防食効果は適切であったと判断できる。一方で、塗膜の劣化状況と各部の環境等（施工品質、塗替えの容易さ、特殊な条件（狭隘、湿潤、地際その他））や今後の重交通通過等の利用形態を考慮すると、塗替え塗装仕様は、全面一律に重防食塗装系を前提とすることは、耐久性や経済性の観点からは必ずしも合理的ではない可能性がある。

例えば、施工品質では、橋の防食機能の施工品質が所要の品質を満足していなかった場合、1～3年で著しい変状が現れ始めることが多い。しかし、本橋の場合は、塗替えから28年が経過しているなかで、著しい変状が発生している部位はアーチ基部などごく一部で漏水等の外的要因に起因すると考えられる腐食が確認される一方、多くは部材の健全性がこれまで維持されていることから、腐食の進行スピードが一律的に早まる可能性は低いと考えられる。

塗替えの容易さとしては、補剛桁部はアーチリブ部と比較し足場の設置が容易となる。また、重防食塗装系の塗替えと比べ一般塗装系の塗替えは、作業条件によって異なるが、塗替えが容易になる可能性が高いと考えられる。さらに、

床版の補修対策と併せて全面塗替えを行うことで、より効率的な塗替えができる可能性がある。

特殊な条件とは、狭隘な場所や湿潤環境にある部材は限定的であり、腐食環境の比較的厳しい部材の塗替え塗装と、雨排水システムの改善等を加えることで、今後の防食機能の効果が継続される可能性がある。

本橋の最も合理的な維持管理計画を検討するため、橋を構成する全ての部材毎に腐食や塗膜の劣化状態及び原因を分析し、劣化のパターンとして整理するとともに、塗り替えについての塗装仕様や塗り替え時期など塗装設計と劣化進行の環境改善の検討を行った。

(1) 腐食状況と要因の整理

【側径間桁・補剛桁】

補剛桁のウェブは、側径間及びゲルバー部で局部的に著しい腐食が発生しているが、原因は、地形条件から日射が当たりにくく湿潤環境の影響を受けやすいことや、桁の内側では部材の特性から風が当たりにくいなどの環境条件に伸縮装置からの漏水が加わり腐食を進行させている可能性がある。

また、ウェブの腐食は、内側に比べ外側で腐食や塗膜の劣化が進行している傾向高く、原因は紫外線による防食機能の劣化の影響を受けやすいことが原因であると考えられる。

【アーチリブ】

アーチリブは、端部の上面及び側面で局部的に著しい腐食が発生しているが、地形条件から日射が当たりにくく湿潤環境の影響を受けやすいことや、排水管からの雨水の飛散の影響を受けるなどの条件が加わって局部腐食が進行している可能性が高い。また、端部以外のアーチリブ上面は、雨水の滞水が原因と考えられる防食機能の劣化が進行している部材があるほか、上流側のアーチリブの上面及び側面は、下流側より劣化の進行度合いが高く、これは、排水管から流れ出る水がアーチに飛散の影響を受けている可能性が高いことが考えられ、これらは排水構造の改善を加えることにより防食機能の劣化進行を遅らせる事が可能となる可能性がある。

【支柱・横構・支承】

支柱部は、端支柱下端部で局部的に著しい腐食が発生しているが、地形的条件から日射が当たりにくく湿潤環境の影響を受けやすいことや、排水管からの雨水の飛散の影響を受けるなどの条件が加わって局部腐食が進行している可能性が高い。また、端支柱以外の支柱部や横鋼は、部材の腐食は発生しておらず、経年劣化による防食機能の劣化があるものの、腐食因子は少なく、向こう10年以内に著しく腐食が進む可能性は低いと考えられる。

側径間桁端部及びゲルバー部の支承は、部分的に軽微な腐食が発生して

いるが、地形的条件から日射が当たりにくく湿潤環境の影響を受けやすいことや、伸縮装置からの漏水の影響を受けるなどの条件が加わって腐食が進行している可能性が高い。

アーチリブ下端の支承は、局部的に著しい腐食が発生しているが、地形的条件から日射が当たりにくく湿潤環境の影響を受けやすいことや、排水管からの雨水の飛散の影響を受けるなどの条件が加わって局部腐食が進行している可能性が高い。

上記のとおり、防食機能の劣化状態と原因分析を踏まえて、次のような劣化因子の改善措置と塗装設計を提案することが出来る。

【劣化因子の改善】

防食機能の劣化を進行させる要因を改善することで、塗装の耐久年数を向上させる効果が期待出来る。

例えば、桁端部やゲルバー部の漏水を防止するために伸縮装置の交換を行うことや、排水管からの雨水の飛散や滴下により腐食が発生していると考えられるアーチリブについては、排水構造の見直しを行う余地がある。また、滞水の影響が見られる補剛桁下フランジ、アーチリブ、端支柱等の場所については、構造的な影響を検討したうえで、水抜き孔の検討を行うことにより、塗装による防食機能の効果を一層向上させることが期待出来る。

【側径間桁・補剛桁の塗装】

桁端部やゲルバー部等で地形的な腐食環境を排除出来ない箇所では、上記の劣化因子の改善措置に加え、塗装による防食機能の回復が必要であるが、重防食塗装を行うことで、より長期の耐久性が確保出来ると考えられる。

また腐食が発生していない部材は、劣化進行が緩やかであることを踏まえ、定期点検において塗膜の劣化状況を確認しながら塗り替え時期を検討することが可能であるが、ウェブ外側及び下フランジ上面などに塗装を行うことで、景観の維持及び耐久性の効果が向上すると考えられる。

【アーチリブの塗装】

アーチリブ端部の地形的な腐食環境を排除出来ない箇所では、排水管の飛散対策などの劣化因子の改善措置に加え、塗装による防食機能の回復が必要であるが、重防食塗装を行うことで、より長期の耐久性が確保出来ると考えられる。

また、端部以外の腐食が確認されていない部材は、これまでの劣化の進行が緩やかである事を踏まえ、定期点検において塗膜の劣化状況を確認しながら塗り替え時期を検討することが可能であるが、アーチ上面及び側面

部などに塗装を行うことで、景観の維持及び耐久性の効果が向上すると考えられる。

【支柱・横構・支承の塗装】

端支柱下端や支承部で地形的な腐食環境を排除出来ない箇所では、排水管の飛散対策などの劣化因子の改善措置に加え、塗装による防食機能の回復が必要であるが、重防食塗装を行うことで、より長期の耐久性が確保出来ると考えられる。

また腐食が発生していない部材は、劣化進行が緩やかであることを踏まえ、定期点検において塗膜の劣化状況を確認しながら塗り替え時期を検討するのが良い。

(2) 塗り替え仕様の検討

本橋は、塗り替え後 28 年が経過していることから、重防食仕様による全面塗り替えにより長期健全性を維持するのが一般的な対策である。しかし、上記のとおり、本橋の環境条件と腐食の状態、劣化因子の改善措置などを適切に組合せることによって、次のような塗装仕様を行うことが可能であると考えられ、橋の使用目的や要求性能との整合を図ったうえで、防食対策の内容を検討するのが良い。

【高リスク・低 LCC 仕様】

湿潤環境の影響を受けている補剛桁の端部やゲルバー部、アーチ基部を重防食仕様により、防食機能の回復を行うとともに、腐食が確認されている範囲は予防保全の観点から一般塗装系で塗り替える。また、ボルト継手や溶接継手の接合部は、塗膜の健全性を維持し、き裂やボルトの遅れ破壊の兆候を容易に発見しやすくする。

一方、著しい腐食を進行させている伸縮装置の漏水や排水管からの雨水の飛散などは劣化を進行させる要因となる可能性が高く、不確実性を排除することはできず、防食機能の劣化は比較的早い段階で発生する事を否定できない。

また、部分塗装となるために、塗装を行わない部材との間で色調にムラが発生する。

【低リスク・高 LCC 仕様】

伸縮装置からの漏水や排水管から雨水の飛散などによる影響を受けている部材は、伸縮装置の更新や排水構造の改善を行い、雨水の影響を出来るだけ排除したうえで、湿潤環境の影響を考慮し、重防食仕様で塗り替える。また、ボルト継手や溶接継手の接合部は、塗膜の健全性を維持し、き裂やボルトの遅れ破壊の兆候を容易に発見しやすくする。補剛桁外側面及びアーチ上面及び外側面は、紫外線の影響を考慮し一般塗装仕様で塗り替え、防食機能を持

続させる。

一方、塗り替えに伴うコストが高く、橋の利用目的や要求性能と十分整合を図る必要がある。

【中リスク・中 LCC 仕様】

伸縮装置からの漏水や排水管からの雨水の飛散などの影響を受けている部材は、伸縮装置の更新や排水構造の改善を行い、一般塗装系で塗り替える。

また、ボルト継手や溶接継手の接合部は、塗膜の健全性を維持し、き裂やボルトの遅れ破壊の兆候を容易に発見しやすくする。

一方、雨水の浸入要因が完全に遮断出来なかった場合、桁端部やゲルバー部などでは、他の部材と比較し塗膜の健全性維持が劣る要因となりうる。また、部分塗装となるため、塗装を行わない部材との間で色調にムラが生じる。

(3) 閉断面内部の環境

結露や雨水の浸入による閉断面部材内部の環境について、一部確認を行うとともに、今後の確認方法についても、一部小径削孔による視認および高性能赤外線カメラによる間接確認方法の適用性の検討を行ったが、最も懸念された支柱基部付近での滞水の可能性が少ないこと、小径削孔によって内部確認が良好に行えることを確認した。

高性能赤外線カメラによっても適切な調査条件とすることで評価できる可能性はあるものの部材厚や表面性状の影響から精度には限界があることを確認した。これらの状態から、閉断面部内部は基本的には密閉環境を維持することとし、調査時に開口可能な小径削孔の構造を検討し、直接監視する方法を併用するのがよい。

3. き裂調査

疲労き裂が懸念される構造形式であり、同種の橋梁では、これまでに疲労き裂が確認されている。

本橋の交通量は少なく、TL-14として設計されているものの、満載状態の大型ダンプの走行も確認され、断面剛性の低いアーチ中央部では大きな振動が確認されることなどから、塗膜下での既発生のか裂を含めて詳細に確認すべきである。

今回の診断において、アーチクラウン部の補剛桁付きガセットで磁粉探傷試験を実施したが、確認した範囲ではき裂は発見されていない。ただし、限られた溶接部材の中に、応力集中により疲労耐久性上注意が必要なものが使われており、防食の更新に合わせて、優先的に重要度の高い継手のき裂調査を行い確認すべきである。

格点部は橋の耐荷力を確保するための重要な部材であり、応力集中によるき裂等々の損傷は橋の健全性に致命的な影響を与える可能性がある。このため、点検時に確実に損傷を発見することが重要となるが、これらは塗膜割れ等の変

状によって損傷を発見できる可能性が高く、塗膜の健全性を維持する必要がある。このため、定期点検あわせて格点部の塗膜の健全性を維持するのが良い。

また、今後の効率的な維持管理のため、溶接の種類と箇所を整理しておくことよい。今後、本橋において疲労損傷が発生した場合、同様の溶接箇所と同様のディテールを有する場所を速やかに把握できるようにしておくことで、より確実な予防保全につなげることが可能となる。

4. 高力ボルト（F 1 1 T）

アーチ中央部では遅れ破壊が懸念され、現在は使用されていない高力ボルト（F 1 1 T）を用いた摩擦接合が採用されているものの、現状ではボルトの抜け落ちは確認されず、遅れ破壊の要因につながる可能性が高い腐食も限定的であり、一部打音検査を行ったものの、異常は確認されなかった。

また、ボルトの突出長が確保されておらず、ボルトの余長不足が疑われるものもあるが、母材との遊間は認められず、密着している状態であると考えられ、現状のままとして点検で注意する必要がある。

よって、遅れ破壊の可能性のある高力ボルト（F 1 1 T）の接合位置を特定し、定期点検時は特に慎重に調査するとともに、塗装の塗替え時には特に万全を期した調査を行うことで遅れ破壊の発生を防止すべきである。

5. 洪水対策

アーチ基部には泥質の土砂堆積が確認され、洪水時に堆積したものと推察される。洪水時には、大量の流木などが想定されるため、異物の衝突が確認できるため影響緩和対策を検討するのがよい。

また、アーチ基部では、湿潤環境の影響と考えられる腐食と断面減少が確認できる。応力的に厳しく構造上重要な部位であり、雨排水システムの改善とともに、構造的配慮と防食配慮を検討するとよい。

当該周辺の地質は、割れ目が発達しやすいフリッシュ（露岩部では層境界が剥離性に富む、砂岩と頁岩の交互層）で岩盤崩落が発生しやすく、周辺地山の変状等が懸念として考えられるため、確認するための措置として、現況地形の状態を初期値として記録し、変状が確認できるようにしておくことよい。

6. その他

以上の所見を踏まえると、本橋において定期点検および亀裂等の疑いの発生や災害時の調査、防食および床版等の補修補強時の利便性を考慮すると、今回防食更新等に合わせて、一部に恒久的な維持管理設備の設置を検討するのがよい。

また、重大な影響を及ぼす洪水や地滑り等による下部工の異常の検知のため、今回の直轄診断の中で現状の橋梁主要点の位置について測量したので、それを初期値として今後の維持管理指標とするのがよい。

さらに、既往の洪水や豪雨による支承部付近への流水・流下物による影響、

堆積物等による湿潤状態の長期継続を考えると、基部およびアーチアバット天端については、安全性と耐久性の向上のため点検口等の対策を行うことも考えられる。

本橋の耐震に関しては、現行の耐震基準を満足させる耐震補強対策は行われていないが、南海・東南海地震の影響を受ける可能性があることを考えると、早めに耐震対策を検討するのが望ましい。

5. 調査結果

5-1. 防食方法について

(1) 塗膜の劣化状況

猿飼橋の塗膜は、第1回目の塗替え塗装後約28年経過しており、全体的に防食機能の劣化が進行している状況である。特に左右岸のアーチ端部、端支柱部での腐食は著しい状況である。

詳細に見れば、経年の劣化により、日射部では塗膜が白亜化や塗膜の消耗が進行するなど全橋において防食機能の劣化が進行している。また、ゲルバー部などの桁や部材の端部など水の影響を受けやすい箇所、ボルト継手部や部材のエッジ部など塗装の付着しにくい箇所（膜厚不足）などでは局部的に腐食が発生している。

著しい腐食が見られるアーチ端部では、過去の洪水の影響と考えられる土砂堆積等により常時湿潤環境の影響を受け、一部の補剛材で腐食による断面減少も確認される。

塗替え塗装の着手時期は、塗膜が全体的に劣化し孔食などの著しい損傷に至っていない現時点が適期であり、防食機能の劣化が著しい部材では、このまま放置しておくとも腐食の進行速度は速まる可能性が高い。



【全体的な防食機能の劣化】



橋台側桁端部



ゲルバーヒンジ部



端支柱基部(断面減少)



アーチアバット支承



アーチ基部周辺



補剛桁と支柱の接合部



アーチリブと支柱の接合部



アーチ横構の接合部

【局所的な腐食】

(2) 竣工時・塗替え時の塗装仕様

1) 竣工時の塗装仕様

竣工時の塗装は、昭和 48 (1973) 年 1 月に行われており、下表に示す当時の一般環境に適用する塗装系を適用したことが工事記録に残されている。

一方、下塗り塗料には環境や人体へ有害な影響の恐れがあり、現在では使用できない鉛系の塗料が使用されている。

竣工時の塗装系

塗装工程		商品名(関西ペイント)	塗装系 A-1
工場	素地調整	メタラクト H-15	長ばく形ウオッシュプライマー
	下 塗	鉛丹サビナイト NO.50 SD 鉛丹サビナイト	鉛丹さび止めペイント (2層)
現場	中 塗	SD マリンペイント	長油性フタル酸樹脂塗料用中塗 (1層)
	上 塗	SD マリンペイント	長油性フタル酸樹脂塗料上塗 (1層)

2) 塗替え時の塗装仕様

前回の塗替え塗装は、昭和 62 (1987) 年 12 月に行われ、塗装履歴として商品名が記載されており、これに対応した塗装を下表に示す。

竣工時の下塗り塗料と同様に、環境や人体へ有害な影響の恐れがある鉛系の塗料が使用されている。

前回の塗替え塗装系

塗装工程	商品名〈大日本塗料〉	塗替え塗装系 a-2
素地調整		3種
下 塗	ズボイド下塗	鉛系さび止めペイント (2層)
中 塗	タイコーマリン中塗	長油性フタル酸樹脂塗料用中塗 (1層)
上 塗	タイコーマリン上塗	長油性フタル酸樹脂塗料上塗 (1層)

(3) 防食機能の劣化・腐食状況の整理

橋梁全体としての最適な塗替え計画(塗替え時期、塗替え範囲、塗替え塗装仕様)を立案するにあたり、主要点の残存塗膜厚を計測した上で、全部材の各部位に対して防食機能の劣化・腐食状況、劣化原因を分析・整理した。また、その整理結果をもとに適した塗替え時期と塗替え仕様について提案している。

次ページ以下に、整理した結果を示す。

防食機能劣化・腐食状況の整理（劣化状況パターン一覧表）

■ 削徑間桁・補剛桁

	パターン番号																			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
現在の劣化状況	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
防食に関わる要因	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
塗替え時期	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
構造改善の余地	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
き裂調査等の必要性	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

	パターン番号										
	21	22	23	24	25	26	27				
現在の劣化状況	○	○	○	○	○	○	○				
防食に関わる要因	○	○	○	○	○	○	○				
塗替え時期	○	○	○	○	○	○	○				
構造改善の余地	○	○	○	○	○	○	○				
き裂調査等の必要性	○	○	○	○	○	○	○				

■ アーチリブ

	パターン番号																	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱
現在の劣化状況	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
防食に関わる要因	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
塗替え時期	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
構造改善の余地	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
き裂調査等の必要性	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

防食機能劣化・腐食状況の整理（劣化状況パターン一覧表）

■格点上・下

	パターン番号										
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
現在の劣化状況	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
防食に関わる要因	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
塗替え時期	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
構造改善の余地	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
き裂調査等の必要性	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

■支柱

	パターン番号		
	①	②	③
現在の劣化状況	○	○	○
防食に関わる要因	○	○	○
塗替え時期	○	○	○
構造改善の余地	○	○	○
き裂調査等の必要性	○	○	○

■横桁

	パターン番号	
	①	②
現在の劣化状況	○	○
防食に関わる要因	○	○
塗替え時期	○	○
構造改善の余地	○	○
き裂調査等の必要性	○	○

防食機能劣化・腐食状況の整理（劣化状況パターン一覧表）

■上横構・下横構

パターン番号		①	②	③	④	⑤	⑥
現在の劣化状況	全体的あるいは局部的に著しい腐食が発生している						
	全体的な防食機能の劣化と軽微な腐食がみられる						
防食に関わる要因	全体的に防食機能の劣化が進んでいる						
	全体的に防食機能の劣化がみられるが軽微である						
塗替え時期	紫外線により防食機能が影響を受けている						
	地形条件から日射が当りにくく温潤の影響を受けている						
構造改善の余地	部材の特性から風が当りにくく、乾燥しにくい						
	雨水等が滞水しやすい構造						
き裂調査等の必要性	全体的に早期の塗替えが必要						
	部分的に早期の塗替えが必要						
経過観察が可能	経過観察が可能						
	排水処理の雨水が部材に影響しているため、改善の余地がある						
疲労き裂調査等の必要性	伸縮装置からの漏水が部材に影響しているため、改善の余地がある						
	疲労き裂調査の必要がある溶接箇所を含んでいる						
F11ボルトの選れ破壊調査が必要な箇所を含んでいる	F11ボルトの選れ破壊調査が必要な箇所を含んでいる						

■対傾構

パターン番号		①	②	③
現在の劣化状況	全体的あるいは局部的に著しい腐食が発生している			
	全体的な防食機能の劣化と軽微な腐食がみられる			
防食に関わる要因	全体的に防食機能の劣化が進んでいる			
	全体的に防食機能の劣化がみられるが軽微である			
塗替え時期	紫外線により防食機能が影響を受けている			
	地形条件から日射が当りにくく温潤の影響を受けている			
構造改善の余地	部材の特性から風が当りにくく、乾燥しにくい			
	雨水等が滞水しやすい構造			
疲労き裂調査等の必要性	全体的に早期の塗替えが必要			
	部分的に早期の塗替えが必要			
F11ボルトの選れ破壊調査が必要な箇所を含んでいる	経過観察が可能			
	経過観察が可能			
疲労き裂調査等の必要性	排水処理の雨水が部材に影響しているため、改善の余地がある			
	伸縮装置からの漏水が部材に影響しているため、改善の余地がある			
F11ボルトの選れ破壊調査が必要な箇所を含んでいる	疲労き裂調査の必要がある溶接箇所を含んでいる			
	F11ボルトの選れ破壊調査が必要な箇所を含んでいる			

■支承

パターン番号		①	②	③
現在の劣化状況	全体的あるいは局部的に著しい腐食が発生している			
	全体的な防食機能の劣化と軽微な腐食がみられる			
防食に関わる要因	全体的に防食機能の劣化が進んでいる			
	全体的に防食機能の劣化がみられるが軽微である			
塗替え時期	紫外線により防食機能が影響を受けている			
	地形条件から日射が当りにくく温潤の影響を受けている			
構造改善の余地	部材の特性から風が当りにくく、乾燥しにくい			
	雨水等が滞水しやすい構造			
疲労き裂調査等の必要性	全体的に早期の塗替えが必要			
	部分的に早期の塗替えが必要			
F11ボルトの選れ破壊調査が必要な箇所を含んでいる	経過観察が可能			
	経過観察が可能			
疲労き裂調査等の必要性	排水処理の雨水が部材に影響しているため、改善の余地がある			
	伸縮装置からの漏水が部材に影響しているため、改善の余地がある			
F11ボルトの選れ破壊調査が必要な箇所を含んでいる	疲労き裂調査の必要がある溶接箇所を含んでいる			
	F11ボルトの選れ破壊調査が必要な箇所を含んでいる			

猿飼橋 塗膜の劣化状況と塗替え計画

	側径間桁・補剛桁	アーチ部	支柱・横構・支承
<p>防食機能の劣化状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・桁端部、ゲルバー部で局部腐食が発生しており、日射環境が他と比べて悪く、伸縮装置からの漏水が確認されている。 ・ウェーブは外側の方が紫外線劣化の影響を受けやすく、塗膜の劣化は進行している。 ・側径間中央部では、防食機能の劣化は進んでいるものの、外側、内側とも腐食は発生しておらず、漏水等の影響を受けていないと考えられる。 ・ランガー部の中央径間部では、塗膜も健全な状態が確認され、防食機能の劣化は軽微であり、塗装の塗り替えは次回の定期点検で劣化の進展状況を確認しながら塗り替え時期を検討するのが良い。 ・側径間桁や補剛桁では、溶接部のき裂が懸念される構造が散見され、塗膜の健全性を維持することにより疲労き裂の発見が容易となる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・端部の支承部付近で局部腐食が発生しており、日射環境が他と比べて悪く、排水管からの雨水の飛散が確認されている。 ・アーチリブ上面部では、雨水が滲水しやすく軽微な腐食が確認されている。また、外側側面部では、紫外線劣化の影響を受けやすく、塗膜の劣化は進行している。一方、内側及び下面部では腐食は確認されず、塗膜も健全な状態が確認され、防食機能の劣化は軽微であり、塗装の塗り替えは、次回の定期点検で劣化の進展状況を確認しながら塗り替え時期を検討するのが良い。 ・アーチリブ中央部では、ボルト接合部に遅れ破綻が懸念されるボルト (F11T) が使用されており、塗膜の健全性を維持することにより遅れ破綻の発見が容易となる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・端支柱下端や支承部で局部腐食が発生しており、日射環境が他と比べて悪く、排水管からの雨水の飛散が確認されている。 ・側径間桁端部及びゲルバー部の支承は、軽微な腐食が発生しており、日射環境が他と比べて悪く、伸縮装置からの漏水が確認されている。 ・端支柱以外の支柱や横構では、腐食は確認されず、防食機能の劣化は軽微であり、塗装の塗り替えは、次回の定期点検で劣化の進展状況を確認しながら塗り替え時期を検討するのが良い。
<p>防食機能の回復方針</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 桁端部では、伸縮装置からの漏水により腐食が進行している可能性が高い。また、アーチ基部では、排水管からの雨水の飛散などによる影響を受けているため、排水構造の見直しにより腐食環境を改善する方法が考えられる。 ② ボルト継手や溶接継手などの接合部では、塗膜の健全性を維持することで、橋の健全性評価を行える可能性があり、点検時に塗り替えを行うことが考えられる。 ③ 湿潤環境の影響を受けている部位では、環境改善を行うことから、重防食塗装系により防食機能の維持を図ることが可能となる可能性がある。 ④ 補剛桁のウェーブなど紫外線劣化の影響を受けていても、腐食が発生していない補剛桁やアーチリブの外側部は、次回定期点検時に塗膜の健全性を評価して塗り替えすることも可能であるが、景観の維持及び耐久性の効果向上を目的に、一般塗装で塗り替えを検討しても良い。 		
<p>対策案の検討</p>	<p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 湿潤環境の影響を受けて腐食している桁端部、ゲルバー部、端支柱下端、アーチ基部は防食機能の維持を目的に重防食塗装系により塗り替えを行う。 ○ ボルト継手や溶接継手の接合部は塗膜の健全性を維持し疲労き裂やボルトの遅れ破綻の発見を容易にすることを目的に一般塗装系による塗り替えを行う。 ○ 湿潤環境の影響を受けて腐食している桁端部、ゲルバー部、端支柱下端、アーチ基部は防食機能の維持を目的に重防食塗装系により塗り替えを行う。 ○ 腐食環境の改善を目的として、伸縮装置の取り替えや排水管の改善など雨排水システムの改善を行う。 ○ ボルト継手や溶接継手の接合部は塗膜の健全性を維持し疲労き裂やボルトの遅れ破綻の発見を容易にすることを目的に一般塗装系による塗り替えを行う。 ○ 補剛桁ウェーブ外側やアーチリブ上面及び側面部など紫外線劣化の影響を受ける部材は予防保全を目的に一般塗装系により塗り替えを行う。 		
<p>【第1案】 高リスク・低LCC</p>			<p>備考</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 伸縮装置からの漏水や排水管の飛散の影響を排除出来ず、塗膜の健全性維持に不確実性が残る ● 塗装を行わない部材との間で色調にムラが生じる
<p>【第2案】 低リスク・高LCC</p>			<ul style="list-style-type: none"> ● LCCの面から橋の目的や要求性能と整合を図る必要がある。
<p>【第3案】 中リスク・中LCC</p>			<ul style="list-style-type: none"> ● 雨水の浸入要因が完全に遮断できなかった場合、桁端部やゲルバー部などでは塗膜の健全性維持が他の部材と劣る可能性がある。 ● 塗装を行わない部材との間で色調にムラが生じる

塗替え計画 (案) 【第1案】高リスク・低LCC仕様

項目		補剛桁PI-P2																側径間桁P2-A2		摘要									
側径間桁・補剛桁	部材番号	側径間桁AI-P1																側径間桁P2-A2		摘要									
		端部	0101	0102	0103	ゲルバー部	0101	0102	0103	0104	0105	0106	0107	0108	0109	0110	0111	0112	0113		0114	0115	0116	ゲルバー部	0101	0102	0103	端部	
上流側	ウェーブ	外側	塗装仕様																			・劣化状況に応じた最経済的な塗替え案							
		内側	塗装仕様																										
	下フランジ	上面	塗装仕様																										
下流側		下面	塗装仕様																										
	ウェーブ	外側	塗装仕様	0201	0202	0203	ゲルバー部	0201	0202	0203	0204	0205	0206	0207	0208	0209	0210	0211	0212	0213	0214		0215	0216	ゲルバー部	0201	0202	0203	端部
	下フランジ	内側	塗装仕様																										
		上面	塗装仕様																										
		下面	塗装仕様																										

塗替え計画 (案) 【第2案】低リスク・高LCC仕様

項目		補剛桁PI-P2																側径間桁P2-A2		摘要									
側径間桁・補剛桁	部材番号	側径間桁AI-P1																側径間桁P2-A2		摘要									
		端部	0101	0102	0103	ゲルバー部	0101	0102	0103	0104	0105	0106	0107	0108	0109	0110	0111	0112	0113		0114	0115	0116	ゲルバー部	0101	0102	0103	端部	
上流側	ウェーブ	外側	塗装仕様																			・第1案の塗替え方法に加え、景観にも配慮して塗替え範囲を追加した案							
		内側	塗装仕様																										
	下フランジ	上面	塗装仕様																										
下流側		下面	塗装仕様																			・腐食しやすい環境にある部位に対して、重防食塗装系により塗り替える案							
	ウェーブ	外側	塗装仕様	0201	0202	0203	ゲルバー部	0201	0202	0203	0204	0205	0206	0207	0208	0209	0210	0211	0212	0213	0214		0215	0216	ゲルバー部	0201	0202	0203	端部
	下フランジ	内側	塗装仕様																										
		上面	塗装仕様																										
		下面	塗装仕様																										

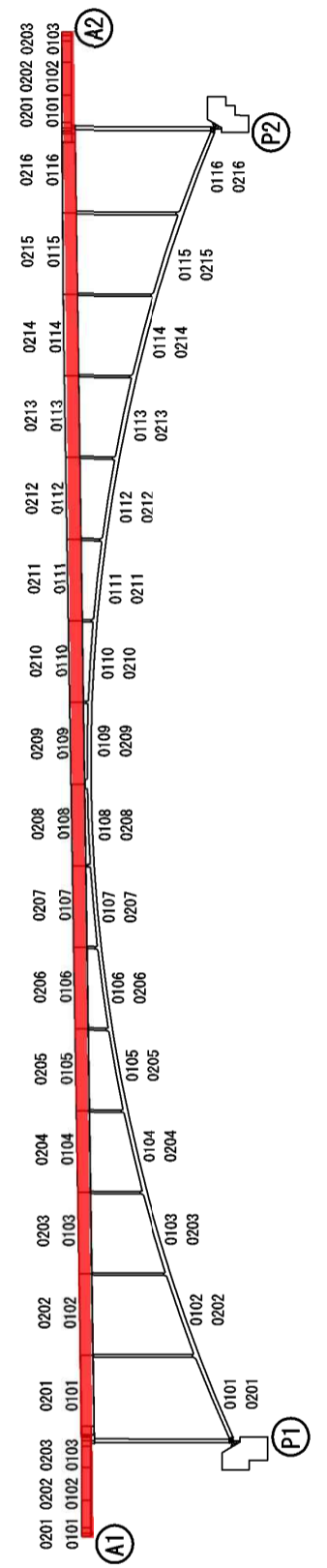
塗替え計画 (案) 【第3案】中リスク・中LCC仕様

項目		補剛桁PI-P2																側径間桁P2-A2		摘要									
側径間桁・補剛桁	部材番号	側径間桁AI-P1																側径間桁P2-A2		摘要									
		端部	0101	0102	0103	ゲルバー部	0101	0102	0103	0104	0105	0106	0107	0108	0109	0110	0111	0112	0113		0114	0115	0116	ゲルバー部	0101	0102	0103	端部	
上流側	ウェーブ	外側	塗装仕様																			・第1案の塗替え方法に加え、雨水排水システムの改善を追加した案							
		内側	塗装仕様																										
	下フランジ	上面	塗装仕様																										
下流側		下面	塗装仕様																										
	ウェーブ	外側	塗装仕様	0201	0202	0203	ゲルバー部	0201	0202	0203	0204	0205	0206	0207	0208	0209	0210	0211	0212	0213	0214		0215	0216	ゲルバー部	0201	0202	0203	端部
	下フランジ	内側	塗装仕様																										
		上面	塗装仕様																										
		下面	塗装仕様																										

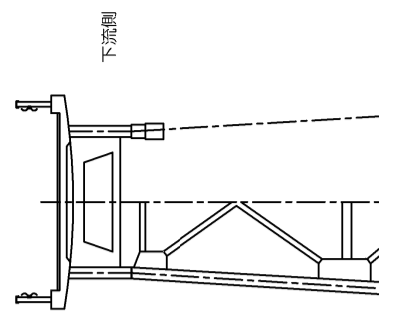
塗装仕様 凡例

- : 重防食塗装系により早急に塗替え実施
- : 一般塗装系により早急に塗替え実施
- : 経過観察
10年後を目途に一般塗装系で塗替え実施

側面図 (部材番号)



横断面



塗替え計画 (案) 【第1案】高リスク・低LCC仕様

項目		アーチリブ P1-P2																摘要
部材番号		0101	0102	0103	0104	0105	0106	0107	0108	0109	0110	0111	0112	0113	0114	0115	0116	端部
上流側	側面外側	塗装仕様																端部
	側面内側	塗装仕様																
	上面	塗装仕様																
	下面	塗装仕様																
下流側	側面外側	塗装仕様																端部
	側面内側	塗装仕様																
	上面	塗装仕様																
	下面	塗装仕様																

アーチリブ P1-P2

・劣化状況に応じた最経済的な塗替え案

塗装仕様 凡例

- : 重防食塗装系により早急に塗替え実施
 - : 一般塗装系により早めに塗替え実施
 - : 経過観察
- 10年後を目途に一般塗装系で塗替え実施

塗替え計画 (案) 【第2案】低リスク・高LCC仕様

項目		アーチリブ P1-P2																摘要
部材番号		0101	0102	0103	0104	0105	0106	0107	0108	0109	0110	0111	0112	0113	0114	0115	0116	端部
上流側	側面外側	塗装仕様																端部
	側面内側	塗装仕様																
	上面	塗装仕様																
	下面	塗装仕様																
下流側	側面外側	塗装仕様																端部
	側面内側	塗装仕様																
	上面	塗装仕様																
	下面	塗装仕様																

アーチリブ P1-P2

・第1案の塗替え方法に加え、草根にも配慮して塗替え範囲を追加した案

・腐食し易い環境にある部位に対して、重防食塗装系により塗り替える案

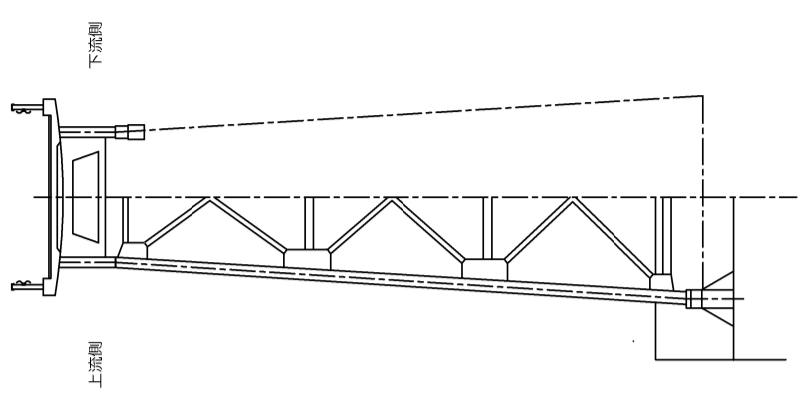
塗替え計画 (案) 【第3案】中リスク・中LCC仕様

項目		アーチリブ P1-P2																摘要
部材番号		0101	0102	0103	0104	0105	0106	0107	0108	0109	0110	0111	0112	0113	0114	0115	0116	端部
上流側	側面外側	塗装仕様																端部
	側面内側	塗装仕様																
	上面	塗装仕様																
	下面	塗装仕様																
下流側	側面外側	塗装仕様																端部
	側面内側	塗装仕様																
	上面	塗装仕様																
	下面	塗装仕様																

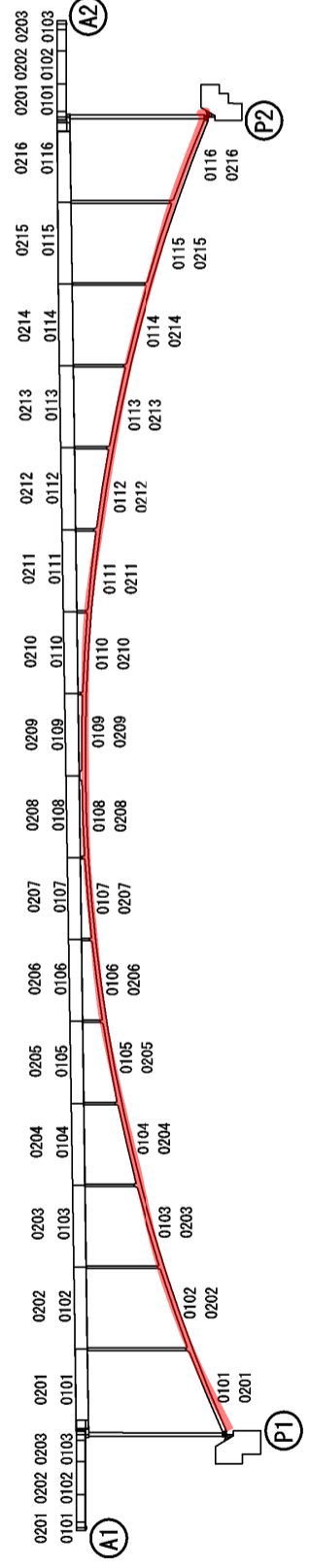
アーチリブ P1-P2

・第1案の塗替え方法に加え、雨水排水システムの改善を追加した案

横断面図



側面図 (部材番号)



塗替え計画 (案) 【第1案】高リスク・低LCC仕様

項目	ランガー桁部 P1-P2																	側径間部 P2-A2				摘要		
	01	02	03	04	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17		01	02
側径間桁・補剛桁部	格点(部材)番号																							
	横桁	塗装仕様																						(部材なし)
支柱部	上横構	塗装仕様																						(部材なし)
	格点上	塗装仕様																						(部材なし)
	支柱	塗装仕様																						(部材なし)
	格点下	塗装仕様																						(部材なし)
アーチリブ部	対傾構	塗装仕様																						(部材なし)
	格点上	塗装仕様																						(部材なし)
	支柱	塗装仕様																						(部材なし)
	格点下	塗装仕様																						(部材なし)
支承部	上横構	塗装仕様																						(部材なし)
	支承	塗装仕様																						(部材なし)
下流側	支承	塗装仕様																						(部材なし)
	支承	塗装仕様																						(部材なし)

・劣化状況に応じた最経済的な塗替え案

塗替え計画 (案) 【第2案】低リスク・高LCC仕様

項目	ランガー桁部 P1-P2																	側径間部 P2-A2				摘要		
	01	02	03	04	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17		01	02
側径間桁・補剛桁部	格点(部材)番号																							
	横桁	塗装仕様																						(部材なし)
支柱部	上横構	塗装仕様																						(部材なし)
	格点上	塗装仕様																						(部材なし)
	支柱	塗装仕様																						(部材なし)
	格点下	塗装仕様																						(部材なし)
アーチリブ部	対傾構	塗装仕様																						(部材なし)
	格点上	塗装仕様																						(部材なし)
	支柱	塗装仕様																						(部材なし)
	格点下	塗装仕様																						(部材なし)
支承部	上横構	塗装仕様																						(部材なし)
	支承	塗装仕様																						(部材なし)

・第1案の塗替え方法に加え、景観にも配慮して塗替え範囲を追加した案
・腐食し易い環境にある部位に対して、重防食塗装系により塗り替える案

塗替え計画 (案) 【第3案】中リスク・中LCC仕様

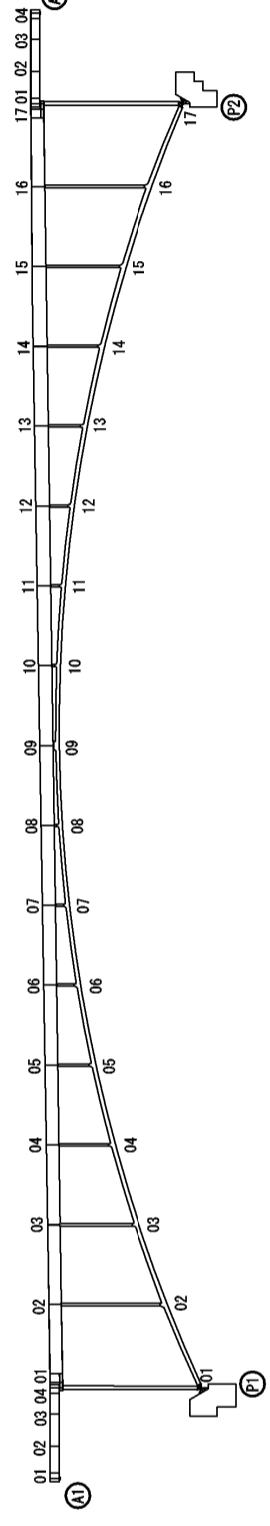
項目	ランガー桁部 P1-P2																	側径間部 P2-A2				摘要		
	01	02	03	04	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17		01	02
側径間桁・補剛桁部	格点(部材)番号																							
	横桁	塗装仕様																						(部材なし)
支柱部	上横構	塗装仕様																						(部材なし)
	格点上	塗装仕様																						(部材なし)
	支柱	塗装仕様																						(部材なし)
	格点下	塗装仕様																						(部材なし)
アーチリブ部	対傾構	塗装仕様																						(部材なし)
	格点上	塗装仕様																						(部材なし)
	支柱	塗装仕様																						(部材なし)
	格点下	塗装仕様																						(部材なし)
支承部	上横構	塗装仕様																						(部材なし)
	支承	塗装仕様																						(部材なし)

・第1案の塗替え方法に加え、雨水排水システムへの改善を追加した案

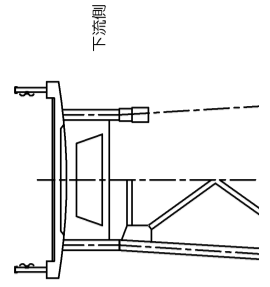
塗装仕様 凡例

- : 重防食塗装系により早急に塗替え実施
- : 一般塗装系により早めに塗替え実施
- : 経過観察
10年後を目途に一般塗装系で塗替え実施

側面図(格点番号)



横断面



猿飼橋 塗替え計画

塗替え計画 (案) 【第1案】高リスク・低LCC仕様

部材	部位	防食仕様	雨水排水システム 改善策、他	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
側 径 間 桁 ・ 補 剛 桁	桁端部、ゲルバー部	重防食塗装系	-	[Red bar from 10 to 60]									
	きれつ調査が必要な溶接部	一般塗装系	-	[Red bar from 10 to 55]									
側径間桁 一般部	ウェブ外側 下フランジ上・下面	経過観察 (一般塗装系)	-	[Red dashed bar from 10 to 65]									
	ウェブ内面	経過観察 (一般塗装系)	-	[Red dashed bar from 10 to 65]									
補剛桁 一般部	ウェブ外側 下フランジ上面	経過観察 (一般塗装系)	-	[Red dashed bar from 10 to 65]									
	ウェブ内側 下フランジ下面	経過観察 (一般塗装系)	-	[Red dashed bar from 10 to 65]									

部材	部位	防食仕様	雨水排水システム 改善策、他	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
アーチリブ	アーチリブ端部	重防食塗装系	-	[Blue bar from 10 to 60]									
	遅れ破壊調査が必要な HTB(FIT)継手部	一般塗装系	-	[Blue dashed bar from 10 to 55]									
アーチリブ 一般部	側面外側	経過観察 (一般塗装系)	-	[Blue dashed bar from 10 to 65]									
	側面内側	経過観察 (一般塗装系)	-	[Blue dashed bar from 10 to 65]									
	上面	経過観察 (一般塗装系)	-	[Blue dashed bar from 10 to 65]									
	下面	経過観察 (一般塗装系)	-	[Blue dashed bar from 10 to 65]									

部材	部位	防食仕様	雨水排水システム 改善策、他	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
そ の 他 部 材	横桁、上下横構	経過観察 (一般塗装系)	-	[Green dashed bar from 10 to 65]									
	端支柱格点	重防食塗装系	-	[Green bar from 10 to 70]									
支 柱 部	支柱・中間支柱格 点	経過観察 (一般塗装系)	-	[Green dashed bar from 10 to 65]									
	きれつ調査が必要 な格点の溶接部	一般塗装系	-	[Green dashed bar from 10 to 55]									
	対傾構	経過観察 (一般塗装系)	-	[Green dashed bar from 10 to 65]									
側径間桁支承、アーチリブ支承	一般塗装系	-	-	[Green bar from 10 to 55]									

備考	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
床 接 溶 接 部 遅 れ 破 壊 調 査 の 補 修 対 策 の 検 討										
全 面 大 破 壊 修 繕 の 検 討										

猿飼橋 塗替え計画

塗替え計画 (案) 【第2案】低リスク・高LCC仕様

部材	部位	防食仕様	雨水排水システム 改善策、他	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
側径間桁	桁端部、ゲルバー部	重防食塗装系	伸縮装置取替え	[Red solid line]									
	きれつ調査が必要な溶接部	一般塗装系		[Red dashed line]									
補剛桁	ウェーブ外側 下フランジ上・下面	一般塗装系	景観性配慮	[Red dashed line]									
	ウェーブ内側 一般部	経過観察 (一般塗装系)		[Red dashed line]									
補剛桁	ウェーブ外側 下フランジ上面	一般塗装系	景観性配慮	[Red dashed line]									
	ウェーブ内側 下フランジ下面	経過観察 (一般塗装系)		[Red dashed line]									

部材	部位	防食仕様	雨水排水システム 改善策、他	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
アーチリブ	アーチリブ端部	重防食塗装系	排水管改善	[Blue solid line]									
	遅れ破壊調査が必要な HTB(FIT)継手部	一般塗装系		[Blue dashed line]									
アーチリブ 一般部	側面外側	一般塗装系	景観性配慮	[Blue dashed line]									
	側面内側	一般塗装系	景観性配慮	[Blue dashed line]									
	上面	一般塗装系	景観性配慮	[Blue dashed line]									
	下面	経過観察 (一般塗装系)		[Blue dashed line]									

部材	部位	防食仕様	雨水排水システム 改善策、他	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
その他部材	横桁、上下横構	経過観察 (一般塗装系)		[Green dashed line]									
	端支柱格点	重防食塗装系	伸縮装置取替え 排水管改善	[Green solid line]									
支柱部	支柱・中間支柱格点	一般塗装系	景観性配慮	[Green dashed line]									
	きれつ調査が必要な格点の溶接部 対傾構	一般塗装系		[Green dashed line]									
側径間桁支承、アーチリブ支承	側径間桁支承	経過観察 (一般塗装系)		[Green dashed line]									
	アーチリブ支承	重防食塗装系	伸縮装置取替え 排水管改善	[Green solid line]									

備考	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
H T B 遅れ破壊調査 溶接部きれつ調査 床版の補修対策の 検討 全面修繕の検討 大規模修繕の検討										

猿飼橋 塗替え計画

塗替え計画 (案) 【第3案】中リスク・中LCC仕様

部材	景観性	防食仕様	雨水排水システム 改善策、他	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
側 径 間 桁 ・ 補 剛 桁	桁端部、ゲルバー部	一般塗装系	伸縮装置取替え	[Red bar from 10 to 50]									
	きれつ調査が必要な溶接部	一般塗装系		[Red bar from 10 to 55]									
側 径 間 桁 ・ 補 剛 桁	ウェブ外側 下フランジ上・下面	経過観察 (一般塗装系)		[Red bar from 10 to 65]									
	ウェブ内面	経過観察 (一般塗装系)		[Red bar from 10 to 65]									
側 径 間 桁 ・ 補 剛 桁	ウェブ外側 下フランジ上面	経過観察 (一般塗装系)		[Red bar from 10 to 65]									
	ウェブ内側 下フランジ下面	経過観察 (一般塗装系)		[Red bar from 10 to 65]									

部材	部位	防食仕様	雨水排水システム 改善策、他	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
ア ー チ リ ブ	アーチリブ端部	一般塗装系	排水管改善	[Blue bar from 10 to 40]										
	遅れ破壊調査が必要な HTB(FIT)継手部	一般塗装系		[Blue bar from 10 to 55]										
	ア ー チ リ ブ 一 般 部	側面外側	経過観察 (一般塗装系)		[Blue bar from 10 to 65]									
		側面内側	経過観察 (一般塗装系)		[Blue bar from 10 to 65]									
		上面	経過観察 (一般塗装系)		[Blue bar from 10 to 65]									
	下面	経過観察 (一般塗装系)		[Blue bar from 10 to 65]										

部材	部位	防食仕様	雨水排水システム 改善策、他	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
そ の 他 部 材	横桁、上下横構	経過観察 (一般塗装系)		[Green bar from 10 to 65]										
		一般塗装系	伸縮装置取替え 排水管改善	[Green bar from 10 to 50]										
	支 柱 部	支柱・中間支格 点	経過観察 (一般塗装系)		[Green bar from 10 to 65]									
		きれつ調査が必要 な格点の溶接部	一般塗装系		[Green bar from 10 to 55]									
		対傾構	経過観察 (一般塗装系)		[Green bar from 10 to 65]									
	側径間桁支承、アーチリブ支承	一般塗装系	伸縮装置取替え 排水管改善	[Green bar from 10 to 55]										

備考	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
床 接 溶 接 部 遅 れ 破 壊 調 査 の 補 修 対 策 の 検 討										
全 面 大 規 模 修 繕 の 検 討										

防食機能劣化・腐食状況の整理【アーチリブ】

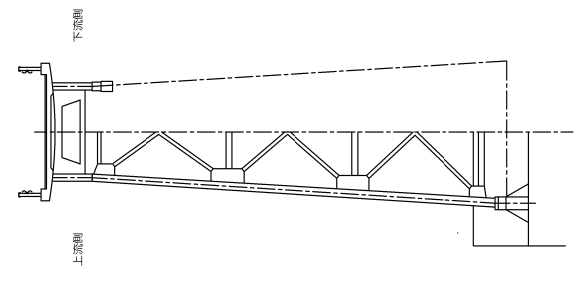
劣化状況パターン

項目		アーチリブ P1-P2																		
部材番号		0101	0102	0103	0104	0105	0106	0107	0108	0109	0110	0111	0112	0113	0114	0115	0116	端部		
上流側	側面外側	劣化状況	②	⑤	⑨	⑩	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	
	側面内側	劣化状況	②	⑤	⑨	⑩	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	
	上面	劣化状況	①	④	④	⑧	⑧	⑩	⑩	⑬	⑬	⑮	⑮	⑱	⑱	㉑	㉒	㉓	㉔	
	下面	劣化状況	⑤	⑪	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫
	部材番号	端部	0201	0202	0203	0204	0205	0206	0207	0208	0209	0210	0211	0212	0213	0214	0215	0216	端部	
下流側	側面外側	劣化状況	⑤	⑪	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	
	側面内側	劣化状況	⑤	⑪	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	
	上面	劣化状況	③	⑩	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	
	下面	劣化状況	⑤	⑪	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	
	部材番号	端部	0201	0202	0203	0204	0205	0206	0207	0208	0209	0210	0211	0212	0213	0214	0215	0216	端部	

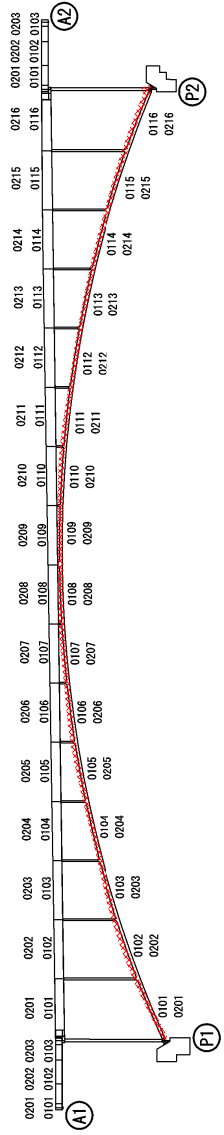
劣化状況 凡例

- : 全体的あるいは局部的に著しい腐食が発生している。
- : 全体的な防食機能の劣化と軽微な腐食がみられる。
- : 全体的に防食機能の劣化が進行している。
- : 全体的に防食機能の劣化がみられるが軽微である。

横断面図



側面図(部材番号)

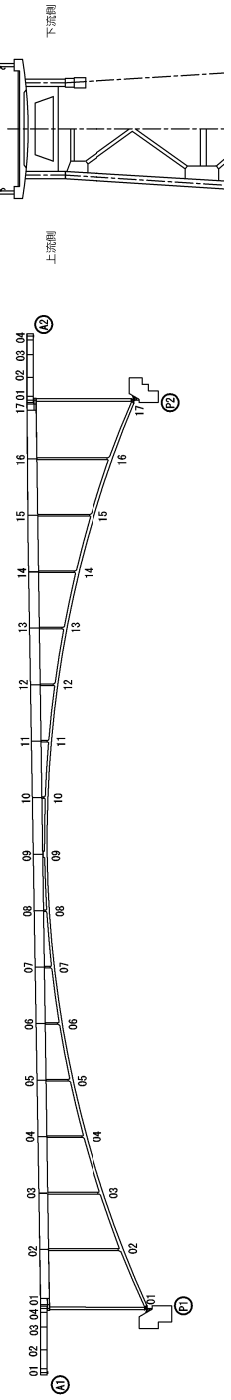


防食機能劣化・腐食状況の整理【その他】

劣化状況パターン

項目		側径間部 AI-P1				ランガー桁部 P1-P2											側径間部 P2-A2									
部材番号		01	02	03	04	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	01	02	03	04
側径間桁 補助桁部	劣化状況 パターン番号	①	②			①	①					②										①	①	②		
	劣化状況 パターン番号					③						④										③				
上流側	劣化状況 パターン番号					④	⑥	⑩	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	④				
	劣化状況 パターン番号					①	②					③									②	②	①			
	劣化状況 パターン番号					⑤				⑦				⑪					⑦			②	②			
	劣化状況 パターン番号					①	②			③						③				②		①				
支柱部	劣化状況 パターン番号					①	⑥	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	④				
	劣化状況 パターン番号					①	②													②		①				
	劣化状況 パターン番号					⑤				⑦				⑪					⑦			②	②			
	劣化状況 パターン番号					①	⑥	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	④					
下流側	劣化状況 パターン番号					①	②													②		①				
	劣化状況 パターン番号					⑤				⑦				⑪					⑦			③	②			
	劣化状況 パターン番号					①	②													②		①				
	劣化状況 パターン番号					①	②														①		①			
アーチリブ部	劣化状況 パターン番号					①	②															①				
	劣化状況 パターン番号					③																①	③	②		
支承部	劣化状況 パターン番号					③																①	③	②		
	劣化状況 パターン番号					③																①	③	②		

側面図(格点番号)



劣化状況 凡例

- : 全体的あるいは局部的に著しい腐食が発生している。
- : 全体的な防食機能の劣化と軽微な腐食がみられる。
- : 全体的に防食機能の劣化が進行している。
- : 全体的に防食機能の劣化がみられるが軽微である。

防食機能劣化・腐食状況の整理

■ 側径間桁・補剛桁（上流側）

部位	項目	側径間桁A1-P1										補剛桁P1-P2										側径間桁P2-A2									
		端部	0101	0102	0103	ゲルバー一部	0101	0102	0103	0104	0105	0106	0107	0108	0109	0110	0111	0112	0113	0114	0115	0116	ゲルバー一部	0101	0102	0103	端部				
ウェーブ面 (外側)	現在の劣化状況	バターン番号	2	10	19	12	4	6	12	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	12	6	4	12	25	10	2			
		全体防食機能の劣化と軽微な腐食がみられる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	防食に関わる要因	全体防食機能の劣化が進行している	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		全体防食機能の劣化が軽微である	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	塗替え時期	鉄外縁に早期の塗替えが必要	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		部分的に塗替えが望ましい	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	構造改善の余地	経路幅狭が可能	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		排水処理の雨水が部材に影響しているため、改善の余地がある	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	き裂調査等の必要性	伸縮縫からの漏水が部材に影響しているため、改善の余地がある	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		疲労き裂調査の必要がある箇所を含んでいる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ウェーブ面 (内側)	現在の劣化状況	バターン番号	22	27	27	23	16	22	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	22	22	27	27	23	16				
		全体防食機能の劣化と軽微な腐食がみられる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	防食に関わる要因	全体防食機能の劣化が進行している	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		全体防食機能の劣化が軽微である	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	塗替え時期	鉄外縁に早期の塗替えが必要	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		部分的に塗替えが望ましい	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	構造改善の余地	経路幅狭が可能	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		排水処理の雨水が部材に影響しているため、改善の余地がある	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	き裂調査等の必要性	伸縮縫からの漏水が部材に影響しているため、改善の余地がある	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		疲労き裂調査の必要がある箇所を含んでいる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
下フランジ (上面)	現在の劣化状況	バターン番号	1	9	18	11	3	3	11	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	11	3	3	11	24	9	1			
		全体防食機能の劣化と軽微な腐食がみられる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	防食に関わる要因	全体防食機能の劣化が進行している	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		全体防食機能の劣化が軽微である	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	塗替え時期	鉄外縁に早期の塗替えが必要	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		部分的に塗替えが望ましい	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	構造改善の余地	経路幅狭が可能	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		排水処理の雨水が部材に影響しているため、改善の余地がある	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	き裂調査等の必要性	伸縮縫からの漏水が部材に影響しているため、改善の余地がある	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		疲労き裂調査の必要がある箇所を含んでいる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
下フランジ (下面)	現在の劣化状況	バターン番号	7	10	26	20	14	17	20	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	20	17	8	13	26	10	7			
		全体防食機能の劣化と軽微な腐食がみられる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	防食に関わる要因	全体防食機能の劣化が進行している	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		全体防食機能の劣化が軽微である	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	塗替え時期	鉄外縁に早期の塗替えが必要	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		部分的に塗替えが望ましい	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	構造改善の余地	経路幅狭が可能	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		排水処理の雨水が部材に影響しているため、改善の余地がある	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	き裂調査等の必要性	伸縮縫からの漏水が部材に影響しているため、改善の余地がある	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		疲労き裂調査の必要がある箇所を含んでいる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		

防食機能劣化・腐食状況の整理

■アーチリブ (下流側)

部位	項目	アーチリブ P1-P2															
		0201	0202	0203	0204	0205	0206	0207	0208	0209	0210	0211	0212	0213	0214	0215	0216
上面	現在の劣化状況	③	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	防食に関わる要因	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	塗替え時期	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	構造改善の余地	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	き裂調査等の必要性	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
下面	現在の劣化状況	⑤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	防食に関わる要因	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	塗替え時期	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	構造改善の余地	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	き裂調査等の必要性	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
側面 (内側)	現在の劣化状況	⑤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	防食に関わる要因	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	塗替え時期	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	構造改善の余地	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	き裂調査等の必要性	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
側面 (外側)	現在の劣化状況	⑤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	防食に関わる要因	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	塗替え時期	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	構造改善の余地	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	き裂調査等の必要性	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

防食機能劣化・腐食状況の整理

■ 支柱・格点 (上流側)

部位	項目	格点上 P1-P2																
		0101	0102	0103	0104	0105	0106	0107	0108	0109	0110	0111	0112	0113	0114	0115	0116	0117
格点上	現在の劣化状況	④	⑥	⑩	⑥	⑧	⑧	⑧	⑧	⑩	⑧	⑥	⑧	⑥	⑧	⑥	④	
	防食に関わる要因	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	塗替え時期	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	構造改善の余地	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	き裂調査等の必要性	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	項目	格点上 P1-P2																
	パターン番号	全体的あるいは局部的に新しい腐食が発生している 全体的防食機能の劣化と腐食が認められる 全体的に防食機能の劣化が進行している 全体的に防食機能が認められるが腐蝕である 梁外線により防食機能が影響を受けている 地形条件から目付が当りにくく、溜溜の影響を受けている 部材の特性から風が当りにくく、乾燥しにくい 雨水等が滞水しやすい構造 全体的に早期の塗替えが必要 部分的に塗替えることが望ましい 経過観察が可能 排水処理の雨水が部材に影響しているため、改善の余地がある 伸縮装置からの漏水が部材に影響しているため、改善の余地がある 疲労き裂調査の必要がある溶接箇所を含んでいる F11ボルトの選れ破壊調査が必要な箇所を含んでいる																

部位	項目	支柱 P1-P2																
		0101	0102	0103	0104	0105	0106	0107	0108	0109	0110	0111	0112	0113	0114	0115	0116	0117
支柱	現在の劣化状況	①	②	②	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	②	①	
	防食に関わる要因	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	塗替え時期	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	構造改善の余地	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	き裂調査等の必要性	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	項目	支柱 P1-P2																
	パターン番号	全体的あるいは局部的に新しい腐食が発生している 全体的防食機能の劣化と腐食が認められる 全体的に防食機能が認められるが腐蝕である 全体的に防食機能が認められるが腐蝕である 梁外線により防食機能が影響を受けている 地形条件から目付が当りにくく、溜溜の影響を受けている 部材の特性から風が当りにくく、乾燥しにくい 雨水等が滞水しやすい構造 全体的に早期の塗替えが必要 部分的に塗替えることが望ましい 経過観察が可能 排水処理の雨水が部材に影響しているため、改善の余地がある 伸縮装置からの漏水が部材に影響しているため、改善の余地がある 疲労き裂調査の必要がある溶接箇所を含んでいる F11ボルトの選れ破壊調査が必要な箇所を含んでいる																

部位	項目	格点下 P1-P2																
		0201	0202	0203	0204	0205	0206	0207	0208	0209	0210	0211	0212	0213	0214	0215	0216	0217
格点下	現在の劣化状況	⑤	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	②
	防食に関わる要因	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	塗替え時期	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	構造改善の余地	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	き裂調査等の必要性	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	項目	格点下 P1-P2																
	パターン番号	全体的あるいは局部的に新しい腐食が発生している 全体的防食機能の劣化と腐食が認められる 全体的に防食機能が進行している 全体的に防食機能が認められるが腐蝕である 梁外線により防食機能が影響を受けている 地形条件から目付が当りにくく、溜溜の影響を受けている 部材の特性から風が当りにくく、乾燥しにくい 雨水等が滞水しやすい構造 全体的に早期の塗替えが必要 部分的に塗替えることが望ましい 経過観察が可能 排水処理の雨水が部材に影響しているため、改善の余地がある 伸縮装置からの漏水が部材に影響しているため、改善の余地がある 疲労き裂調査の必要がある溶接箇所を含んでいる F11ボルトの選れ破壊調査が必要な箇所を含んでいる																

防食機能劣化・腐食状況の整理

■ 支柱・格点 (下流側)

部位	項目	格点上 P1-P2																
		0301	0302	0303	0304	0305	0306	0307	0308	0309	0310	0311	0312	0313	0314	0315	0316	0317
格点上	現在の劣化状況	①	⑥	⑧	⑥	⑧	⑧	⑥	⑥	⑩	⑧	⑧	⑥	⑧	⑥	⑧	⑥	④
	防食に関わる要因	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	塗替え時期	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	構造改善の余地	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	き裂調査等の必要性	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

部位	項目	支柱 P1-P2																
		0201	0202	0203	0204	0205	0206	0207	0208	0209	0210	0211	0212	0213	0214	0215	0216	0217
支柱	現在の劣化状況	①	②	②	②	②	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	①
	防食に関わる要因	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	塗替え時期	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	構造改善の余地	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	き裂調査等の必要性	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

部位	項目	格点下 P1-P2																
		0401	0402	0403	0404	0405	0406	0407	0408	0409	0410	0411	0412	0413	0414	0415	0416	0417
格点下	現在の劣化状況	⑤	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑨	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	②
	防食に関わる要因	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	塗替え時期	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	構造改善の余地	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	き裂調査等の必要性	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

防食機能劣化・腐食状況の整理

■横桁

部位	項目	側径間桁横桁 A1-P1										補間桁横桁 P1-P2										側径間桁横桁 P2-A2									
		0101	0102	0103	0104	0101	0102	0103	0104	0105	0106	0107	0108	0109	0110	0111	0112	0113	0114	0115	0116	0117	0101	0102	0103	0104					
現在の劣化状況	パターン番号	①	②	②	①	①	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	①	①	②	②						
	全体的な防食機能の劣化と軽微な腐食がみられる																														
防食に関わる要因	全体的に防食機能の劣化が進行している																														
	全体的に防食機能の劣化がみられるが軽微である																														
塗替え時期	素外線より防食機能が影響を受けている																														
	地形条件から日射が当りにくく遮覆の影響を受けている																														
構造改善の余地	部材の特性から風が当りにくく、乾燥しにくい																														
	雨水等が漏水しやすい構造																														
き裂調査等の必要性	全体的に早期の塗替えが必要																														
	部分的に塗替えが望ましい																														
	経過観察が可能																														
	排水処理の雨水が部材に影響しているため、改善の余地がある。																														
	伸縮装置からの漏水が部材に影響しているため、改善の余地がある																														
	疲労き裂調査の必要がある溶接箇所を含んでいる																														
	F11ボルトの選れ破損調査が必要な箇所を含んでいる																														

■上横構

部位	項目	側径間 A1-P1										上横構 P1-P2										側径間 P2-A2										
		0101	0102	0103	0104	0105	0106	0107	0108	0109	0110	0111	0112	0113	0114	0115	0116	0101	0102	0103	0104	0105	0106	0107	0108	0109	0110	0111	0112	0113	0114	0115
現在の劣化状況	パターン番号	③	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④
	全体的な防食機能の劣化と軽微な腐食がみられる																															
防食に関わる要因	全体的に防食機能の劣化が進行している																															
	全体的に防食機能の劣化がみられるが軽微である																															
塗替え時期	素外線より防食機能が影響を受けている																															
	地形条件から日射が当りにくく、乾燥しにくい																															
構造改善の余地	雨水等が漏水しやすい構造																															
	経過観察が可能																															
き裂調査等の必要性	排水処理の雨水が部材に影響しているため、改善の余地がある。																															
	伸縮装置からの漏水が部材に影響しているため、改善の余地がある																															
	疲労き裂調査の必要がある溶接箇所を含んでいる																															
	F11ボルトの選れ破損調査が必要な箇所を含んでいる																															

■下横構

部位	項目	側径間 A1-P1										下横構 P1-P2										側径間 P2-A2										
		0101	0102	0103	0104	0105	0106	0107	0108	0109	0110	0111	0112	0113	0114	0115	0116	0101	0102	0103	0104	0105	0106	0107	0108	0109	0110	0111	0112	0113	0114	0115
現在の劣化状況	パターン番号	①	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
	全体的な防食機能の劣化と軽微な腐食がみられる																															
防食に関わる要因	全体的に防食機能の劣化が進行している																															
	全体的に防食機能の劣化がみられるが軽微である																															
塗替え時期	素外線より防食機能が影響を受けている																															
	地形条件から日射が当りにくく、乾燥しにくい																															
構造改善の余地	雨水等が漏水しやすい構造																															
	経過観察が可能																															
き裂調査等の必要性	排水処理の雨水が部材に影響しているため、改善の余地がある。																															
	伸縮装置からの漏水が部材に影響しているため、改善の余地がある																															
	疲労き裂調査の必要がある溶接箇所を含んでいる																															
	F11ボルトの選れ破損調査が必要な箇所を含んでいる																															

防食機能劣化・腐食状況の整理

■対傾構

部位	項目	対傾構 P1-P2										御径間 P2-A2			
		0101	0102	0103	0104	0105	0106	0112	0113	0114	0115	0116	0117		
現在の劣化状況	パターンの番号	X													
	全体的あるいは局部的に著しい腐食が発生している 全体的な防食機能の劣化と軽微な腐食がみられる 全体的に防食機能の劣化が進行している 全体的に防食機能の劣化がみられるが軽微である														
防食に関わる要因	素外線により防食機能が影響を受けている 地形条件から日射が当りにくく遮覆の影響を受けている 部材の特性から風が当りにくく、乾燥しにくい 雨水等が濡れしやすい構造	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	塗替え時期	全体的に早期の塗替えが必要 部分的に塗替えことが望ましい 経過観察が可能	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
構造改善の余地	排水処理の雨水が部材に影響しているため、改善の余地がある。 伸縮装置からの漏水が部材に影響しているため、改善の余地がある 疲労き裂調査の必要がある溶接箇所を含んでいる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	き裂調査等の必要性	F11ボルトの選れ破壊調査が必要な箇所を含んでいる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

■支承（上流側）

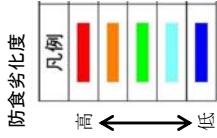
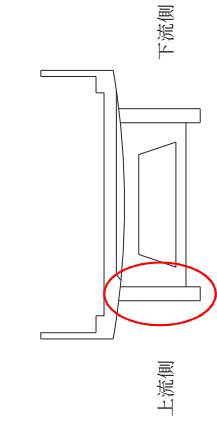
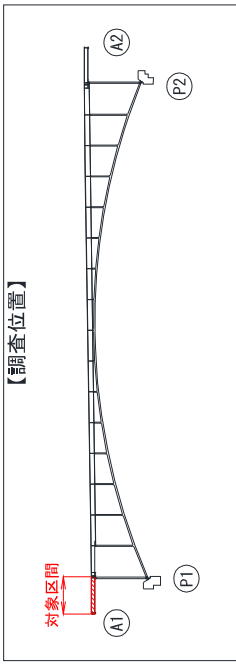
部位	項目	アーチリブ支承 P1-P2										御径間桁支承 P2-A2			
		0101	0102	0101	0102	0101	0102	0101	0102	0101	0102	0101	0102		
現在の劣化状況	パターンの番号	X													
	全体的あるいは局部的に著しい腐食が発生している 全体的な防食機能の劣化と軽微な腐食がみられる 全体的に防食機能の劣化が進行している 全体的に防食機能の劣化がみられるが軽微である														
防食に関わる要因	素外線により防食機能が影響を受けている 地形条件から日射が当りにくく遮覆の影響を受けている 部材の特性から風が当りにくく、乾燥しにくい 雨水等が濡れしやすい構造	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	塗替え時期	全体的に早期の塗替えが必要 部分的に塗替えことが望ましい 経過観察が可能	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
構造改善の余地	排水処理の雨水が部材に影響しているため、改善の余地がある。 伸縮装置からの漏水が部材に影響しているため、改善の余地がある 疲労き裂調査の必要がある溶接箇所を含んでいる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	き裂調査等の必要性	F11ボルトの選れ破壊調査が必要な箇所を含んでいる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

■支承（下流側）

部位	項目	アーチリブ支承 P1-P2										御径間桁支承 P2-A2			
		0101	0102	0101	0102	0101	0102	0101	0102	0101	0102	0101	0102		
現在の劣化状況	パターンの番号	X													
	全体的あるいは局部的に著しい腐食が発生している 全体的な防食機能の劣化と軽微な腐食がみられる 全体的に防食機能の劣化が進行している 全体的に防食機能の劣化がみられるが軽微である														
防食に関わる要因	素外線により防食機能が影響を受けている 地形条件から日射が当りにくく遮覆の影響を受けている 部材の特性から風が当りにくく、乾燥しにくい 雨水等が濡れしやすい構造	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	塗替え時期	全体的に早期の塗替えが必要 部分的に塗替えことが望ましい 経過観察が可能	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
構造改善の余地	排水処理の雨水が部材に影響しているため、改善の余地がある。 伸縮装置からの漏水が部材に影響しているため、改善の余地がある 疲労き裂調査の必要がある溶接箇所を含んでいる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	き裂調査等の必要性	F11ボルトの選れ破壊調査が必要な箇所を含んでいる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

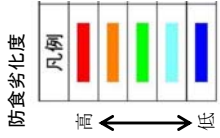
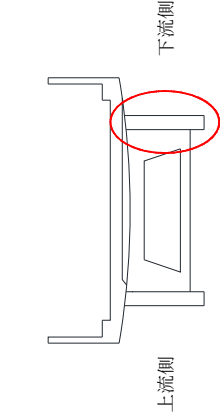
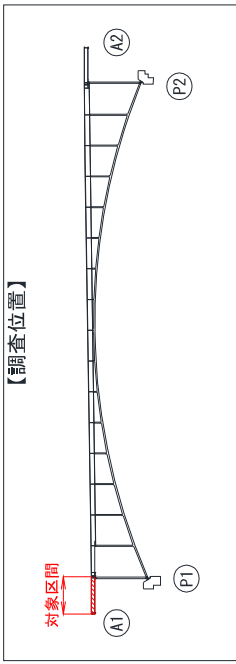
■ 側径間桁A1-P1 (上流側)



防食劣化度	主桁 O103				劣化状況・劣化原因等	塗装仕様	塗装時期	劣化状況および劣化原因・腐食環境	部位	塗装仕様	塗装時期	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様	塗装時期
高	ウェブ面(外側)				劣化状況および劣化原因・腐食環境など ・全体的な防食機能劣化と桁端部下端に軽微な腐食が見られる。 ・主に伸縮装置からの漏水が原因で、その他、風通しの悪さによる夾隘部の異常的な湿潤状態が考えられる。 ・漏水対策を行わない場合は、今後腐食の進行は一層速まると考えられる。また、亀裂の懸念されるゲルパパー部を有しており、出来るだけ腐食環境を改善することが望ましい。	重防食系			ウェブ面(外側)	重防食系			重防食系	
中	ウェブ面(内側)					伸縮装置を取替えても風通しの悪さは改善されないため、早めの塗替えを行うことが望ましい。(部分塗替え)			ウェブ面(内側)	一般塗装系			一般塗装系	
中	下フランジ上面					当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。			下フランジ上面	重防食系			重防食系	
低	下フランジ下面					・早期の塗替えが望まれる。(部分塗替え)			下フランジ下面	重防食系			重防食系	
高	下フランジ上面				全体的にマイルドな環境に応じた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けにくい。また、多少の湿潤環境ではあるが、今後劣化の進行は鈍いと考えられる。疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性はある。桁端部に軽微な腐食が見られる。 ・主な原因は伸縮装置からの漏水や風通しの悪さであり、放置すると考えられる。	重防食系			下フランジ上面	重防食系			重防食系	
中	下フランジ下面				桁端部の補剛桁側受台に挟まれた部分で軽微な腐食の進行が見られる。 ・主な原因は伸縮装置からの漏水や風通しの悪さであり、放置すると今後劣化の進行は速まると考えられる。	重防食系			下フランジ下面	重防食系			重防食系	
写真														

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

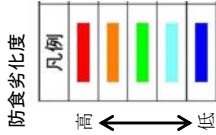
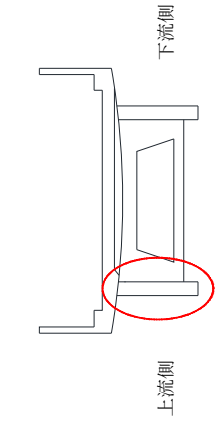
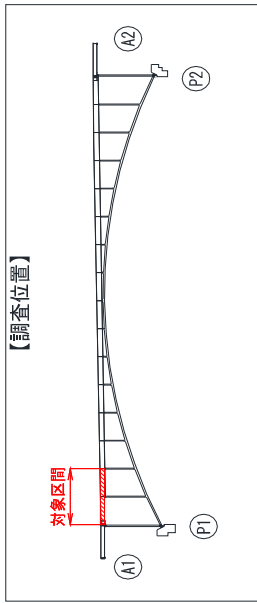
■ 側径間桁A1-P1 (下流側)



主桁 0201		主桁 0202	
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境など	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様
ウェブ面 (内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に於いた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けないため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性が有る塗膜剥れに留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に於いた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けなため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性が有る塗膜剥れに留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や電裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。
ウェブ面 (外側)	<ul style="list-style-type: none"> 主たる伸縮装置からの漏水が原因で、その他、法面に繁茂する樹木の影響による風通しの悪さが考えられる。 上フランジにも漏水の影響による腐食が確認できると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化がみられるが軽微である。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 また、南面に面していることから、北面より乾燥しやすい。 経年に応じたマイルドな劣化進行を今後示すと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。
下フランジ上面	<ul style="list-style-type: none"> 桁端部に腐食が見られるが、北面より日当たりが良いことから、北面の上流側主桁より腐食は軽微である。 主な原因は紫外線からの漏水や風通しの悪さに起因する湿潤状態であり、放置しておくことと今後劣化の進行は速まると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 南面に面しているため乾燥しやすいことが考えられる。 経年に応じたマイルドな劣化進行を今後示すと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。
下フランジ下面	<ul style="list-style-type: none"> 桁端部の橋座に挟まれた部分で軽微な腐食の進行が見られる。 主な原因は伸縮装置からの漏水や風通しの悪さであり、放置すると今後劣化の進行は速まると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 南面に面している分、北面の下フランジよりは乾燥しやすく劣化程度が軽微である。 桁端部とは異なる、下フランジ下面はオープンで風通しがよく、直射日光も当たらないため紫外線による経年劣化進行も鈍いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。
防食劣化度	△	△	
劣化状況・劣化原因等			
写真			

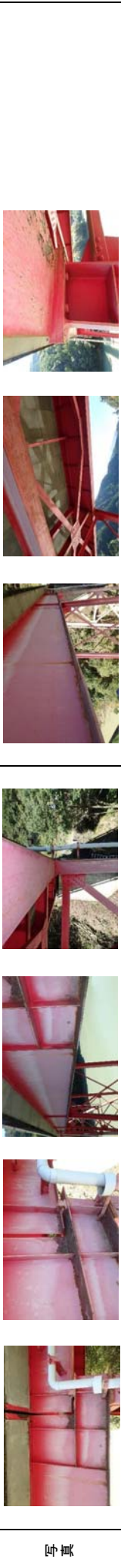
各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ 中央径間桁P1-P2(上流側)



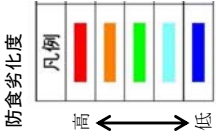
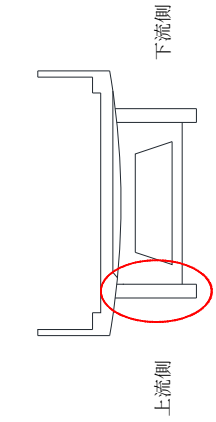
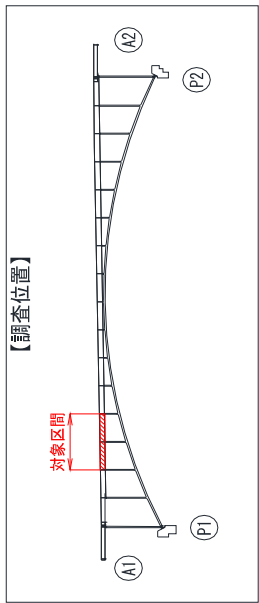
防食劣化度	ウェブ面(外側)	高
	ウェブ面(内側)	高
	下フランジ上面	低
	下フランジ下面	低

補剛桁 0102			
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様	塗装時期
ウェブ面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に於いて軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 ウェブ下端に恒常的な滞水・湿潤による軽微な部分的な腐食が確認できているが、北に面していることもあり、南面より湿潤の継続時間が長いことも劣化を促進している要因と考えられる。 	重防食系	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には当面経過観察としてよいが、腐食がこれ以上進行しないよう、部分的に早めの塗替えを行うことが望ましい。
ウェブ面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に於いて軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けないため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。
下フランジ上面	<ul style="list-style-type: none"> ガルバー部に顕著な腐食が見られる。 主な原因は伸縮装置からの漏水や風通しの悪さであり、放置しておくことと、今後劣化の進行は速まると考えられる。 	重防食系	<ul style="list-style-type: none"> ガルバー部は重要な部位であり、早めの塗替えが望まれる。 (部分塗替え)
下フランジ下面	<ul style="list-style-type: none"> ガルバー部に顕著な腐食が見られる。 主な原因は伸縮装置からの漏水や風通しの悪さであり、放置しておくことと、今後劣化の進行は速まると考えられる。 伸縮装置からの漏水を放置すると、今後劣化の進行は速まると考えられるため、伸縮装置の取替えが望ましい。 	重防食系	<ul style="list-style-type: none"> 早めの塗替えが望まれる。 (部分塗替え)



各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

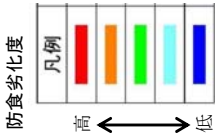
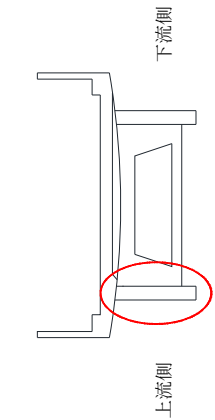
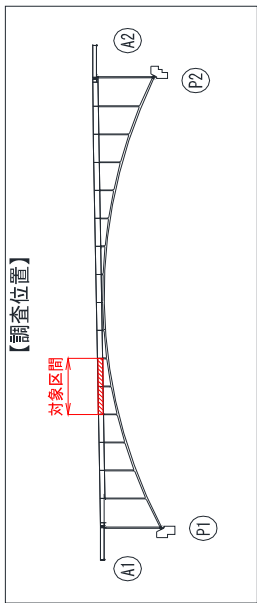
■ 中央径間桁P1-P2(上流側)



防食劣化度		補剛桁 0103		補剛桁 0104	
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様	塗装仕様
ウェーブ面 (外側)	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にマイルドな環境に於いて軽微な劣化が見られる程度である。 ・張出し床版からの広い水が腐食を促進する可能性があるため、地覆補修の際に適切な水切りを設置することも有効と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にマイルドな環境に於いて軽微な劣化が見られる程度である。 ・床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けないため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 ・疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性が有る塗膜剥れに留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にマイルドな環境に於いて軽微な劣化が見られる程度である。 ・ウェーブ下端に恒常的な滞水・湿潤の影響による点蝕が散見され、北に面しているため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いとされている要因と考えられる。 	一般塗装系	一般塗装系
ウェーブ面 (内側)	<ul style="list-style-type: none"> ・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系	一般塗装系
下フランジ上面				一般塗装系	一般塗装系
下フランジ下面				一般塗装系	一般塗装系
補剛桁 0103					
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様	塗装仕様
ウェーブ面 (外側)	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にマイルドな環境に於いて軽微な劣化が見られる程度である。 ・張出し床版からの広い水が腐食を促進する可能性があるため、地覆補修の際に適切な水切りを設置することも有効と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にマイルドな環境に於いて軽微な劣化が見られる程度である。 ・床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けないため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 ・疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性が有る塗膜剥れに留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にマイルドな環境に於いて軽微な劣化が見られる程度である。 ・ウェーブ下端に恒常的な滞水・湿潤の影響による点蝕が散見され、北に面しているため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いとされている要因と考えられる。 	一般塗装系	一般塗装系
ウェーブ面 (内側)	<ul style="list-style-type: none"> ・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系	一般塗装系
下フランジ上面				一般塗装系	一般塗装系
下フランジ下面				一般塗装系	一般塗装系
補剛桁 0104					
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様	塗装仕様
ウェーブ面 (外側)	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にマイルドな環境に於いて軽微な劣化が見られる程度である。 ・ウェーブ下端に恒常的な滞水・湿潤の影響による点蝕が散見され、北に面しているため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いとされている要因と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にマイルドな環境に於いて軽微な劣化が見られる程度である。 ・床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けないため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いとされている要因と考えられる。 ・疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性が有る塗膜剥れに留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にマイルドな環境に於いて軽微な劣化が見られる程度である。 ・ウェーブ下端に恒常的な滞水・湿潤の影響による点蝕が散見され、北に面しているため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いとされている要因と考えられる。 	一般塗装系	一般塗装系
ウェーブ面 (内側)	<ul style="list-style-type: none"> ・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系	一般塗装系
下フランジ上面				一般塗装系	一般塗装系
下フランジ下面				一般塗装系	一般塗装系
補剛桁 0104					
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様	塗装仕様
下フランジ上面	<ul style="list-style-type: none"> ・下フランジ下面はオープン環境であり風通しがよいため、防食機能の劣化も軽微である。 ・今後も劣化の進行は遅いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下フランジ下面はオープン環境であり風通しがよいため、防食機能の劣化も軽微である。 ・今後も劣化の進行は遅いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下フランジ下面はオープン環境であり風通しがよいため、防食機能の劣化も軽微である。 ・今後も劣化の進行は遅いと考えられる。 	一般塗装系	一般塗装系
下フランジ下面				一般塗装系	一般塗装系
写真					

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

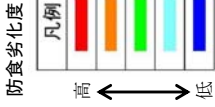
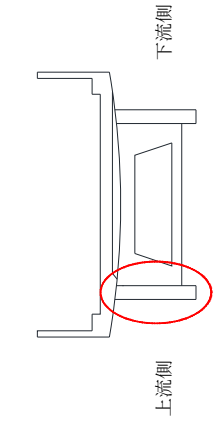
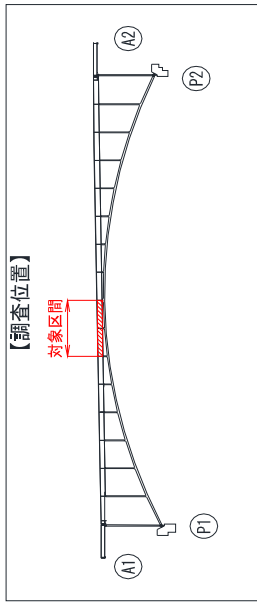
■ 中央径間桁P1-P2(上流側)



防食劣化度		補剛桁 0105		補剛桁 0106	
部位	劣化状況・劣化原因等	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様	塗装仕様
ウェーブ面(外側)		<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にマイルドな環境に於いた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 ・ウェーブ下端に恒常的な滞水・湿潤の影響による点蝕が散見され、北に面していることにより、南面より湿潤の継続時間が長いことも劣化を促進している要因と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にマイルドな環境に於いた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 ・ウェーブ下端に恒常的な滞水・湿潤の影響による点蝕が散見され、北に面していることにより、南面より湿潤の継続時間が長いことも劣化を促進している要因と考えられる。 	一般塗装系	一般塗装系
ウェーブ面(内側)		<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にマイルドな環境に於いた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 ・床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けないため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 ・疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にマイルドな環境に於いた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 ・床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けないため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 ・疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性が大きい。 	一般塗装系	一般塗装系
下フランジ上面		<ul style="list-style-type: none"> ・日射が弱い北面の影響もあり、恒常的な滞水・湿潤による軽微な腐食がウェーブとの付け根部分に確認できる。 ・放置しておくことと腐食が進行する可能性はあるが、マイルドな環境から進行速度は遅いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日射が弱い北面の影響もあり、恒常的な滞水・湿潤による軽微な腐食がウェーブとの付け根部分に確認できる。 ・放置しておくことと腐食が進行する可能性はあるが、マイルドな環境から進行速度は遅いと考えられる。 	一般塗装系	一般塗装系
下フランジ下面		<ul style="list-style-type: none"> ・下フランジ下面はオープン環境であり風通しがよいため、防食機能の劣化も軽微である。 ・今後も劣化の進行は遅いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下フランジ下面はオープン環境であり風通しがよいため、防食機能の劣化も軽微である。 ・今後も劣化の進行は遅いと考えられる。 	一般塗装系	一般塗装系
	写真				

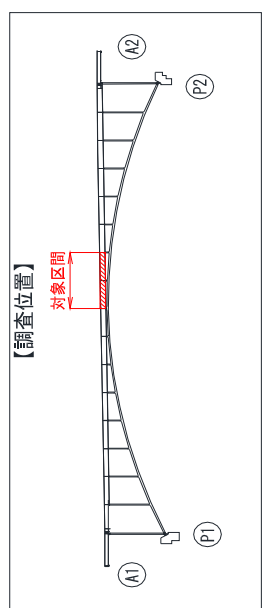
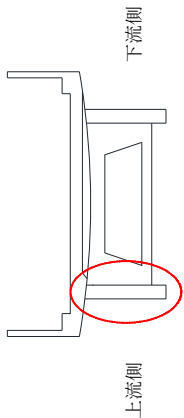
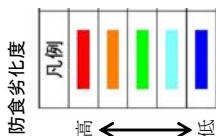
各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ 中央径間桁P1-P2(上流側)



防食劣化度		補剛桁 0108		補剛桁 0107	
劣化状況・劣化原因等	劣化状況	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況	劣化状況
ウエブ面(外側)	ウエブ面(外側)	ウエブ面(外側)	ウエブ面(外側)	ウエブ面(外側)	ウエブ面(外側)
ウエブ面(内側)	ウエブ面(内側)	ウエブ面(内側)	ウエブ面(内側)	ウエブ面(内側)	ウエブ面(内側)
下フランジ上面	下フランジ上面	下フランジ上面	下フランジ上面	下フランジ上面	下フランジ上面
下フランジ下面	下フランジ下面	下フランジ下面	下フランジ下面	下フランジ下面	下フランジ下面
劣化状況・劣化原因等	劣化状況	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況	劣化状況
ウエブ面(外側)	ウエブ面(外側)	ウエブ面(外側)	ウエブ面(外側)	ウエブ面(外側)	ウエブ面(外側)
ウエブ面(内側)	ウエブ面(内側)	ウエブ面(内側)	ウエブ面(内側)	ウエブ面(内側)	ウエブ面(内側)
下フランジ上面	下フランジ上面	下フランジ上面	下フランジ上面	下フランジ上面	下フランジ上面
下フランジ下面	下フランジ下面	下フランジ下面	下フランジ下面	下フランジ下面	下フランジ下面
写真	写真	写真	写真	写真	写真

■ 中央径間桁P1-P2(上流側)



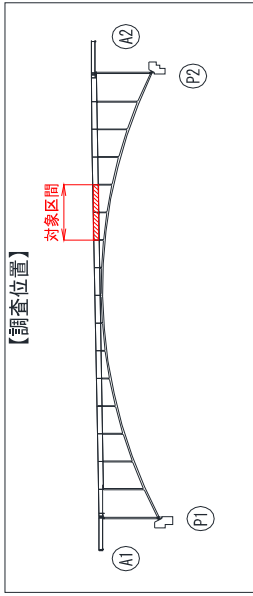
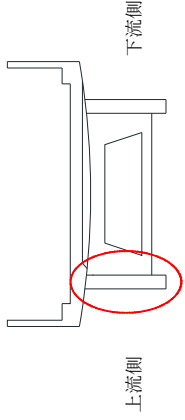
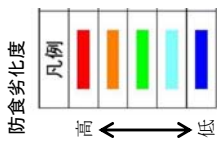
防食劣化度	ウェブ面(外側)						
	ウェブ面(内側)						
	下フランジ上面						
	下フランジ下面						

補剛桁 O109							
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様	塗装仕様	塗装時期	塗装時期	塗装仕様
ウェブ面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に比べて軽微な劣化が見られる程度である。 ウェブ下端に恒常的な滞水・湿潤の影響による点蝕が散見され、北に面していることもあり、南面より湿潤の継続時間が長いことも劣化を促進している要因と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に比べて軽微な劣化が見られる程度である。 ウェブ下端に恒常的な滞水・湿潤の影響による点蝕が散見され、北に面していることもあり、南面より湿潤の継続時間が長いことも劣化を促進している要因と考えられる。 	一般塗装系	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系
ウェブ面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に比べて軽微な劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けないため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に比べて軽微な劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けなため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある。 	一般塗装系	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系
下フランジ上面	<ul style="list-style-type: none"> 下フランジ下面はアーチリブが接近していることから少し風通しが悪い。そのため、防食機能の劣化も軽微であるが他の下フランジよりは若干進んでいる。 今後も劣化の進行は遅いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 下フランジ下面はアーチリブが接近していることから少し風通しが悪い。そのため、防食機能の劣化も軽微であるが他の下フランジよりは若干進んでいる。 今後も劣化の進行は遅いと考えられる。 	一般塗装系	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系
下フランジ下面	<ul style="list-style-type: none"> 下フランジ下面はアーチリブが接近していることから少し風通しが悪い。そのため、防食機能の劣化も軽微であるが他の下フランジよりは若干進んでいる。 今後も劣化の進行は遅いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 下フランジ下面はアーチリブが接近していることから少し風通しが悪い。そのため、防食機能の劣化も軽微であるが他の下フランジよりは若干進んでいる。 今後も劣化の進行は遅いと考えられる。 	一般塗装系	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系



写真

■ 中央径間桁P1-P2(上流側)

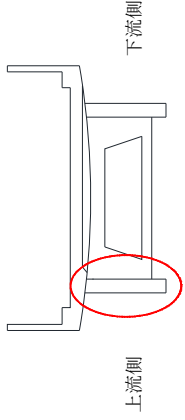
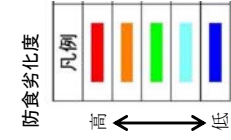
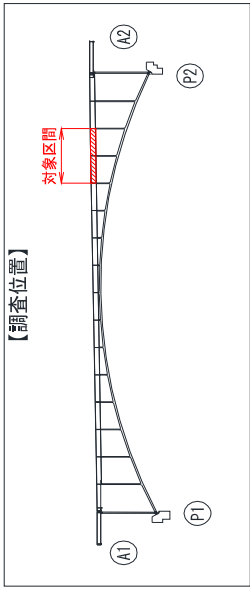


防 食 劣 化 度	ウェブ面(外側)	ウェブ面(内側)	下フランジ上面	下フランジ下面
	補剛桁 O111			
	ウェブ面(外側)	ウェブ面(内側)	下フランジ上面	下フランジ下面
	補剛桁 O112			

部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況および劣化原因・腐食環境
ウェブ面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にマイルドな環境に於いて軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 ・ウェブ下端に恒常的な滞水・湿潤の影響による点蝕が散見され、北に面していることもあり、南面より湿潤の継続時間が長いことも劣化を促進している要因と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にマイルドな環境に於いて軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 ・ウェブ下端に恒常的な滞水・湿潤の影響による点蝕が散見され、北に面していることもあり、南面より湿潤の継続時間が長いことも劣化を促進している要因と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的にマイルドな環境に於いて軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 ・床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けないため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 ・疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的にマイルドな環境に於いて軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 ・ウェブ下端に恒常的な滞水・湿潤の影響による点蝕が散見され、北に面していることもあり、南面より湿潤の継続時間が長いことも劣化を促進している要因と考えられる。
ウェブ面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> ・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効果的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効果的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効果的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効果的に塗替えを行うのがよい。
下フランジ上面	<ul style="list-style-type: none"> ・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効果的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効果的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効果的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効果的に塗替えを行うのがよい。
下フランジ下面	<ul style="list-style-type: none"> ・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効果的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効果的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効果的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効果的に塗替えを行うのがよい。



■ 中央径間桁P1-P2(上流側)



防食劣化度	ウエブ面(外側)						
	ウエブ面(内側)						
	下フランジ上面						
	下フランジ下面						

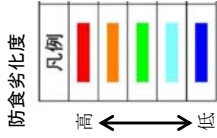
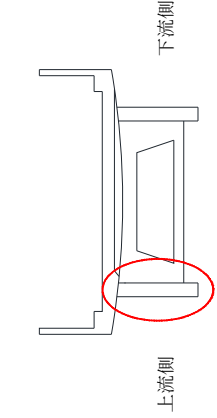
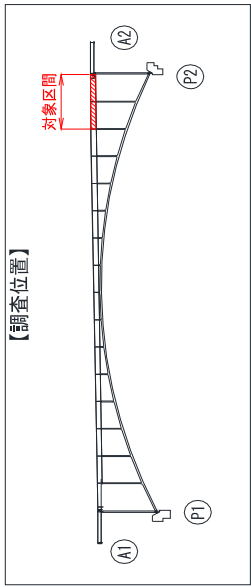
補剛桁 O113							
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様	塗装仕様	塗替え時期	塗替え時期	塗装仕様
ウエブ面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に於いた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 ウエブ下端に恒常的な滞水・湿潤の影響による点蝕が散見され、北に面していることもあり、南面より湿潤の継続時間が長いことも劣化を促進している要因と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に於いた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 ウエブ下端に恒常的な滞水・湿潤の影響による点蝕が散見され、北に面していることもあり、南面より湿潤の継続時間が長いことも劣化を促進している要因と考えられる。 	一般塗装系	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系
ウエブ面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に於いた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けないため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に於いた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けなため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある。 	一般塗装系	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系
下フランジ上面	<ul style="list-style-type: none"> 日射が弱い北面の影響もあり、恒常的な滞水・湿潤による軽微な腐食がウエブとの付け根部分に確認できる。 放置しておくことと腐食が進行する可能性はあるが、マイルドな環境から進行速度は遅いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日射が弱い北面の影響もあり、恒常的な滞水・湿潤による軽微な腐食がウエブとの付け根部分に確認できる。 放置しておくことと腐食が進行する可能性はあるが、マイルドな環境から進行速度は遅いと考えられる。 	一般塗装系	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系
下フランジ下面	<ul style="list-style-type: none"> 下フランジ下面はオープン環境であり風通しがよいため、防食機能の劣化も軽微である。 今後劣化の進行は遅いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 下フランジ下面はオープン環境であり風通しがよいため、防食機能の劣化も軽微である。 今後劣化の進行は遅いと考えられる。 	一般塗装系	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系



写真

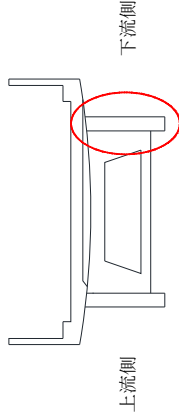
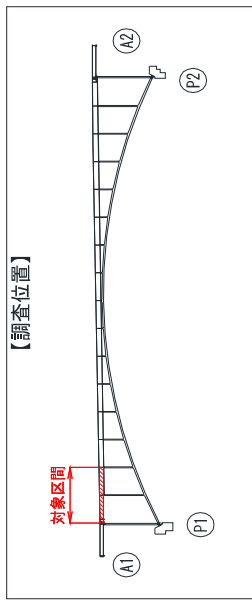
各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ 中央径間桁P1-P2(上流側)



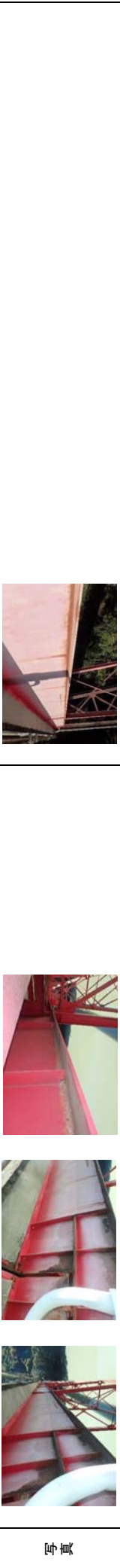
防食劣化度	補剛桁 O115				補剛桁 O116			
	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様	塗装時期	塗装仕様
防食劣化度	ウェーブ面 (外側)	・全体的にマイルドな環境に於ける防食機能の劣化が見られる程度である。 ・ウェーブ面下部に恒常的な漏水・湿潤の影響による点錆が散見され、北に面していることとあり、南面より湿潤の継続時間が長いことも劣化を促進している要因と考えられる。	一般塗装系	ウェーブ面 (外側)	・全体的な防食機能の劣化とガルバ一部に顕著な腐食が見られる。 ・主に伸縮装置からの漏水が原因で、その他、風通しの悪さによる狭い箇所の恒常的な湿潤状態が考えられる。 ・漏水対策を行わない場合は、今後腐食の進行は一層速まると考えられる。 ・排水受けマスから樹木が生育し、排水障害や風通しの悪さを引き起こしているため、速やかに撤去を行う必要がある。	一般塗装系	・部分的に腐食が進行しているため、早めの塗替えを行うことが望ましい。 (部分塗替え)	重防食系
	ウェーブ面 (内側)	・全体的にマイルドな環境に於ける防食機能の劣化が見られる程度である。 ・主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けないため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 ・疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある。	一般塗装系	ウェーブ面 (内側)	・全体的にマイルドな環境に於ける防食機能の劣化が見られる程度である。 ・床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けないため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 ・疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある。	一般塗装系	・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。	一般塗装系
	下フランジ上面	・下フランジ下面はオープン環境であり風通しがよいため、防食機能の劣化も軽微である。 ・今後も劣化の進行は遅いと考えられる。	一般塗装系	下フランジ上面	・ガルバ一部に顕著な腐食が見られる。 ・主な原因は伸縮装置からの漏水や風通しの悪さであり、放置しておくことと今後劣化の進行は速まると考えられる。	一般塗装系	・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。	重防食系
	下フランジ下面	・下フランジ下面はオープン環境であり風通しがよいため、防食機能の劣化も軽微である。 ・今後も劣化の進行は遅いと考えられる。	一般塗装系	下フランジ下面	・ガルバ一部に顕著な腐食が見られる。 ・主な原因は伸縮装置からの漏水や風通しの悪さであり、放置しておくことと今後劣化の進行は速まると考えられる。	一般塗装系	・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。	重防食系
劣化状況・劣化原因等								
写真								

■ 中央径間桁P1-P2(下流側)

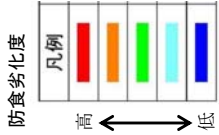
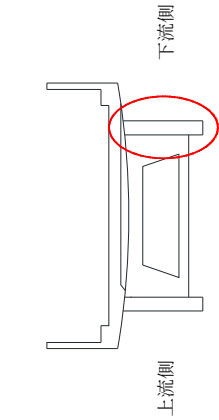
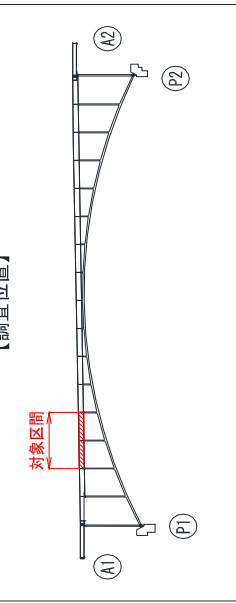


防食劣化度	ウェブ面(内側)	ウェブ面(外側)	下フランジ上面	下フランジ下面

補剛桁 0201					補剛桁 0202					
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様	塗替え時期	塗装仕様	塗替え時期	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様	塗替え時期	
ウェブ面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に曝された軽微な腐食環境の劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けにくい。 ため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性はある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に曝された軽微な腐食環境の劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けにくい。 ため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性はある。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などに効率的に塗替えを行うのがよい。 	ウェブ面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に曝された軽微な腐食環境の劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けにくい。 ため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性はある。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などに効率的に塗替えを行うのがよい。
ウェブ面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化とガルバー下部に顕著な腐食が見られる。 主に伸縮装置からの漏水が原因で、その他、風通しの悪さによる狭隙部の恒常的な湿潤状態が考えられる。 漏水対策を行わない場合は、今後腐食の進行は一層速まると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化とガルバー下部に顕著な腐食が見られる。 主に伸縮装置からの漏水が原因で、その他、風通しの悪さによる狭隙部の恒常的な湿潤状態が考えられる。 漏水対策を行わない場合は、今後腐食の進行は一層速まると考えられる。 	重防食系	<ul style="list-style-type: none"> 部分的に腐食が進行しているため、早めの塗替えを行うことが望ましい。 (部分塗替え) 	重防食系	<ul style="list-style-type: none"> 部分的に腐食が進行しているため、早めの塗替えを行うことが望ましい。 (部分塗替え) 	ウェブ面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化とガルバー下部に顕著な腐食が見られる。 主に伸縮装置からの漏水が原因で、その他、風通しの悪さによる狭隙部の恒常的な湿潤状態が考えられる。 漏水対策を行わない場合は、今後腐食の進行は一層速まると考えられる。 	重防食系	<ul style="list-style-type: none"> 部分的に腐食が進行しているため、早めの塗替えを行うことが望ましい。 (部分塗替え)
下フランジ上面	<ul style="list-style-type: none"> ガルバー一部に顕著な腐食が見られる。 主な原因は伸縮装置からの漏水や風通しの悪さであり、放置しておくこと、今後劣化の進行は速まると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ガルバー一部に顕著な腐食が見られる。 主な原因は伸縮装置からの漏水や風通しの悪さであり、放置しておくこと、今後劣化の進行は速まると考えられる。 	重防食系	<ul style="list-style-type: none"> ガルバー一部は重要な部位であり、早めの塗替えが望まれる。 (部分塗替え) 	重防食系	<ul style="list-style-type: none"> ガルバー一部は重要な部位であり、早めの塗替えが望まれる。 (部分塗替え) 	下フランジ上面	<ul style="list-style-type: none"> ウェブの付け根部に恒常的な漏水・湿潤によると考えられる腐食が確認できる。 腐食が進行する可能性があるため、部分的な早めの塗替えが望ましい。 	重防食系	<ul style="list-style-type: none"> ウェブの付け根部に恒常的な漏水・湿潤によると考えられる腐食が確認できる。 腐食が進行する可能性があるため、部分的な早めの塗替えが望ましい。
下フランジ下面	<ul style="list-style-type: none"> ガルバー一部は漏水の影響により下面まで水がまわり軽微な腐食を示している。 伸縮装置からの漏水を放置すると、今後劣化の進行は速まると考えられるため、伸縮装置の取替えが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> ガルバー一部は漏水の影響により下面まで水がまわり軽微な腐食を示している。 伸縮装置からの漏水を放置すると、今後劣化の進行は速まると考えられるため、伸縮装置の取替えが望ましい。 	重防食系	<ul style="list-style-type: none"> 早めの塗替えが望まれる。 (部分塗替え) 	重防食系	<ul style="list-style-type: none"> 早めの塗替えが望まれる。 (部分塗替え) 	下フランジ下面	<ul style="list-style-type: none"> 下フランジ下面はオープン環境であり風通しがよいため、防食機能の劣化も軽微である。 今後劣化の進行は遅いと考えられる。 	重防食系	<ul style="list-style-type: none"> 下フランジ下面はオープン環境であり風通しがよいため、防食機能の劣化も軽微である。 今後劣化の進行は遅いと考えられる。

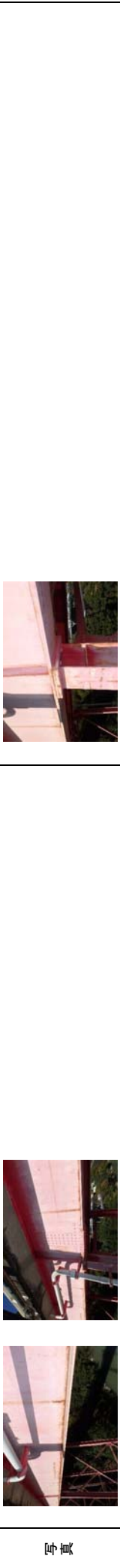


■ 中央径間桁P1-P2(下流側)



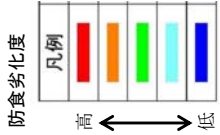
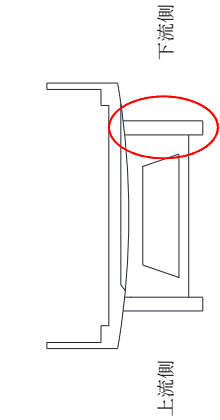
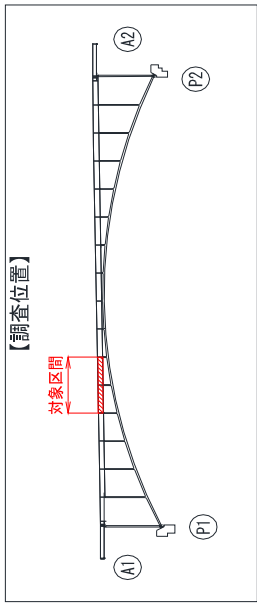
防食劣化度	ウェブ面(内側)				
	ウェブ面(外側)				
	下フランジ上面				
	下フランジ下面				

補剛桁 0203					
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様	塗装仕様	塗装仕様
ウェブ面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に応じた軽微な劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けにくい。 ため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性が有る塗膜剥れに留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に応じた軽微な劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けにくい。 ため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性が有る塗膜剥れに留意する必要がある。 	一般塗装系	一般塗装系	一般塗装系
ウェブ面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に応じた軽微な劣化が見られる。 北面より南面に恒常的な潜水・湿潤により日重化が進んでいる。 ウェブ下端に恒常的な潜水・湿潤により部分的な腐食が確認できる。 南面に面していることから北面より乾燥しやすいと考えられるが、北面より腐食の進行は進んでいる状況である。 南面の方が、風雨に曝されやすいことが原因として考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には当面経過観察としてよいが、腐食がこれ以上進行しないよう、部分的に早めの塗替えを行うことが望ましい。 	一般塗装系	一般塗装系	一般塗装系
下フランジ上面	<ul style="list-style-type: none"> ウェブの付け根部に恒常的な潜水・湿潤によると考えられる腐食が確認できる。 放置しておくことと腐食が進行する可能性があるため、部分的な早めの塗替えが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には当面経過観察としてよいが、腐食がこれ以上進行しないよう、部分的に早めの塗替えを行うことが望ましい。 	一般塗装系	一般塗装系	一般塗装系
下フランジ下面	<ul style="list-style-type: none"> 下フランジ下面はオープン環境であり風通しがよいため、防食機能の劣化も軽微である。 今後劣化の進行は遅いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査など足場を設ける際に効果的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系	一般塗装系	一般塗装系



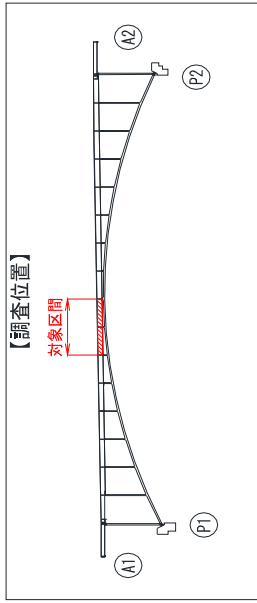
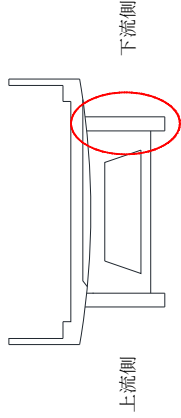
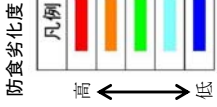
各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ 中央径間桁P1-P2(下流側)



防食劣化度		補剛桁 0206		補剛桁 0206	
ウエブ面(内側)		ウエブ面(内側)		ウエブ面(内側)	
ウエブ面(外側)		ウエブ面(外側)		ウエブ面(外側)	
下フランジ上面		下フランジ上面		下フランジ上面	
下フランジ下面		下フランジ下面		下フランジ下面	
部位	劣化状況・劣化原因等	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗替え時期	塗装仕様	塗装仕様
ウエブ面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に比べて軽微な劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けにくい。 ため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性が有る塗膜剥れに留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 劣化状況および劣化原因・腐食環境 全体的にマイルドな環境に比べて軽微な劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けにくい。 ため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性が有る塗膜剥れに留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系	一般塗装系
ウエブ面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に比べて軽微な劣化が見られる程度である。 北面より南面に恒常的な潜水・湿潤により日重化が進んでいる。 ウエブ下端に恒常的な潜水・湿潤により部分的な腐食が確認できる。 南面に面していることから北面より乾燥しやすいと考えられるが、北面より腐食の進行は進んでいる状況である。 南面の方が、風雨に曝されやすいことが原因として考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 劣化状況および劣化原因・腐食環境 全体的にマイルドな環境に比べて軽微な劣化が見られる程度である。 北面より南面に恒常的な潜水・湿潤により日重化が進んでいる。 ウエブ下端に恒常的な潜水・湿潤により部分的な腐食が確認できる。 南面に面していることから北面より乾燥しやすいと考えられるが、北面より腐食の進行は進んでいる状況である。 南面の方が、風雨に曝されやすいことが原因として考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には当面経過観察としてよいが、腐食がこれ以上進行しないよう、部分的に早めの塗替えを行うことが望ましい。 	一般塗装系	一般塗装系
下フランジ上面	<ul style="list-style-type: none"> ウエブの付け根部に恒常的な潜水・湿潤によると考えられる腐食が確認できる。 放置しておくとも腐食が進行する可能性があるため、部分的な早めの塗替えが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> 劣化状況および劣化原因・腐食環境 ウエブの付け根部に恒常的な潜水・湿潤によると考えられる腐食が確認できる。 放置しておくとも腐食が進行する可能性があるため、部分的な早めの塗替えが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には当面経過観察としてよいが、腐食がこれ以上進行しないよう、部分的に早めの塗替えを行うことが望ましい。 	一般塗装系	一般塗装系
下フランジ下面	<ul style="list-style-type: none"> 下フランジ下面はオープン環境であり風通しがよいため、防食機能の劣化も軽微である。 今後劣化の進行は遅いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 劣化状況および劣化原因・腐食環境 下フランジ下面はオープン環境であり風通しがよいため、防食機能の劣化も軽微である。 今後劣化の進行は遅いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系	一般塗装系
写真					

■ 中央径間桁P1-P2(下流側)



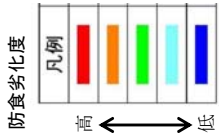
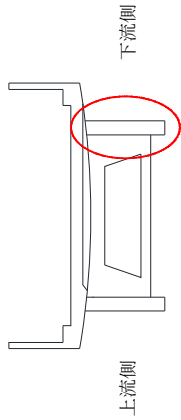
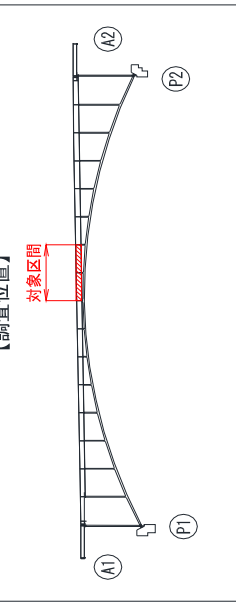
防食劣化度	ウェブ面(内側)					
	ウェブ面(外側)					
	下フランジ上面					
	下フランジ下面					

補剛桁 0208						
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗替え時期	塗替え時期	塗装仕様	塗装仕様
ウェブ面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に比べて軽微な劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けにくい。 ため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に比べて軽微な劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けにくい。 ため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系	一般塗装系
ウェブ面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に比べて軽微な劣化が見られる程度である。 北面より南面に恒常的な潜水・湿潤により日重化が進んでいる。 ウェーブ下端に恒常的な潜水・湿潤により部分的な腐食が確認できる。南面に面していることから北面より乾燥しやすいと考えられるが、北面より腐食の進行は進んでいる状況である。 南面の方が、風雨に曝されやすいこととして考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に比べて軽微な劣化が見られる程度である。 北面より南面に恒常的な潜水・湿潤により日重化が進んでいる。 ウェーブ下端に恒常的な潜水・湿潤により部分的な腐食が確認できる。南面に面していることから北面より乾燥しやすいと考えられるが、北面より腐食の進行は進んでいる状況である。 南面の方が、風雨に曝されやすいこととして考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には当面経過観察としてよいが、腐食がこれ以上進行しないよう、部分的に早めの塗替えを行うことが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には当面経過観察としてよいが、腐食がこれ以上進行しないよう、部分的に早めの塗替えを行うことが望ましい。 	一般塗装系	一般塗装系
下フランジ上面	<ul style="list-style-type: none"> ウェーブの付け根部に恒常的な潜水・湿潤によると考えられる腐食が確認できる。 放置しておくことと腐食が進行する可能性があるため、部分的な早めの塗替えが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> ウェーブの付け根部に恒常的な潜水・湿潤によると考えられる腐食が確認できる。 放置しておくことと腐食が進行する可能性があるため、部分的な早めの塗替えが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系	一般塗装系
下フランジ下面	<ul style="list-style-type: none"> 下フランジ下面はアーチリブが接近していることから少し風通しが悪い。 ため、防食機能の劣化も軽微であるが他の下フランジよりは若干進んでいる。 今後劣化の進行は遅いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 下フランジ下面はアーチリブが接近していることから少し風通しが悪い。 ため、防食機能の劣化も軽微であるが他の下フランジよりは若干進んでいる。 今後劣化の進行は遅いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系	一般塗装系



写真

■ 中央径間桁P1-P2(下流側)



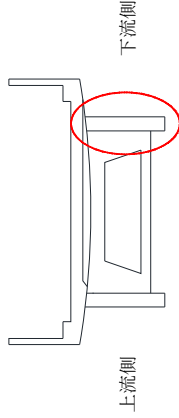
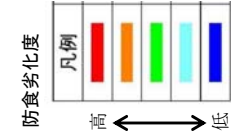
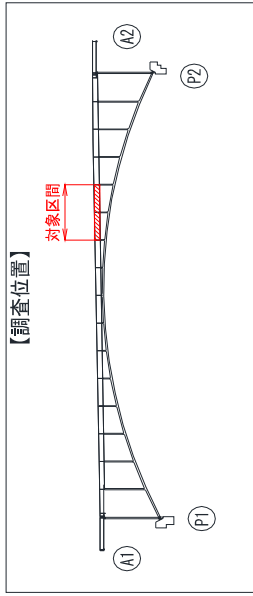
防食劣化度	
ウエブ面(内側)	
ウエブ面(外側)	
下フランジ上面	
下フランジ下面	

補剛桁 0209				
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗替え時期	塗装仕様
ウエブ面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に比べて軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けにくい。 ため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性が有る塗膜剥れに留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に比べて軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けにくい。 ため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性が有る塗膜剥れに留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系
ウエブ面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に比べて軽微な防食機能の劣化が見られる。 北面より南面に比べて日射の影響により日重化が進んでいる。 ウエブ下端に恒常的な滞水・湿潤により部分的な腐食が確認できる。 南面に面していることから北面より乾燥しやすいと考えられるが、北面より腐食の進行は進んでいる状況である。 南面の方が、風雨に曝されやすいことが原因として考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には当面経過観察としてよいが、腐食がこれ以上進行しないよう、部分的に早めの塗替えを行うことが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には当面経過観察としてよいが、腐食がこれ以上進行しないよう、部分的に早めの塗替えを行うことが望ましい。 	一般塗装系
下フランジ上面	<ul style="list-style-type: none"> ウエブの付け根部に恒常的な滞水・湿潤によると考えられる腐食が確認できる。 放置しておくこと腐食が進行する可能性があるため、部分的な早めの塗替えが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> ウエブの付け根部に恒常的な滞水・湿潤によると考えられる腐食が確認できる。 放置しておくこと腐食が進行する可能性があるため、部分的な早めの塗替えが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系
下フランジ下面	<ul style="list-style-type: none"> 下フランジ下面はアーチリブが接近していることから少し風通しが悪い。 ため、防食機能の劣化も軽微であるが他の下フランジよりは若干進んでいる。 今後も劣化の進行は遅いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 下フランジ下面はアーチリブが接近していることから少し風通しが悪い。 ため、防食機能の劣化も軽微であるが他の下フランジよりは若干進んでいる。 今後も劣化の進行は遅いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系



各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ 中央間桁P1-P2(下流側)



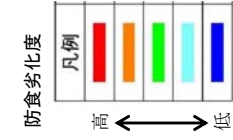
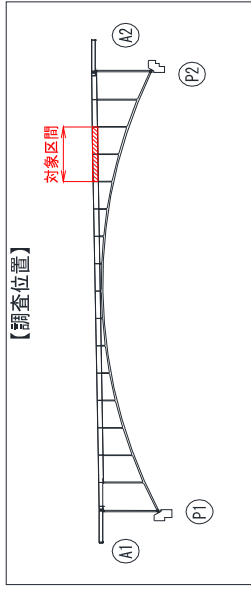
防食劣化度	ウェブ面(内側)					
	ウェブ面(外側)					
	下フランジ上面					
	下フランジ下面					

補剛桁 0211						
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様	塗装仕様	塗装時期	塗装仕様
ウェブ面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に比べて軽微な劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けにくい。 ため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性が有る塗膜剥れに留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に比べて軽微な劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けにくい。 ため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性が有る塗膜剥れに留意する必要がある。 	一般塗装系	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系
ウェブ面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に比べて軽微な劣化が見られる。 北面より南面に比べて日射の影響により日重化が進んでいる。 ウェブ下端に恒常的な潜水・湿潤による部分的な腐食が確認できる。 南面に面していることから北面より乾燥しやすいと考えられるが、北面より腐食の進行は進んでいる状況である。 南面の方が、風雨に曝されやすいことが原因として考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に比べて軽微な劣化が見られる。 北面より南面に比べて日射の影響により日重化が進んでいる。 ウェブ下端に恒常的な潜水・湿潤による部分的な腐食が確認できる。 南面に面していることから北面より乾燥しやすいと考えられるが、北面より腐食の進行は進んでいる状況である。 南面の方が、風雨に曝されやすいことが原因として考えられる。 	一般塗装系	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には当面経過観察としてよいが、腐食がこれ以上進行しないよう、部分的に早めの塗替えを行うことが望ましい。 	一般塗装系
下フランジ上面	<ul style="list-style-type: none"> ウェブの付け根部に恒常的な潜水・湿潤によると考えられる腐食が確認できる。 放置しておくことと腐食が進行する可能性があるため、部分的な早めの塗替えが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> ウェブの付け根部に恒常的な潜水・湿潤によると考えられる腐食が確認できる。 放置しておくことと腐食が進行する可能性があるため、部分的な早めの塗替えが望ましい。 	一般塗装系	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系
下フランジ下面	<ul style="list-style-type: none"> 下フランジ下面はオープン環境であり風通しがよいため、防食機能の劣化も軽微である。 今後劣化の進行は遅いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 下フランジ下面はオープン環境であり風通しがよいため、防食機能の劣化も軽微である。 今後劣化の進行は遅いと考えられる。 	一般塗装系	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系



写真

■ 中央径間桁P1-P2(下流側)



防食劣化度	ウェブ面(内側)					
	ウェブ面(外側)					
	下フランジ上面					
	下フランジ下面					

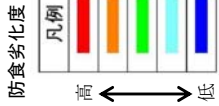
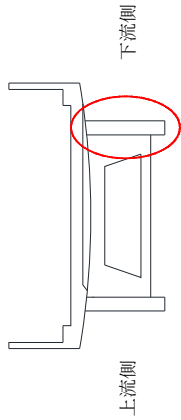
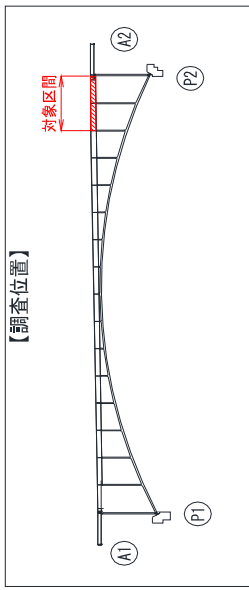
補剛桁 0213						
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様	塗装時期	塗装仕様	劣化状況・劣化原因等
ウェブ面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に比べて軽微な劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けにくい。 ため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性が有る塗膜剥れに留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に比べて軽微な劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けにくい。 ため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性が有る塗膜剥れに留意する必要がある。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設け、劣化の進行状況を確認する。 	一般塗装系	
ウェブ面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に比べて軽微な劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けにくい。 ため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性が有る塗膜剥れに留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に比べて軽微な劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けにくい。 ため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性が有る塗膜剥れに留意する必要がある。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設け、劣化の進行状況を確認する。 	一般塗装系	
下フランジ上面	<ul style="list-style-type: none"> ウェブの付け根部に恒常的な滞水・湿潤による考えられる腐食が確認できる。 放置しておくことと腐食が進行する可能性があるため、部分的な早めの塗替えが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> ウェブの付け根部に恒常的な滞水・湿潤による考えられる腐食が確認できる。 放置しておくことと腐食が進行する可能性があるため、部分的な早めの塗替えが望ましい。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設け、劣化の進行状況を確認する。 	一般塗装系	
下フランジ下面	<ul style="list-style-type: none"> 下フランジ下面はオープン環境であり風通しがよいため、防食機能の劣化も軽微である。 今後劣化の進行は遅いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 下フランジ下面はオープン環境であり風通しがよいため、防食機能の劣化も軽微である。 今後劣化の進行は遅いと考えられる。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設け、劣化の進行状況を確認する。 	一般塗装系	



写真

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ 中央径間桁P1-P2(下流側)

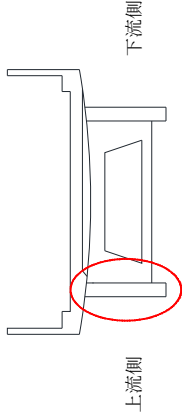
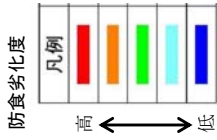
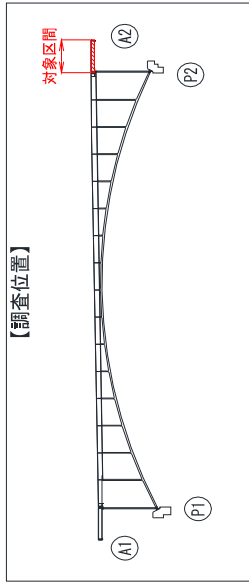


防食劣化度	ウエブ面(内側)	ウエブ面(外側)	下フランジ上面	下フランジ下面
高	Blue	Blue	Orange	Orange
中	Blue	Blue	Orange	Orange
低	Blue	Blue	Orange	Orange

補剛桁 0215		補剛桁 0216	
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境など	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境など
ウエブ面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に応じた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けないため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある。 	ウエブ面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に応じた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けないため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある。
ウエブ面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に応じた軽微な防食機能の劣化が見られる。 北面より南面のほうが日射の影響により日重化が進んでいる。 ウエブ下面に恒常的な潜水・湿潤によると考えられる点錆程度の腐食が確認できる。 	ウエブ面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化とガルバ一部下端に顕著な腐食が見られる。 主に伸縮装置からの漏水が原因で、その他、風通しの悪さによる夾層部の恒常的な湿潤状態が考えられる。 漏水対策を行わない場合は、今後腐食の進行は一層速まると考えられる。
下フランジ上面	<ul style="list-style-type: none"> ウエブの付け根部に恒常的な潜水・湿潤によると考えられる軽微な腐食が確認できる。 放置しておくとも腐食が進行する可能性があるが、マイルドな環境から進行性は遅いと考えられる。 	下フランジ上面	<ul style="list-style-type: none"> ガルバ一部に顕著な腐食が見られる。 主な原因は伸縮装置からの漏水や風通しの悪さであり、放置しておくとも今後劣化の進行は速まると考えられる。
下フランジ下面	<ul style="list-style-type: none"> 下フランジ下面はオープン環境であり風通しがよいため、防食機能の劣化も軽微である。 今後劣化の進行は遅いと考えられる。 	下フランジ下面	<ul style="list-style-type: none"> ガルバ一部は漏水の影響により下面まで水がまわり軽微な腐食を示している。 伸縮装置からの漏水を放置すると、今後劣化の進行は速まると考えられるため、伸縮装置の取替えが望ましい。
写真		写真	

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ 側径間桁P2-A2 (上流側)



防食劣化度	ウェブ面(外側)	
	ウェブ面(内側)	
	下フランジ上面	
	下フランジ下面	
	ウェブ面(外側)	

主桁 O102			
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様	塗装時期
ウェブ面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化がみられる。 主な原因は茶外線による経年劣化である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けないため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある。 	重防食系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。
ウェブ面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に応じた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けないため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。
下フランジ上面	<ul style="list-style-type: none"> 桁端部に顕著な腐食が見られる。 主な原因は伸縮装置からの漏水や風通しの悪さである。 伸縮装置は伸縮装置からの漏水や風通しの悪さである。 	重防食系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。
下フランジ下面	<ul style="list-style-type: none"> 桁端部の補剛桁側受台に挟まれた部分で軽微な腐食の進行が見られる。 主な原因は伸縮装置からの漏水や風通しの悪さであり、放置すると今後劣化の進行は速まると考えられる。 	重防食系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。

主桁 O101

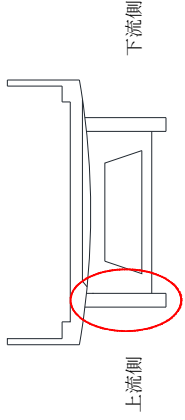
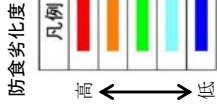
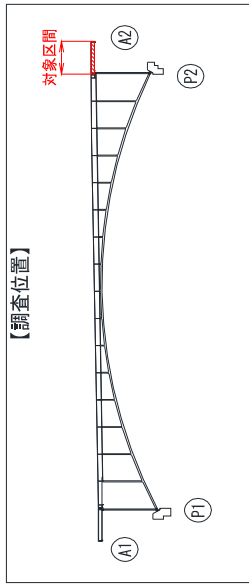
主桁 O101			
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境など	塗装仕様	塗替え時期
ウェブ面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能劣化と桁端部下端に軽微な腐食が見られる。 主に伸縮装置からの漏水が原因で、その他、風通しの悪さによる夾層部の恒常的な湿潤状態が考えられる。 樹木の撤去を含め漏水対策を行わない場合は、今後腐食の進行は一層速まると考えられる。また、亀裂の懸念されるが、出来れば腐食環境を改善することが望ましい。 	重防食系	<ul style="list-style-type: none"> 伸縮装置を取替えても風通しの悪さは改善されないため、早めの塗替えを行うことが望ましい。(部分塗替え)
ウェブ面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に応じた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けないため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある。 桁端部に顕著な腐食が見られる。 主な原因は伸縮装置からの漏水や風通しの悪さである。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 早めの塗替えが望まれる。(部分塗替え)
下フランジ上面	<ul style="list-style-type: none"> 桁端部の補剛桁側受台に挟まれた部分で軽微な腐食の進行が見られる。 主な原因は伸縮装置からの漏水や風通しの悪さであり、放置すると今後劣化の進行は速まると考えられる。 	重防食系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。
下フランジ下面	<ul style="list-style-type: none"> 桁端部の補剛桁側受台に挟まれた部分で軽微な腐食の進行が見られる。 主な原因は伸縮装置からの漏水や風通しの悪さであり、放置すると今後劣化の進行は速まると考えられる。 	重防食系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。



写真

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

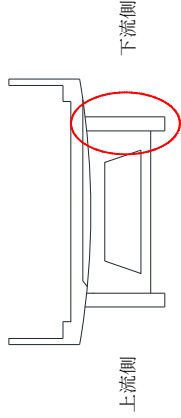
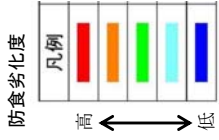
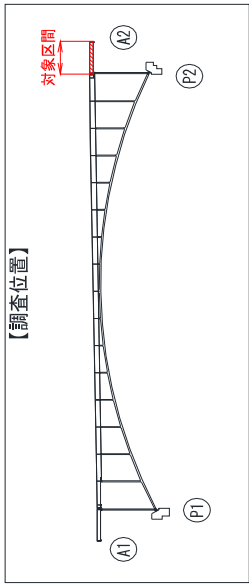
■ 側径間桁P2-A2 (上流側)



防食劣化度	主桁 O103				劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装時期	塗装仕様
防食劣化度	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境など	塗装時期	塗装仕様	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様
高	ウェブ面 (外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と桁端部下端に腐食が見られる。 主に伸縮装置からの漏水が原因で、その他、法面に繁茂する樹木の影響による風通し・日当たりの悪さが考えられる。 漏水対策を行わない場合は、今後腐食の進行は一層速まると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 風通し 日当たりの悪さは改善されないため、早めの塗装を行うことが望ましい。(部分塗替え) 	重防食系			
中	ウェブ面 (内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に応じた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けないため、多少の過剰環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置替えを行うのがよい。 	一般塗装系			
低	下フランジ上面	<ul style="list-style-type: none"> 桁端部に腐食が見られる。 主な原因は伸縮装置からの漏水や風通しの悪さであり、今後劣化の進行は速まると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 早めの塗替えが望まれる。(部分塗替え) 	重防食系			
低	下フランジ下面	<ul style="list-style-type: none"> 桁端部の橋底に挟まれた部分で腐食の進行が見られる。 主な原因は伸縮装置からの漏水や風通しの悪さであり、放置すると今後劣化の進行は速まると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 早めの塗替えが望まれる。(部分塗替え) 	重防食系			
写真							

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

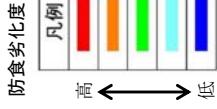
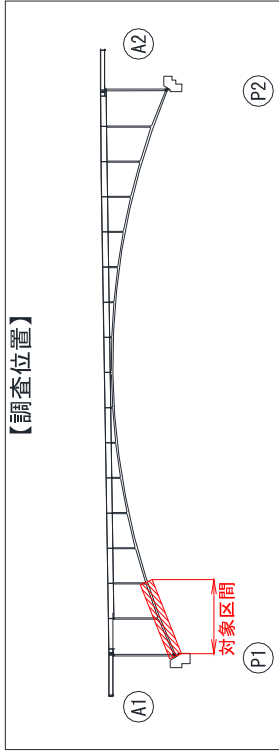
■ 側径間桁P2-A2 (下流側)



防食劣化度	劣化状況および劣化原因・腐食環境など	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装時期	塗装仕様
<p>ウェブ面(内側)</p> <p>ウェブ面(外側)</p> <p>下フランジ上面</p> <p>下フランジ下面</p>	<p>主桁 0203</p> <p>劣化状況および劣化原因・腐食環境など</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に応じた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けにくいいため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある。 全体的な防食機能の劣化と桁端部下端に軽微な腐食が見られる。 主に伸縮装置からの漏水が原因で、その他、法面に繁茂する樹木の影響による風通しの悪さが考えられる。 上フランジにも漏水の影響による腐食が確認できる。 漏水対策を行わない場合は、今後腐食の進行は一層速まると考えられる。 桁端部に腐食が見られるが、北面より日当たりが良いことから、北面の上流側主桁より腐食は軽微である。 主な原因は伸縮装置からの漏水や風通しの悪さに起因する湿潤状態であり、放置しておくこと今後劣化の進行は速まると考えられる。 桁端部の橋座に挟まれた部分で軽微な腐食の進行が見られる。 主な原因は伸縮装置からの漏水や風通しの悪さであり、放置すると今後劣化の進行は速まると考えられる。 	<p>ウェブ面(内側)</p> <p>ウェブ面(外側)</p> <p>下フランジ上面</p> <p>下フランジ下面</p>	<p>ウェブ面(内側)</p> <p>ウェブ面(外側)</p> <p>下フランジ上面</p> <p>下フランジ下面</p>	<p>ウェブ面(内側)</p> <p>ウェブ面(外側)</p> <p>下フランジ上面</p> <p>下フランジ下面</p>
<p>部位</p> <p>ウェブ面(内側)</p> <p>ウェブ面(外側)</p> <p>下フランジ上面</p> <p>下フランジ下面</p>	<p>劣化状況および劣化原因・腐食環境など</p> <p>部位</p> <p>ウェブ面(内側)</p> <p>ウェブ面(外側)</p> <p>下フランジ上面</p> <p>下フランジ下面</p>	<p>塗装仕様</p> <p>一般塗装系</p> <p>重防食系</p> <p>重防食系</p> <p>重防食系</p>	<p>塗装時期</p> <p>・当面経過観察とし、今後定期点検時や電装調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。</p> <p>・風通し・日当たりの悪さは改善されないため、早めの塗替えを行うことが望ましい。(部分塗替え)</p> <p>・早めの塗替えが望まれる。(部分塗替え)</p> <p>・早めの塗替えが望まれる。(部分塗替え)</p>	<p>塗装仕様</p> <p>一般塗装系</p> <p>重防食系</p> <p>重防食系</p> <p>重防食系</p>
写真				

■ アーチリブP1-P2(上流側)

【調査位置】

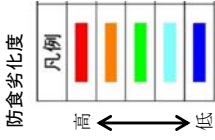
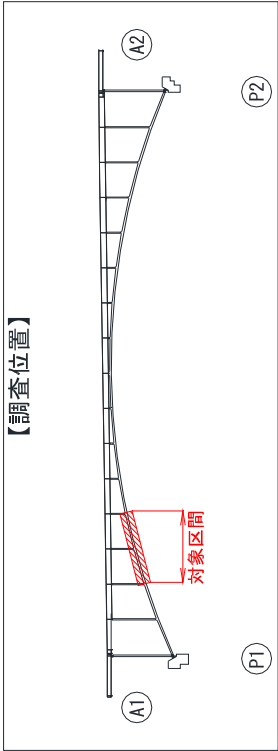


防食劣化度	上部	下部	側面(外側)	側面(内側)
高	Red	Orange	Green	Green
低	Blue	Blue	Blue	Blue

アーチリブ0101		アーチリブ0102		
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	
上部	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水の滯水と、法面に繁茂する樹木の影響による日当たりの悪さが考えられる。 端部では雨水や土砂が滯水・堆積しやすいため、今後腐食の進行は一層速まると考えられる。 	上部	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水の滯水と紫外線による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を直接受け、また溶接部の周辺は雨水が滯水しやすいいため、劣化の進展程度に注意する必要がある。 	
下部	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 下部はオーブで風通しがよく、直射日光も当たらないため紫外線による経年劣化進行も鈍いと考えられる。 	下部	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 下部はオーブで風通しがよく、直射日光も当たらないため紫外線による経年劣化進行も鈍いと考えられる。 	
側面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と端部に軽微な腐食が見られる 主な原因は雨水による影響と日当たりの悪さである。 雨風の影響を直接受けるため、今後劣化の進行は速まると考えられる。 	側面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を直接受けるため、今後劣化の進行は速まると考えられる。 	
側面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と端部に軽微な腐食が見られる。 雨風の影響を直接受けるため、今後劣化の進行は速まると考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある塗膜剥れに留意する必要がある。 	側面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を直接受けるため、今後劣化の進行は速まると考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある塗膜剥れに留意する必要がある。 	
写真				

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ アーチリブP1-P2(上流側)



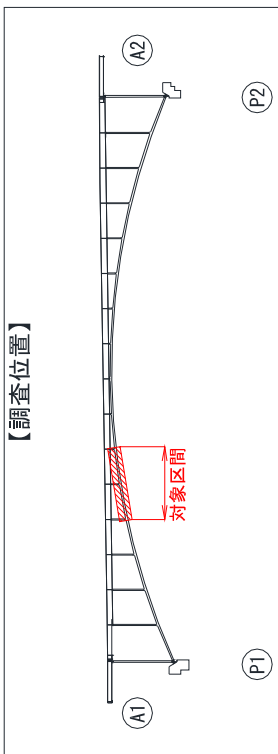
防食劣化度	上面	[Orange bar]	
	下面	[Green bar]	
	側面(外側)	[Orange bar]	
	側面(内側)	[Green bar]	
		[Orange bar]	

アーチリブO103				アーチリブO104			
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境など	塗装仕様	塗替え時期	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様	塗替え時期
上面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と添接板周辺に軽微な腐食が見られる。 主な原因は雨水の滯水と紫外線による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を直接受け、また添接板の周辺は雨水が滯水しやすいため、今後劣化の進行は速まると考えられる。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 早めの塗替えが望まれる。(部分塗替え) 	上面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と添接板周辺に軽微な腐食が見られる。 主な原因は雨水の滯水と紫外線による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を直接受け、また添接板の周辺は雨水が滯水しやすいため、今後劣化の進行は速まると考えられる。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 早めの塗替えが望まれる。(部分塗替え)
下面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化がみられる。 下面はオーブんで風通しがよく、直射日光も当たらないため紫外線による経年劣化進行も鈍いと考えられる。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などに塗替えを行うのがよい。 	下面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化がみられる。 下面はオーブんで風通しがよく、直射日光も当たらないため紫外線による経年劣化進行も鈍いと考えられる。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などに塗替えを行うのがよい。
側面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と部分的に軽微な腐食が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を直接受けるため、今後劣化の進行は速まると考えられる。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 早めの塗替えが望まれる。(部分塗替え) 	側面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を直接受けており、別スパンの同部位で軽微な腐食が見られることから、今後劣化の進行は速まると考えられる。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 早めの塗替えが望まれる。(部分塗替え)
側面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と部分的に軽微な腐食が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を直接受けるため、今後劣化の進行は速まると考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある塗膜剥れに留意する必要がある。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 早めの塗替えが望まれる。(部分塗替え) 	側面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を直接受けており、別スパンの同部位で軽微な腐食が見られることから、今後劣化の進行は速まると考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある塗膜剥れに留意する必要がある。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 早めの塗替えが望まれる。(部分塗替え)

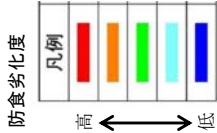


各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ アーチリブP1-P2(上流側)



【調査位置】



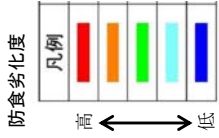
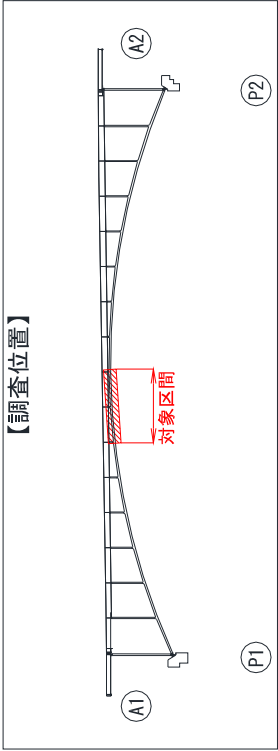
防食劣化度	上面		
	下面		
	側面(外側)		
	側面(内側)		

アーチリブO105		アーチリブO106	
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境など	劣化状況および劣化原因・腐食環境	部位
上面	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な防食機能の劣化と溶接板周辺に軽微な腐食が見られる。 ・主な原因は雨水の滯水と紫外線による経年劣化である。 ・雨風や直射日光の影響を直接受け、また溶接板の周辺は雨水が滯水しやすいため、今後劣化の進行は速まると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な防食機能の劣化と溶接板周辺に軽微な腐食が見られる。 ・主な原因は雨水の滯水と紫外線による経年劣化である。 ・雨風や直射日光の影響を直接受け、また溶接板の周辺は雨水が滯水しやすいため、今後劣化の進行は速まると考えられる。 	上面
下面	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な防食機能の劣化がみられる。 ・下面はオーブんで風通しがよく、直射日光も当たらないため紫外線による経年劣化進行も鈍いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な防食機能の劣化がみられる。 ・下面はオーブんで風通しがよく、直射日光も当たらないため紫外線による経年劣化進行も鈍いと考えられる。 	下面
側面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な防食機能の劣化が見られる。 ・主な原因は紫外線による経年劣化である。 ・雨風や直射日光の影響を直接受けており、別スパンの同部位で軽微な腐食が見られることから、今後劣化の進行は速まると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な防食機能の劣化が見られる。 ・主な原因は紫外線による経年劣化である。 ・雨風や直射日光の影響を直接受けており、別スパンの同部位で軽微な腐食が見られることから、今後劣化の進行は速まると考えられる。 	側面(外側)
側面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な防食機能の劣化が見られる。 ・主な原因は紫外線による経年劣化である。 ・雨風や直射日光の影響を直接受けており、別スパンの同部位で軽微な腐食が見られることから、今後劣化の進行は速まると考えられる。 ・疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後養生の可能性があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な防食機能の劣化が見られる。 ・主な原因は紫外線による経年劣化である。 ・雨風や直射日光の影響を直接受けており、別スパンの同部位で軽微な腐食が見られることから、今後劣化の進行は速まると考えられる。 ・疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後養生の可能性があります。 	側面(内側)

写真	
----	--

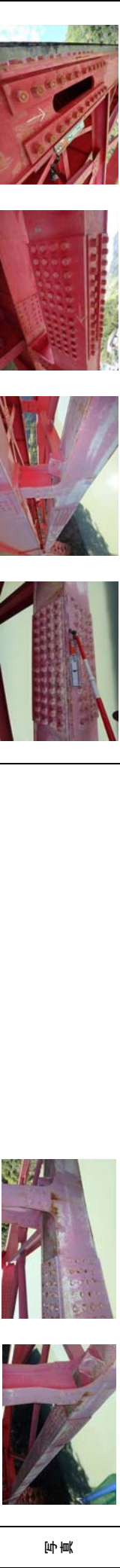
各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ アーチリブP1-P2(上流側)



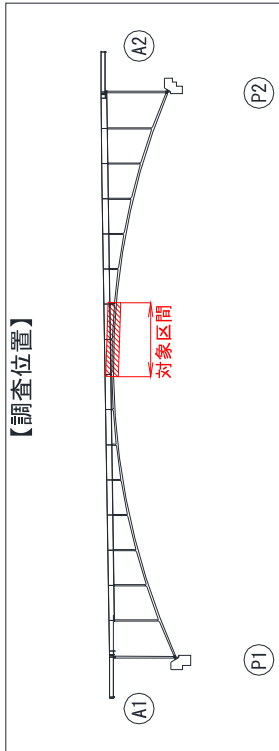
防食劣化度	上面	上面
	下面	下面
	側面(外側)	側面(外側)
	側面(内側)	側面(内側)

アーチリブO107		アーチリブO108	
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境など	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境など
上面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と溶接部周辺に軽微な腐食が見られる。 主な原因は雨水の滲水と紫外線による経年劣化である。 また、北に面していることから、南面より乾燥しにくいことが考えられる。 	上面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と溶接部周辺に軽微な腐食が見られる。 アーチクラウン部は床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けにくいいため、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。
下面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に防食機能の劣化は軽微である。 下面はオーブで風通しがよく、直射日光も当たらないため紫外線による経年劣化進行も鈍いと考えられる。 	下面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に防食機能の劣化は軽微である。 下面はオーブで風通しがよく、直射日光も当たらないため紫外線による経年劣化進行も鈍いと考えられる。
側面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と溶接板及び格点部周辺に軽微な腐食が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 また、北に面していることから、南面より乾燥しにくいことが考えられる。 	側面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 アーチクラウン部は床版と主桁に覆われる部位であり、雨風の影響を直接受けにくいいため、劣化の進行は鈍いと考えられる。
側面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 雨風や直射日光の影響を直接受けにくいいため、劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある塗膜剥れに留意する必要がある。 	側面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に防食機能の劣化は軽微である。 直射日光の影響を直接受けにくいいため、劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある塗膜剥れに留意する必要がある。

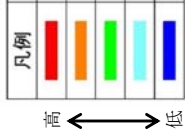


各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ アーチリブP1-P2(上流側)



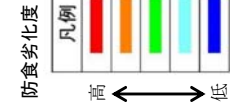
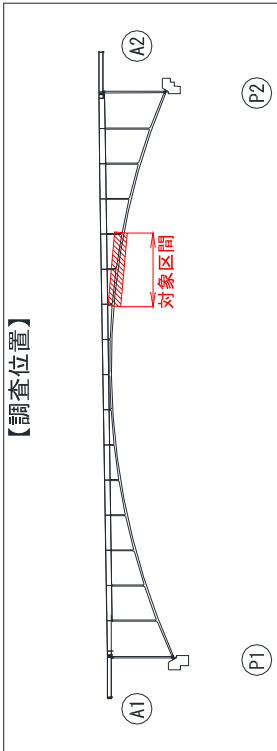
防食劣化度



防食劣化度		アーチリブP1-P2(上流側)		アーチリブO109		アーチリブO110	
部位	劣化状況・劣化原因等	劣化状況・劣化原因等	劣化状況・劣化原因等	部位	劣化状況・劣化原因等	部位	劣化状況・劣化原因等
上面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と溶接部周辺に軽微な腐食が見られる。 アーチクワウン部は床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けにくいため、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化は軽微である。 下面はオーブで風通しがよく、直射日光も当たらないため紫外線による経年劣化進行も鈍いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と部分的に軽微な腐食が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 また、北に面していることから、南面より乾燥しにくいことが考えられる。 経年に応じたマイルドな劣化進行を今後示すと考えられる。 	上面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と溶接部周辺に軽微な腐食が見られる。 また、北に面していることから、南面より乾燥しにくいことが考えられる。 	上面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と部分的に軽微な腐食が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 また、北に面していることから、南面より乾燥しにくいことが考えられる。 経年に応じたマイルドな劣化進行を今後示すと考えられる。
下面				下面		下面	
側面(外側)				側面(外側)		側面(外側)	
側面(内側)				側面(内側)		側面(内側)	
塗装仕様	一般塗装系	一般塗装系	一般塗装系	塗装仕様	一般塗装系	塗装仕様	一般塗装系
塗替え時期	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などに足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などに足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などに足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	塗替え時期	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などに足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	塗替え時期	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などに足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。
写真				写真		写真	

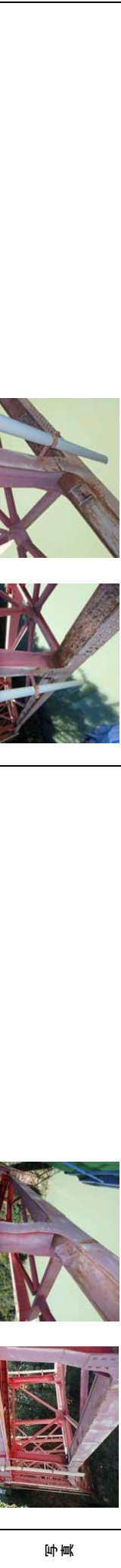
各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ アーチリブP1-P2(上流側)



防食劣化度	上面	
	下面	
	側面(外側)	
	側面(内側)	

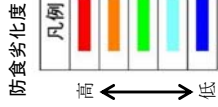
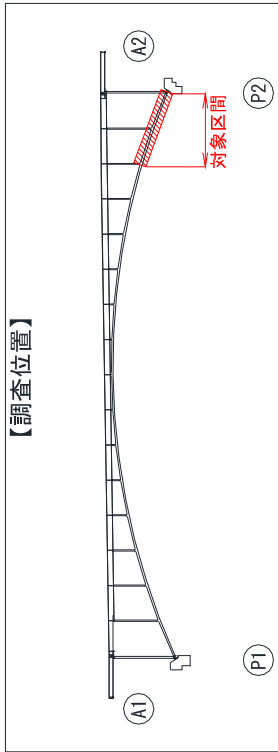
アーチリブO111		アーチリブO112	
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境など	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境
上面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水の滯水と紫外線による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を直接受け、また添接板の周辺は雨水が滯水しやすいため、今後劣化の進行は速まると考えられる。 	上面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水の滯水と紫外線による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を直接受け、また添接板の周辺は雨水が滯水しやすいため、今後劣化の進行は速まると考えられる。
下面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 下面はオーブで風通しがよく、直射日光も当たらないため紫外線による経年劣化進行も鈍いと考えられる。 	下面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 下面はオーブで風通しがよく、直射日光も当たらないため紫外線による経年劣化進行も鈍いと考えられる。
側面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を直接受けており、別スパンの同部位で軽微な腐食が見られることから、今後劣化の進行は速まると考えられる。 	側面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と部分的に軽微な腐食が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を直接受けるため、今後劣化の進行は速まると考えられる。
側面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を直接受けており、別スパンの同部位で軽微な腐食が見られることから、今後劣化の進行は速まると考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後養生の必要性がある。 	側面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を直接受けるため、今後劣化の進行は速まると考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後養生の必要性がある。



写真

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

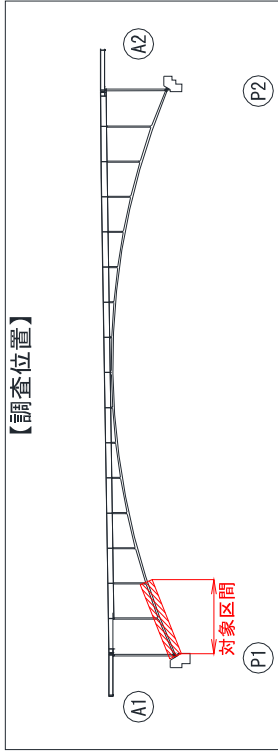
■ アーチリブP1-P2(上流側)



防食劣化度		アーチリブP1-P2(上流側)		アーチリブO115		アーチリブO116	
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境など	塗替え時期	塗装仕様	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗替え時期	塗装仕様
上面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と添接板に軽微な腐食が見られる。 主な原因は雨水の滯水と紫外線による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を直接受け、また添接板の周辺は雨水が滯水しやすいため、今後劣化の進行は速まると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 早めの塗替えが望まれる。 (部分塗替え) 	一般塗装系	上面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と端部に腐食が見られる。 主な原因は雨水の滯水と、法面に繁茂する樹木の影響による日当たり等の悪さが考えられる。 端部では雨水や土砂が滯水・堆積しやすいため、今後腐食の進行は一層速まると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 早めの塗替えが望まれる。 (部分塗替え) 	重防食系
下面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化がみられる。 下面はオーブで風通しがよく、直射日光も当たらないため紫外線による経年劣化進行も鈍いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などに塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系	下面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化がみられる。 下面はオーブで風通しがよく、直射日光も当たらないため紫外線による経年劣化進行も鈍いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などに塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系
側面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と添接板及び格点部の周辺に軽微な腐食が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を直接受けるため、今後劣化の進行は速まると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 早めの塗替えが望まれる。 (部分塗替え) 	一般塗装系	側面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と端部に軽微な腐食が見られる。 主な原因は雨水による影響と日当たりの悪さである。 雨風の影響を直接受けるため、今後劣化の進行は速まると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 早めの塗替えが望まれる。 (部分塗替え) 	重防食系
側面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と添接板及び格点部の周辺に軽微な腐食が見られる。 雨風や直射日光の影響を直接受けるため、今後劣化の進行は速まると考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある塗膜剥れに留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 早めの塗替えが望まれる。 (部分塗替え) 	一般塗装系	側面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と端部に軽微な腐食が見られる。 主な原因は雨水による影響と日当たりの悪さである。 雨風の影響を直接受けるため、今後劣化の進行は速まると考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある塗膜剥れに留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 早めの塗替えが望まれる。 (部分塗替え) 	重防食系
写真							

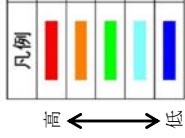
各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ アーチリブP1-P2(下流側)



【調査位置】

防食劣化度



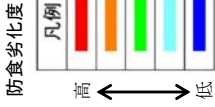
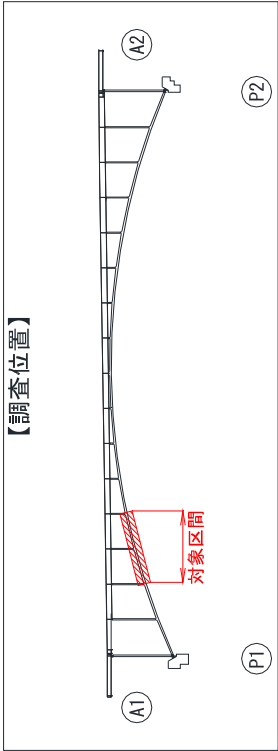
防食劣化度	上面	[Orange bar]	
	下面	[Orange bar]	
	側面(内側)	[Green bar]	
	側面(外側)	[Green bar]	

アーチリブ0201		アーチリブ0202	
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境
上面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水の滯水と、法面に繁茂する樹木の影響による日当たりの悪さが考えられる。 端部では雨水や土砂が滯水・堆積しやすいため、今後腐食の進行は一層速まると考えられる。 	上面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水の滯水と紫外線による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を直接受け、また溶接部の周辺は雨水が滯水しやすいいため、今後劣化の進行に留意する必要がある。
下面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 下面はオーブunで風通しがよく、直射日光も当たらないため紫外線による経年劣化進行も鈍いと考えられる。 	下面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 下面はオーブunで風通しがよく、直射日光も当たらないため紫外線による経年劣化進行も鈍いと考えられる。
側面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水による影響と日当たりの悪さである。 雨風の影響を直接受けるため、今後劣化の進行は速まると考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある。 	側面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水による影響である。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある塗膜割れに留意する必要がある。
側面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と端部に軽微な腐食が見られる 主な原因は雨水による影響と日当たりの悪さである。 雨風の影響を直接受けるため、今後劣化の進行は速まると考えられる。 	側面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を直接受けるため、今後劣化の進行に留意する必要がある。

写真	
----	--

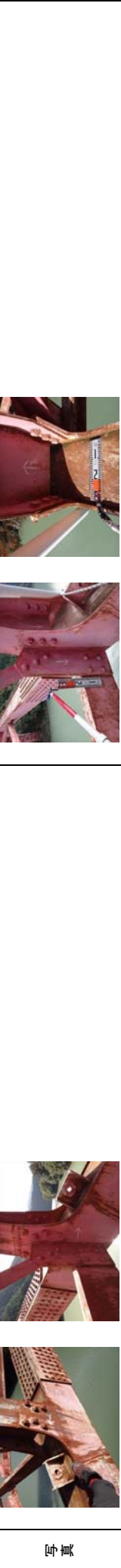
■ アーチリブP1-P2(下流側)

【調査位置】



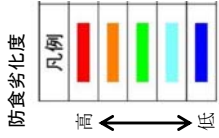
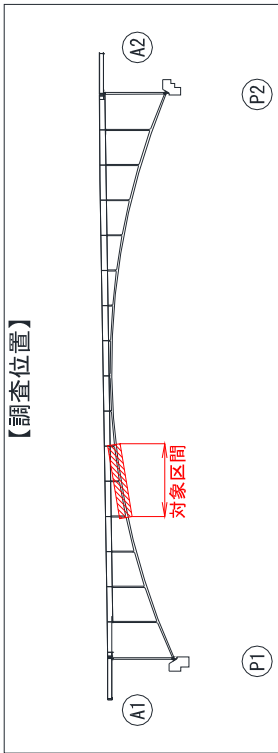
防食劣化度	上面	アーチリブ P1		アーチリブ P2	
	下面	アーチリブ P1		アーチリブ P2	
	側面(内側)	アーチリブ P1		アーチリブ P2	
	側面(外側)	アーチリブ P1		アーチリブ P2	

アーチリブ P1		アーチリブ P2	
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況および劣化原因・腐食環境
上面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水の滯水と紫外線による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を直接受け、また溶接部の周辺は雨水が滯水しやすいため、今後劣化の進行に留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水の滯水と紫外線による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を直接受け、また溶接部の周辺は雨水が滯水しやすいため、今後劣化の進行に留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水の滯水と紫外線による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を直接受け、また溶接部の周辺は雨水が滯水しやすいため、今後劣化の進行に留意する必要がある。
下面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 下面はオーブで風通しがよく、直射日光も当たらないため紫外線による経年劣化進行も鈍いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 下面はオーブで風通しがよく、直射日光も当たらないため紫外線による経年劣化進行も鈍いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水による影響である。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある塗膜割れに留意する必要がある。
側面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 当面的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水による影響である。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある塗膜割れに留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水による影響である。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある塗膜割れに留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水による影響である。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある塗膜割れに留意する必要がある。
側面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 当面的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水による影響である。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後劣化の進行に留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水による影響である。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後劣化の進行に留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水による影響である。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後劣化の進行に留意する必要がある。



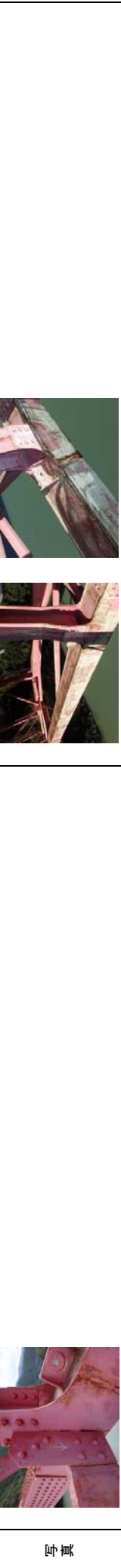
各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ アーチリブP1-P2(下流側)



防食劣化度	上面	アーチリブ P1		アーチリブ P2	
	下面	アーチリブ P1		アーチリブ P2	
	側面(内側)	アーチリブ P1		アーチリブ P2	
	側面(外側)	アーチリブ P1		アーチリブ P2	

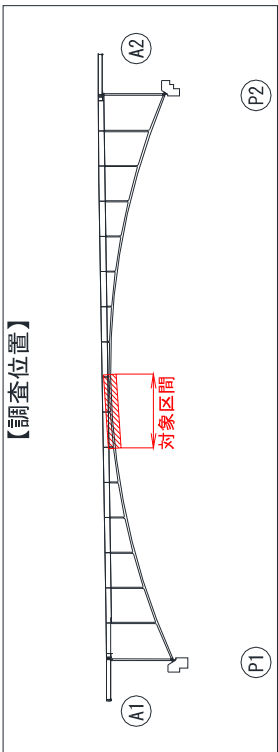
アーチリブ P1		アーチリブ P2	
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況および劣化原因・腐食環境
上面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水の滯水と紫外線による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を直接受け、また溶接部の周辺は雨水が滯水しやすいため、今後劣化の進行に留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水の滯水と紫外線による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を直接受け、また溶接部の周辺は雨水が滯水しやすいため、今後劣化の進行に留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 当年度経過観察と、今後定期点検時や亀裂調査時などに足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。
下面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 下面はオーブレンで風通しがよく、直射日光も当たらないため紫外線による経年劣化進行も鈍いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 下面はオーブレンで風通しがよく、直射日光も当たらないため紫外線による経年劣化進行も鈍いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当年度経過観察と、今後定期点検時や亀裂調査時などに足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。
側面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水による影響である。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある塗膜割れに留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水による影響である。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある塗膜割れに留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 当年度経過観察と、今後定期点検時や亀裂調査時などに足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。
側面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を直接受けるため、今後劣化の進行に留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を直接受けるため、今後劣化の進行に留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 当年度経過観察と、今後定期点検時や亀裂調査時などに足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。



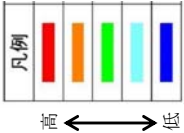
各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ アーチリブP1-P2(下流側)

【調査位置】



防食劣化度



防食劣化度	上面	下面	側面(内側)	側面(外側)

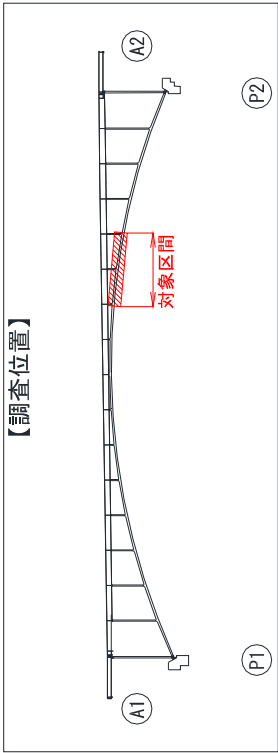
アーチリブ 0208				
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様	塗装仕様
上面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水の滲水と紫外線による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を受け、また溶接部の周辺は雨水が滲水しやすいため、今後劣化の進行に留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 アーチクラウン部は床版と主桁に覆われる部位であり、雨風の影響を直接受けにくいいため、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 	一般塗装系	一般塗装系
下面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に防食機能の劣化は軽微である。 下面はオーブんで風通しがよく、直射日光も当たらないため紫外線による経年劣化進行も鈍いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化は軽微である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けにくいいため、劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある塗膜割れに留意する必要がある。 	一般塗装系	一般塗装系
側面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水による影響である。 疲労亀裂がある塗膜割れに留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けにくいため、劣化の進行は鈍いと考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位があり、今後発生の可能性がある塗膜割れに留意する必要がある。 	一般塗装系	一般塗装系
側面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を受けやすいため、今後劣化の進行に留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に軽微な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 雨風の影響を直接受けにくいいため、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 	一般塗装系	一般塗装系



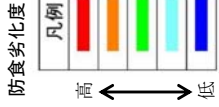
写真

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ アーチリブP1-P2(下流側)

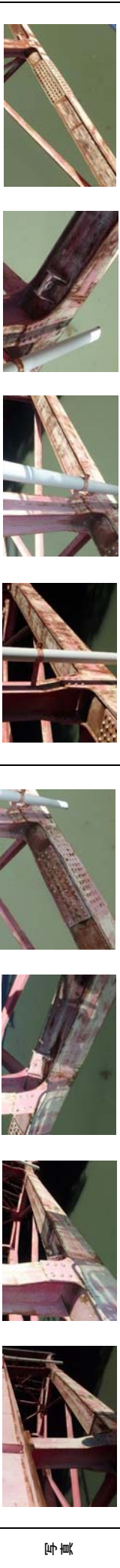


【調査位置】



防食劣化度	上面					
	下面					
	側面(内側)					
	側面(外側)					

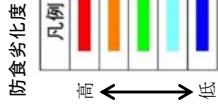
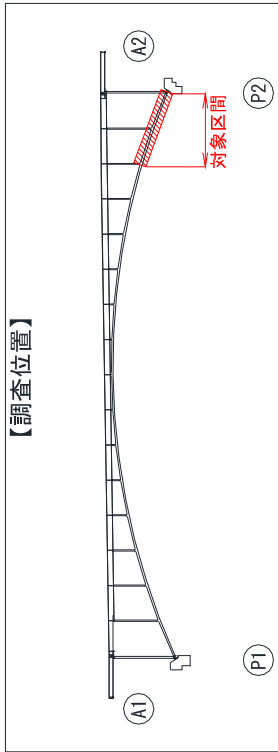
アーチリブ0212						
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様	塗装仕様	塗装時期	塗装仕様
上面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 経年劣化である。 主な原因は雨水の滯水と紫外線による影響である。 雨風や直射日光の影響を直接受け、また溶接部の周辺は雨水が滯水しやすいいため、今後劣化の進行に留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 経年劣化である。 主な原因は雨水の滯水と紫外線による影響である。 雨風や直射日光の影響を直接受け、また溶接部の周辺は雨水が滯水しやすいいため、今後劣化の進行に留意する必要がある。 	一般塗装系	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などに足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系
下面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 直射日光も当たらないため紫外線による経年劣化進行も鈍いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 直射日光も当たらないため紫外線による経年劣化進行も鈍いと考えられる。 	一般塗装系	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などに足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系
側面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水による影響である。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある塗膜割れに留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水による影響である。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある塗膜割れに留意する必要がある。 	一般塗装系	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などに足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系
側面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 経年劣化である。 主な原因は紫外線の影響を直接受けるため、今後劣化の進行に留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 経年劣化である。 主な原因は紫外線の影響を直接受けるため、今後劣化の進行に留意する必要がある。 	一般塗装系	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などに足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系



写真

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

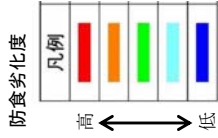
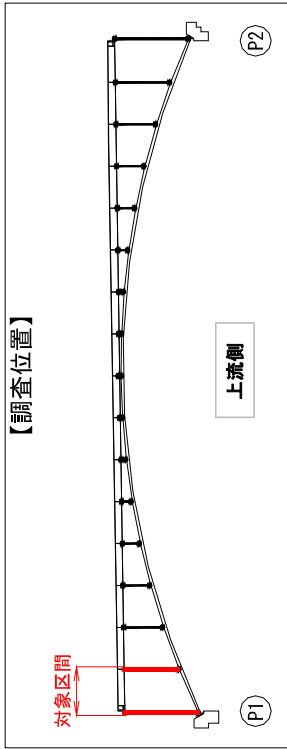
■ アーチリブP1-P2(下流側)



防食劣化度	アーチリブ0215				アーチリブ0216								
	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様	塗替え時期	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様	塗替え時期					
△	上面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と添接板に軽微な腐食が見られる。 主な原因は雨水の滯水と紫外線による経年劣化である。 雨風や直射日光の影響を直接受け、また添接板の周辺は雨水が滯水しやすいため、今後劣化の進行は速まると考えられる。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 早めの塗替えが望まれる。(部分塗替え) 	上面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水の滯水と、法面に繁茂する樹木の影響による日当たりが重なりやすいため、法面に雨水が滯水しやすいため、今後劣化の進行は速まると考えられる。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 早めの塗替えが望まれる。(部分塗替え) 	上面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水の滯水と、法面に繁茂する樹木の影響による日当たりが重なりやすいため、法面に雨水が滯水しやすいため、今後劣化の進行は速まると考えられる。 	重防食系	<ul style="list-style-type: none"> 早めの塗替えが望まれる。(部分塗替え) 	
	下面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化がみられる。 下面はオーブで風通しがよく、直射日光も当たらないため紫外線による経年劣化の進行は遅いと見られる。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などに塗替えを行うのがよい。 	下面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 下面はオーブで風通しがよく、直射日光も当たらないため紫外線による経年劣化の進行は遅いと見られる。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などに塗替えを行うのがよい。 	下面	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 下面はオーブで風通しがよく、直射日光も当たらないため紫外線による経年劣化の進行は遅いと見られる。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 早めの塗替えが望まれる。(部分塗替え) 	
	側面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と添接板及び格点部の周辺に軽微な腐食が見られる。 雨風や直射日光の影響を直接受けるため、今後劣化の進行は速まると考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある塗膜剥れに留意する必要がある。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 早めの塗替えが望まれる。(部分塗替え) 	側面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と端部に軽微な腐食が見られる。 主な原因は雨水による影響と日当たりの悪さである。 雨風の影響を直接受けるため、今後劣化の進行は速まると考えられる。 疲労亀裂が懸念される溶接部を含む部位であり、今後発生の可能性がある塗膜剥れに留意する必要がある。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 早めの塗替えが望まれる。(部分塗替え) 	側面(内側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と端部に軽微な腐食が見られる。 主な原因は雨水による影響と日当たりの悪さである。 雨風の影響を直接受けるため、今後劣化の進行は速まると考えられる。 	重防食系	<ul style="list-style-type: none"> 早めの塗替えが望まれる。(部分塗替え) 	
	側面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と添接板及び格点部の周辺に軽微な腐食が見られる。 雨風や直射日光の影響を直接受けるため、今後劣化の進行は速まると考えられる。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 早めの塗替えが望まれる。(部分塗替え) 	側面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と端部に軽微な腐食が見られる。 主な原因は雨水による影響と日当たりの悪さである。 雨風の影響を直接受けるため、今後劣化の進行は速まると考えられる。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 早めの塗替えが望まれる。(部分塗替え) 	側面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 早めの塗替えが望まれる。(部分塗替え) 	側面(外側)	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と端部に軽微な腐食が見られる。 主な原因は雨水による影響と日当たりの悪さである。 雨風の影響を直接受けるため、今後劣化の進行は速まると考えられる。 	重防食系
写真													

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ 支柱P1-P2

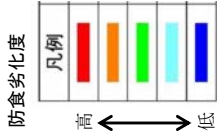
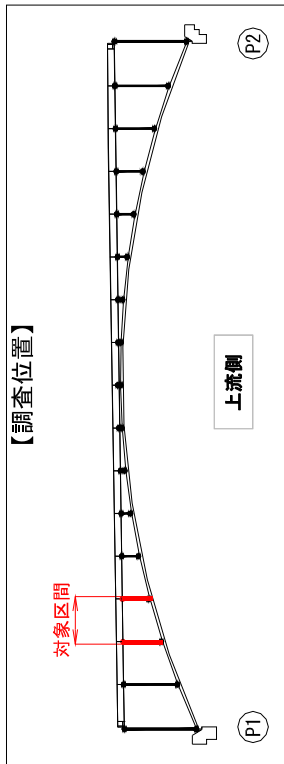


防食劣化度	支柱0101		支柱0102	
劣化状況・劣化原因等	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境など	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境
高	格点0101	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に腐食が見られる。 主に伸縮装置からの漏水が原因であり、漏水対策を行わない場合は、今後劣化の進行は一層速まると考えられる。 	格点0102	<ul style="list-style-type: none"> 格点部には腐食が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 プレートの接合部は湿潤状態になりやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。
	支柱0101	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に防食機能の劣化が見られる。 主な原因は伸縮装置からの漏水と風雨による影響であり、格点同様に、劣化の進展に注意する必要がある。 	支柱0102	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。
	格点0201	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に腐食が見られる。 土砂堆積や植生が見られ、恒常的に湿潤状態となっており、劣化の進行程度は速いと考えられる。 また法面からの土砂を防ぐ措置を講ずる必要がある。 	格点0202	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に腐食が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。
中				
低				
写真				

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ 支柱P1-P2

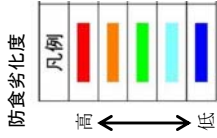
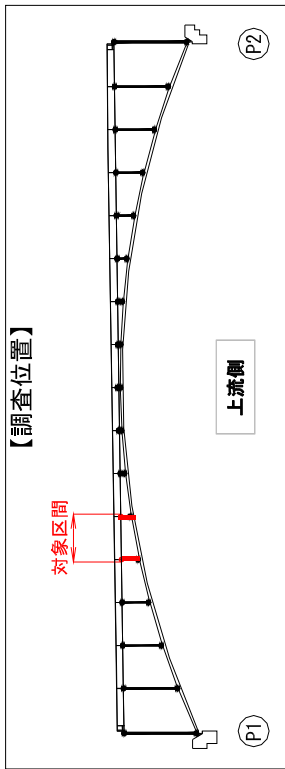
【調査位置】



防食劣化度	支柱0103		支柱0104	
劣化状況・劣化原因等	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境など	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境
一般塗装系	格点0103	<ul style="list-style-type: none"> ・軽微な防食機能の劣化が見られる。 ・主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 ・ブレードの接合部は濡潤状態になりやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	格点0104	<ul style="list-style-type: none"> ・格点部には腐食、支柱には全体的に軽微な防食機能の劣化が見られる。 ・主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 ・ブレードの接合部は濡潤状態になりやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。
	支柱0103	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に防食機能の劣化が見られる。 ・主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 ・雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	支柱0104	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に防食機能の劣化が見られる。 ・主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 ・雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。
	格点0203	<ul style="list-style-type: none"> ・格点部に腐食が見られる。 ・主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 ・雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	格点0204	<ul style="list-style-type: none"> ・格点部に腐食が見られる。 ・主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 ・雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。
写真				

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

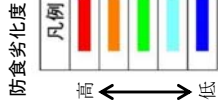
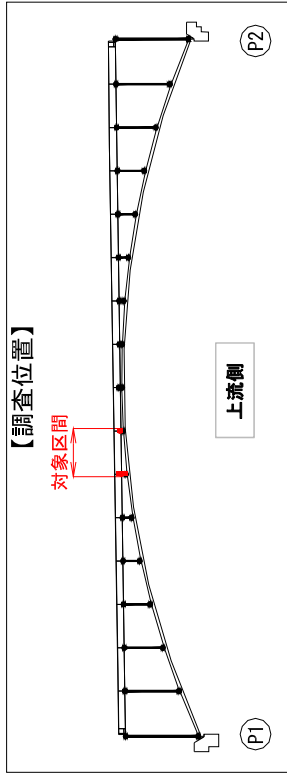
■ 支柱P1-P2



防食劣化度	支柱0105		支柱0106	
	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様	塗装仕様
	格点0105	<ul style="list-style-type: none"> 格点部及び支柱に防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 格点部について、プレートの接合部は湿潤状態になりやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置する際に効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置する際に効率的に塗替えを行うのがよい。
	支柱0105	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に軽微な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置する際に効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置する際に効率的に塗替えを行うのがよい。
	格点0205	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に腐食が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置する際に効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置する際に効率的に塗替えを行うのがよい。
	格点0106	<ul style="list-style-type: none"> 格点部及び支柱に防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 格点部について、プレートの接合部は湿潤状態になりやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置する際に効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置する際に効率的に塗替えを行うのがよい。
	支柱0106	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に軽微な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置する際に効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置する際に効率的に塗替えを行うのがよい。
	格点0206	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に腐食が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置する際に効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置する際に効率的に塗替えを行うのがよい。
	写真			

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ 支柱P1-P2



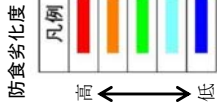
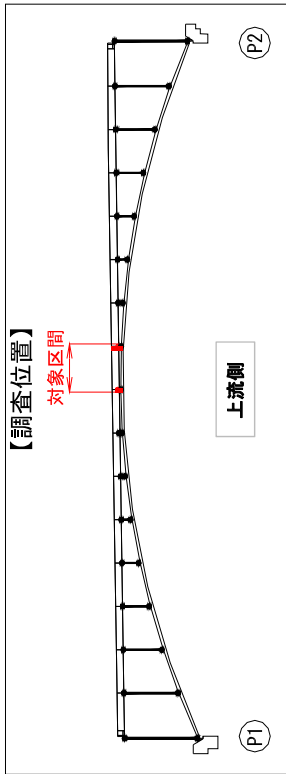
防食劣化度		支柱0107		支柱0108	
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様	塗装時期	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様
格点0107	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 格点部について、プレートの接合部は湿潤状態になりやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査などで足場を設けるときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 格点部について、プレートの接合部は湿潤状態になりやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	一般塗装系
支柱0107	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に軽微な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査などで足場を設けるときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 軽微な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 南側に比べて、日光や雨風の影響を受けにくいため、劣化の進行は鈍いと考えられる。 	一般塗装系
格点0207	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に腐食が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査などで足場を設けるときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 南側に比べて、日光や雨風の影響を受けにくいため、劣化の進行は鈍いと考えられる。 	一般塗装系



写真

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

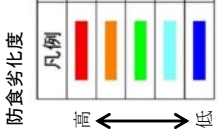
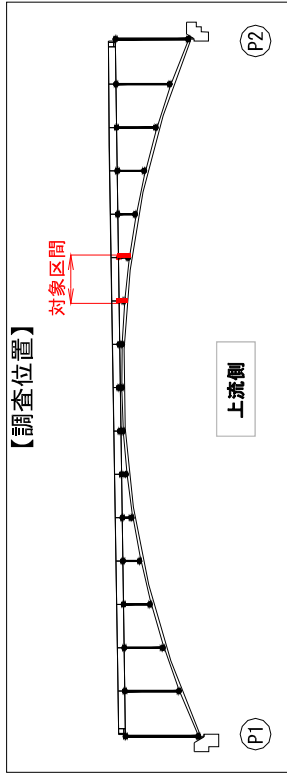
■ 支柱P1-P2



防食劣化度	支柱O109		支柱O110	
	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境
	格点0109	<ul style="list-style-type: none"> 軽微な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化と考えられる。 クラウン部は、直射日光や雨風の影響を直接受けにくいため、劣化の進行は鈍いと考えられる。 	格点0110	<ul style="list-style-type: none"> 軽微な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 プレートの接合部は濡潤状態になりやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。
	支柱0109	<ul style="list-style-type: none"> 軽微な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 南側に比べて、日光や雨風の影響を受けにくいため、劣化の進行は鈍いと考えられる。 	支柱0110	<ul style="list-style-type: none"> 軽微な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 南側に比べて、日光や雨風の影響を受けにくいため、劣化の進行は鈍いと考えられる。
	格点0209	<ul style="list-style-type: none"> 軽微な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化と考えられる。 クラウン部は、直射日光や雨風の影響を直接受けにくいため、劣化の進行は鈍いと考えられる。 	格点0210	<ul style="list-style-type: none"> 軽微な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 南側に比べて、日光や雨風の影響を受けにくいため、劣化の進行は鈍いと考えられる。
		塗装仕様	塗装仕様	塗装仕様
		一般塗装系	一般塗装系	一般塗装系
		塗装時期	塗装時期	塗装時期
		<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。
		写真	写真	写真

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

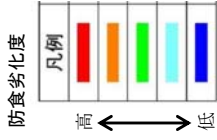
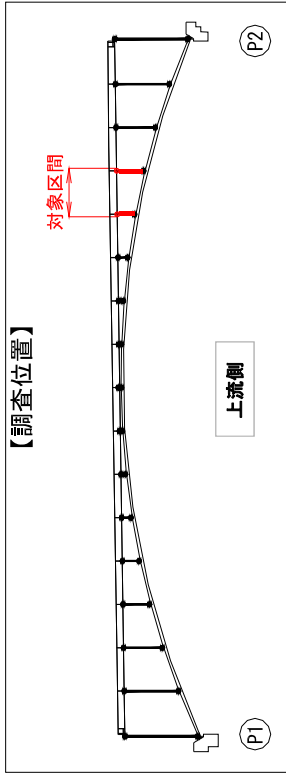
■ 支柱P1-P2



防食劣化度	支柱O111		支柱O112	
劣化状況・劣化原因等	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境
一般塗装系	格点0111	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 プレートの接合部は濡潤状態になりやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	格点0112	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に腐食が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 プレートの接合部は濡潤状態になりやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。
	支柱0111	<ul style="list-style-type: none"> 軽微な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 南側に比べて、直射日光の影響を受けにくいいため、劣化の進行は鈍いと考えられる。 	支柱0112	<ul style="list-style-type: none"> 軽微な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 南側に比べて、直射日光の影響を受けにくいいため、劣化の進行は鈍いと考えられる。
	格点0211	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に軽微な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	格点0212	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に腐食が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。
写真				

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

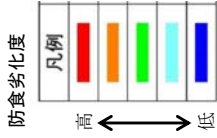
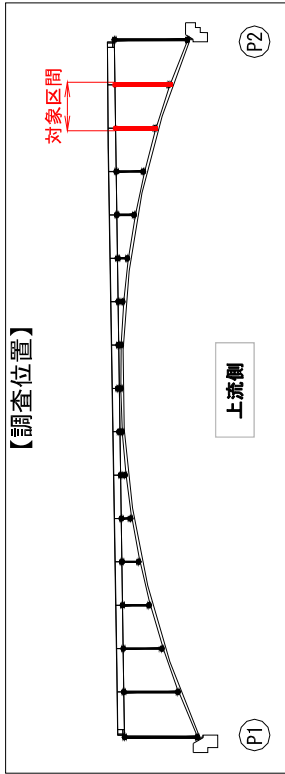
■ 支柱P1-P2



防食劣化度	支柱0113		支柱0114	
	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境
	格点0113	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 プレートの接合部は湿潤状態になりやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	格点0114	<ul style="list-style-type: none"> 格点部には腐食が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 雨風の影響は雨水と紫外線により、劣化の進展に注意する必要がある。 プレートの接合部は湿潤状態になりやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。
	支柱0113	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に軽微な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 雨風の影響は雨水と紫外線により、劣化の進展に注意する必要がある。 	支柱0114	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に軽微な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線により、劣化の進展に注意する必要がある。 雨風の影響は雨水と紫外線により、劣化の進展に注意する必要がある。
	格点0213	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に腐食が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 雨風の影響は雨水と紫外線により、劣化の進展に注意する必要がある。 	格点0214	<ul style="list-style-type: none"> 格点部全体の腐食が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 雨風の影響は雨水と紫外線により、劣化の進展に注意する必要がある。
		塗装仕様		塗装仕様
		一般塗装系		一般塗装系
		塗装時期		塗装時期
		<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設け替える際に効率的に塗替えを行うのがよい。 		<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設け替える際に効率的に塗替えを行うのがよい。
		一般塗装系		一般塗装系
		一般塗装系		一般塗装系
		一般塗装系		一般塗装系
写真				

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

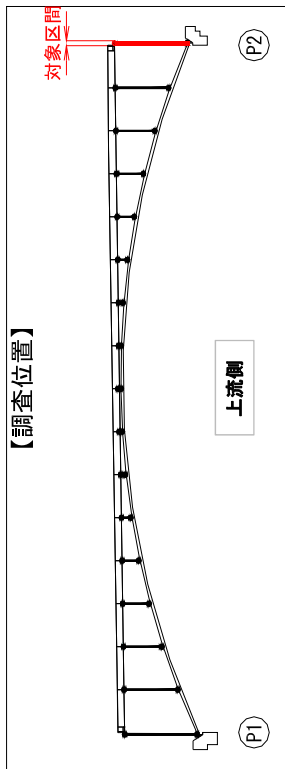
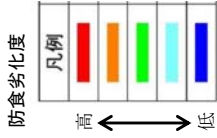
■ 支柱P1-P2



防食劣化度	支柱O115		支柱O116	
	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境
	格点0115	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 ブレードの接合部は濡潤状態になりやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	格点0116	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に腐食が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 ブレードの接合部は濡潤状態になりやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。
	支柱0115	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	支柱0116	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。
	格点0215	<ul style="list-style-type: none"> 格点部全体に腐食が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	格点0216	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に腐食が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。
		塗装仕様		塗装仕様
		一般塗装系		一般塗装系
		塗装時期		塗装時期
		<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置する際に効率的に塗替えを行うのがよい。 		<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置する際に効率的に塗替えを行うのがよい。
		写真		写真

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

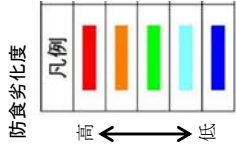
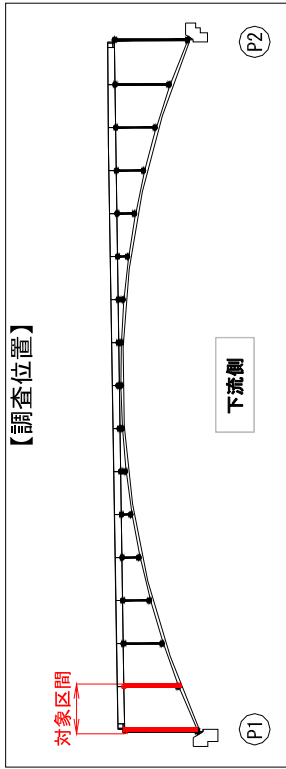
■ 支柱P1-P2



防食劣化度		劣化状況・劣化原因等		写真			
		<p>支柱0117</p> <p>劣化状況および劣化原因・腐食環境など</p> <ul style="list-style-type: none"> 格点部には腐食、支柱には全体的に防食機能の劣化が見られる。 主に伸縮装置からの漏水が原因であり、ブレードの接合部は湿潤状態になりやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。漏水対策を行わない場合は、今後劣化の進行は一層速まると考えられる。 全体的に防食機能の劣化が見られる。 伸縮装置からの漏水が支柱に広がっているため、湿潤状態となっており、劣化の進行は、今後劣化の進行は一層速まると考えられる。 格点部に腐食が見られ、リブブレードの一部に減肉が見られる。 土砂堆積や植生が見られることから、湿潤状態となっており、劣化の進行度は速いと考えられる。 また法面からの土砂を防ぐ措置を講ずる必要がある。 		<p>塗装仕様</p> <p>重防食系</p> <p>一般塗装系</p> <p>重防食系</p>			
<p>部位</p> <p>格点0117</p> <p>支柱0117</p> <p>格点0217</p>		<p>塗装時期</p> <ul style="list-style-type: none"> 部分的に腐食が進行しているため、早めの塗替えを行うことが望ましい。 当面経過観察とし、今後点検等で足場を設置する際に効率的に塗替えを行うのがよい。 部分的に腐食が進行しているため、早めの塗替えを行うことが望ましい。 					

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

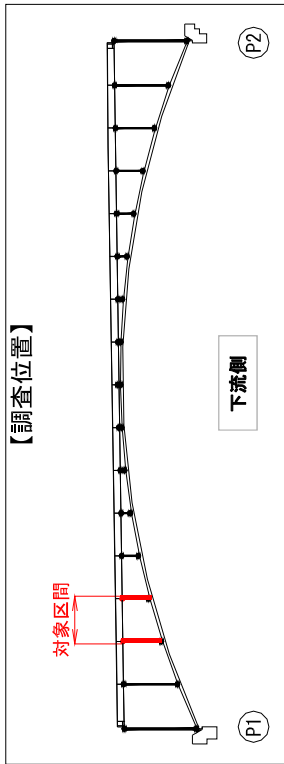
■ 支柱P1-P2



防食劣化度	支柱0201		支柱0202	
劣化状況・劣化原因等	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境など	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境
防食劣化度	格点0301	<ul style="list-style-type: none"> 格点部にはプレレート接合部に著しい腐食が見られる。 主に伸縮装置からの漏水が原因であり、日当たりも悪いことから、漏水対策を行わない場合、劣化の進行は一層速まると考えられる。 	格点0302	<ul style="list-style-type: none"> 格点部には腐食が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 支柱は雨風の影響を直接受けやすく、格点部については、プレートの接合部は湿潤状態になりやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。
	支柱0201	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 直射日光と雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 格点部に腐食が見られる。 土砂堆積や植生が生え、劣化の進行程度は速いと考えられる。 また法面からの土砂を防ぐ措置を講ずる必要がある。 	支柱0202	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 直射日光と雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 格点部に腐食が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 格点部の内側のボルトが脱落しているため、早急に補修を行うことが望ましい。
	格点0401	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に腐食が見られる。 土砂堆積や植生が生え、劣化の進行程度は速いと考えられる。 また法面からの土砂を防ぐ措置を講ずる必要がある。 	格点0402	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に腐食が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 格点部の内側のボルトが脱落しているため、早急に補修を行うことが望ましい。
写真				

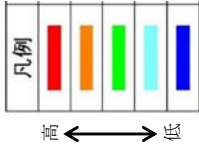
各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ 支柱P1-P2



【調査位置】

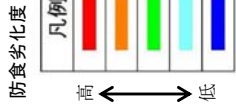
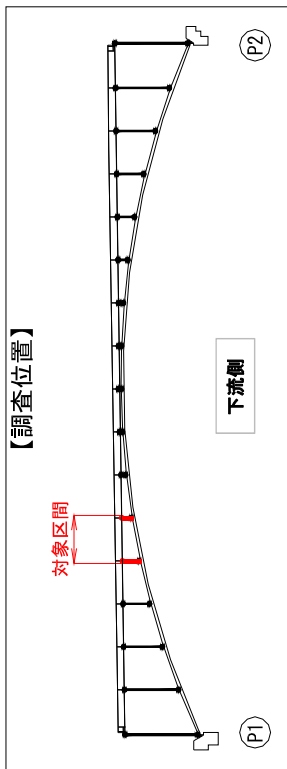
防食劣化度



防食劣化度	支柱P1		支柱P2	
	支柱0203			
	<p>部位</p> <p>格点0303</p>	<p>劣化状況および劣化原因・腐食環境</p> <p>・防食機能の劣化が全体的に見られる。 ・主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 ・雨風と直射日光を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。</p>	<p>塗装仕様</p> <p>一般塗装系</p>	<p>塗装仕様</p> <p>一般塗装系</p>
		<p>劣化状況および劣化原因・腐食環境</p> <p>・格点部には腐食が見られる。 ・主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 ・プレートの接合部は濡潤状態になりやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。</p>	<p>塗装時期</p> <p>・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。</p>	<p>塗装仕様</p> <p>一般塗装系</p>
		<p>劣化状況および劣化原因・腐食環境</p> <p>・全体的に防食機能の劣化が見られる。 ・主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 ・雨風と直射日光を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。</p>	<p>塗装時期</p> <p>・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。</p>	<p>塗装仕様</p> <p>一般塗装系</p>
		<p>劣化状況および劣化原因・腐食環境</p> <p>・格点部に腐食が全体的に見られる。 ・主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 ・雨風と直射日光を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。</p>	<p>塗装時期</p> <p>・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。</p>	<p>塗装仕様</p> <p>一般塗装系</p>
				支柱0204
		<p>劣化状況および劣化原因・腐食環境</p> <p>・格点部には腐食が見られる。 ・主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 ・プレートの接合部は濡潤状態になりやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。</p>	<p>塗装時期</p> <p>・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。</p>	<p>塗装仕様</p> <p>一般塗装系</p>
		<p>劣化状況および劣化原因・腐食環境</p> <p>・全体的に防食機能の劣化が見られる。 ・主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 ・雨風と直射日光を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。</p>	<p>塗装時期</p> <p>・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。</p>	<p>塗装仕様</p> <p>一般塗装系</p>
		<p>劣化状況および劣化原因・腐食環境</p> <p>・格点部に腐食が全体的に見られる。 ・主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 ・雨風と直射日光を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。</p>	<p>塗装時期</p> <p>・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。</p>	<p>塗装仕様</p> <p>一般塗装系</p>
				写真

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

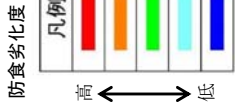
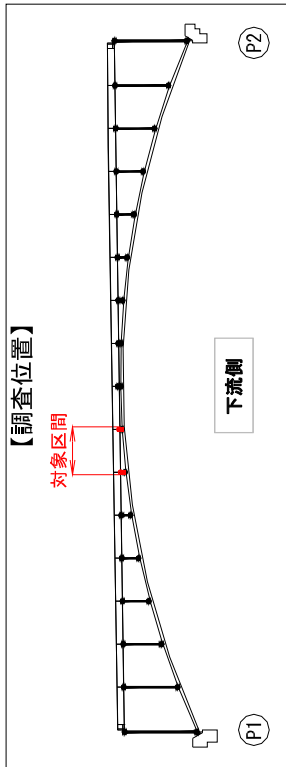
■ 支柱P1-P2



防食劣化度		支柱0205		支柱0206		
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様	塗装時期	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	
格点0305	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 ブレードの接合部は湿潤状態になりやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	格点0306	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 ブレードの接合部は湿潤状態になりやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	
支柱0205	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 直射日光と雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	支柱0206	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 直射日光と雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	
格点0405	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に部分的な腐食が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 雨風と直射日光を直接受けやすく接合部付近は滞水しやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	格点0406	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に部分的な腐食が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 雨風と直射日光を直接受けやすく接合部付近は滞水しやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	
写真					塗装仕様	<ul style="list-style-type: none"> 一般塗装系 一般塗装系 一般塗装系

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

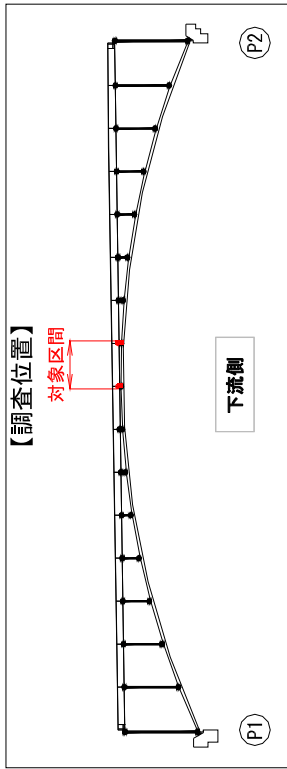
■ 支柱P1-P2



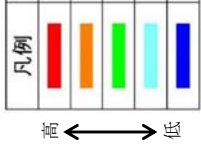
防食劣化度		支柱0207		支柱0208	
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様	塗装時期	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境
格点0307	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に腐食が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 プレートの接合部は濡潤状態になりやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	格点0308	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に腐食が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 プレートの接合部は濡潤状態になりやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。
支柱0207	<ul style="list-style-type: none"> 軽微な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 直射日光と雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	支柱0208	<ul style="list-style-type: none"> 軽微な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。
格点0407	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 雨風と直射日光を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	格点0408	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 雨風と直射日光を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。
写真					

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ 支柱P1-P2



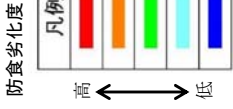
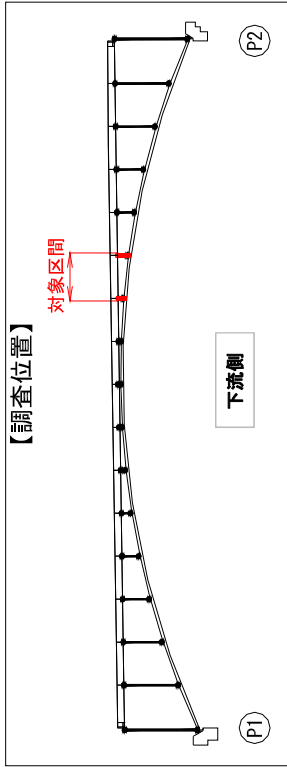
防食劣化度



防食劣化度	支柱0209		支柱0210	
劣化状況・劣化原因等	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境
防食劣化度	格点0309	<ul style="list-style-type: none"> 軽微な防食機能の劣化が見られる 主な原因は紫外線による経年劣化である。 クラウン部は雨水の影響を受けにくいいため、他の格点部に比べて劣化の進行は鈍いと考えられる。 	格点0310	<ul style="list-style-type: none"> 軽微な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 プレートの接合部は濡潤状態になりやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。
	支柱0209	<ul style="list-style-type: none"> 軽微な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 	支柱0210	<ul style="list-style-type: none"> 軽微な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。
	格点0409	<ul style="list-style-type: none"> 軽微な防食機能の劣化が見られる 主な原因は紫外線による経年劣化である。 クラウン部は雨水の影響を受けにくいいため、他の格点部に比べて劣化の進行は鈍いと考えられる。 	格点0410	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に腐食が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 雨風と直射日光を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。
写真				

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

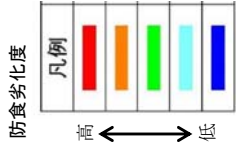
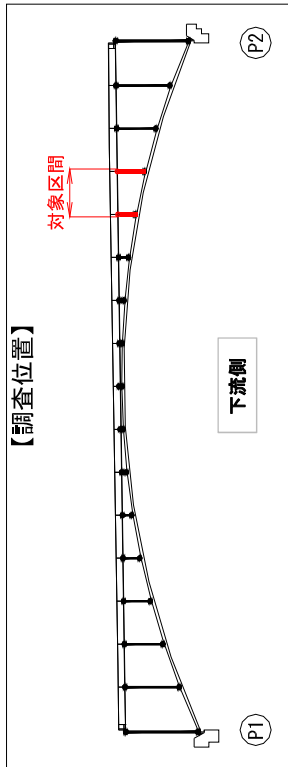
■ 支柱P1-P2



防食劣化度	支柱0211		支柱0212	
	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境
	格点0311	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 格点部について、プレートの接合部は湿潤状態になりやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	格点0312	<ul style="list-style-type: none"> 格点部には防食が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 格点部について、プレートの接合部は湿潤状態になりやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。
	支柱0211	<ul style="list-style-type: none"> 軽微な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 直射日光と雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	支柱0212	<ul style="list-style-type: none"> 軽微な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 直射日光と雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。
	格点0411	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に軽微な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 雨風と直射日光を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	格点0412	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に防食が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 雨風と直射日光を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。
		塗装仕様		塗装仕様
		一般塗装系		一般塗装系
		塗装時期		塗装時期
		<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 		<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。
		塗装劣化度		塗装劣化度
		一般塗装系		一般塗装系
写真				

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

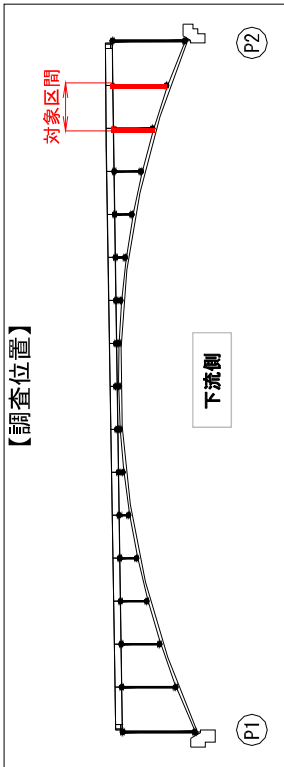
■ 支柱P1-P2



防食劣化度	支柱O213		支柱O214	
	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境
	格点0313	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 格点部のプレートの接合部は湿潤状態になりやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	格点0314	<ul style="list-style-type: none"> 格点部には腐食が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 格点部のプレートの接合部は湿潤状態になりやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。
	支柱0213	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 直射日光と雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	支柱0214	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 直射日光と雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。
	格点0413	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に腐食が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 雨風と直射日光を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	格点0414	<ul style="list-style-type: none"> 格点部全体的に腐食が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 雨風と直射日光を直接受けやすいため、また添接部は滞水しやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。
		塗装仕様		塗装仕様
		一般塗装系		一般塗装系
		塗装時期		塗装時期
		<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 		<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。
		劣化状況・劣化原因等		劣化状況・劣化原因等
		写真		写真

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

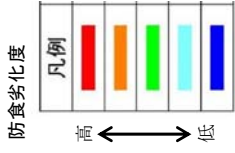
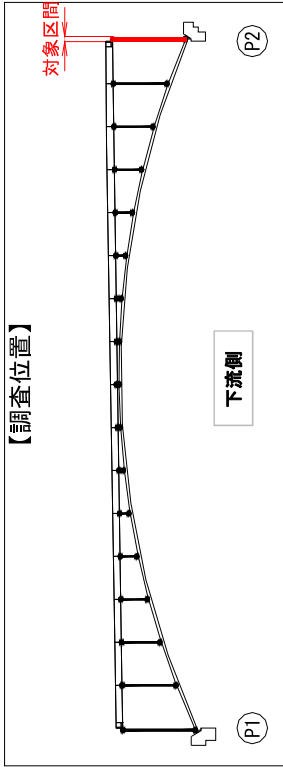
■ 支柱P1-P2



防食劣化度	支柱0215		支柱0216		
劣化状況・劣化原因等	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	
	格点0315	<ul style="list-style-type: none"> 格点部に防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 格点部のプレートの接合部は湿潤状態になりやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	塗装仕様 一般塗装系	塗装時期 <ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	塗装仕様 一般塗装系
	支柱0215	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 直射日光と雨風の影響を直接受けやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	塗装仕様 一般塗装系	塗装時期 <ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	塗装仕様 一般塗装系
	格点0415	<ul style="list-style-type: none"> 格点部全体的に腐食が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 雨風と直射日光を直接受けやすく、添接部は滞水しやすいため、劣化の進展に注意する必要がある。 	塗装仕様 一般塗装系	塗装時期 <ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	塗装仕様 一般塗装系
写真					

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

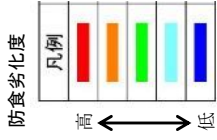
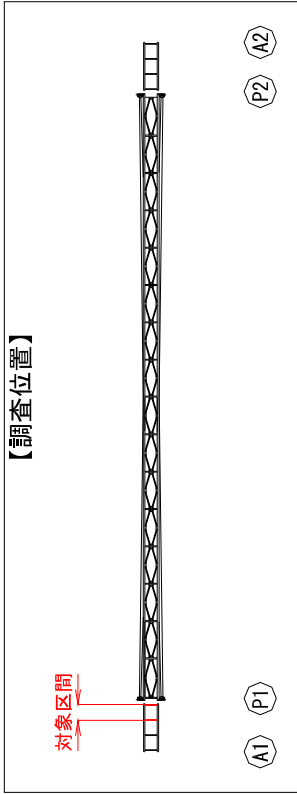
■ 支柱P1-P2



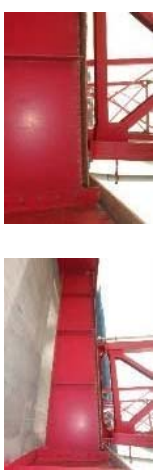
防食劣化度	支柱0217		塗装仕様	塗替え時期	劣化状況および劣化原因・腐食履歴など	劣化状況・劣化原因等	写真
			重防食系	<ul style="list-style-type: none"> 部分的に腐食が進行しているため、早めの塗替えを行うことが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> 格点部には腐食、支柱には全体的に防食機能の劣化が見られる。 主に伸縮装置からの漏水が原因であり、漏水対策を行わない場合は、今後劣化の進行は一層速まると考えられる。 		
			一般塗装系	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後点検等で足場を設置する際に効率的に塗替えを行うのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に防食機能の劣化が見られる。 伸縮装置からの漏水が支柱に広がっているため、風潤状態となっており、劣化の進行程度は速いと考えられる。 排水管が欠損しており、排水が格点部に影響するため、排水管の流末処理も必要である。 		
			重防食系	<ul style="list-style-type: none"> 部分的に腐食が進行しているため、早めの塗替えを行うことが望ましい。 			

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ 横桁A1-P1



防食劣化度	横桁O103		横桁O104	
	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境など	劣化状況および劣化原因・腐食環境	部位
		<p>・全体的にマイルドな環境に於じた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。</p> <p>・床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けないため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。</p>	<p>・全体的にマイルドな環境に於じた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。</p> <p>・床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の漏水の影響が懸念される。</p>	
	-			-
	-			-
	-			-
	-			-
		<p>・当面経過観察とし、今後定期点検するなど足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。</p>	<p>・当面経過観察とし、今後定期点検するなど足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。</p>	<p>一般塗装系</p>
				<p>一般塗装系</p>

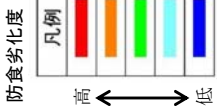
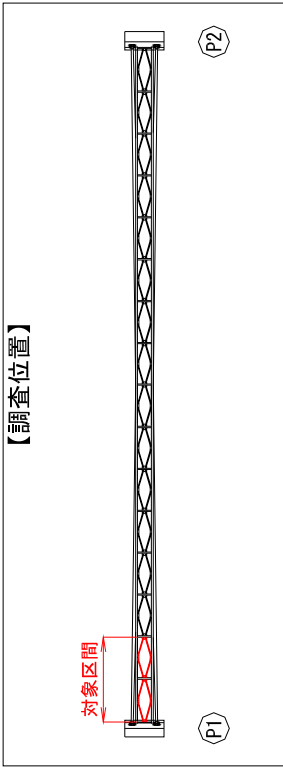


写真

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ 横桁・上横構P1-P2

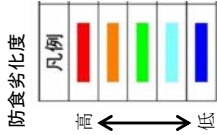
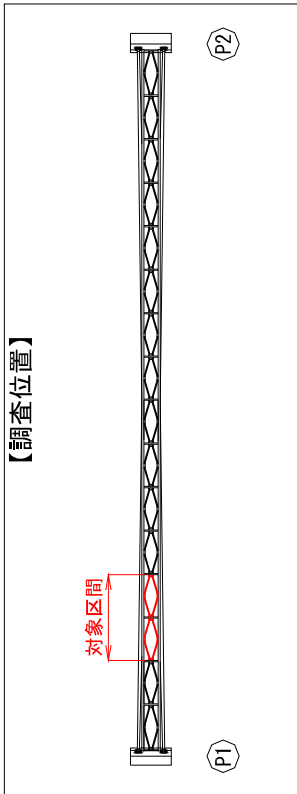
【調査位置】



防食劣化度	横桁0101・横桁0102・上横構 0101				横桁0103・上横構 0102					
	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境など	塗替え時期	塗装仕様	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗替え時期	塗装仕様		
	-	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に応じた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けないため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系	-	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に応じた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けないため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系		
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
劣化状況・劣化原因等										
写真										

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ 横桁・上横構P1-P2



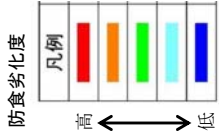
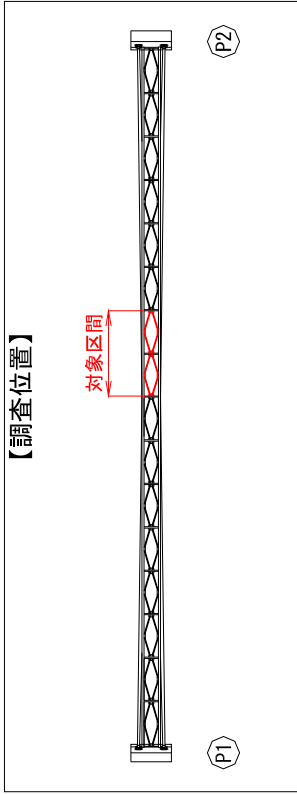
防食劣化度	横桁O104・上横構 O103				横桁O105・上横構 O104			
	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境など	塗替え時期	塗装仕様	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗替え時期	塗装仕様
	-	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に応じた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けないため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系	-	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に応じた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けないため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系
	-				-			
	-				-			
	-				-			



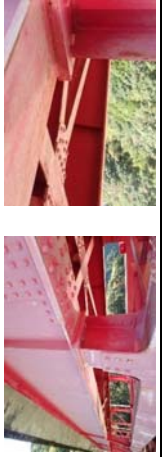
写真

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ 横桁・上横構P1-P2



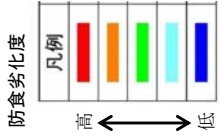
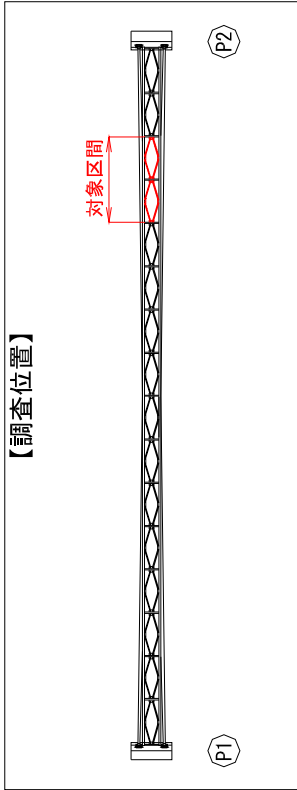
防食劣化度	横桁O110・上横構 O109				横桁O111・上横構 O110			
	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境など	塗替え時期	塗装仕様	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗替え時期	塗装仕様
	-	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に於じた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けなため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系	-	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に於じた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けなため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系
	-				-			
	-				-			
	-				-			



写真

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ 横桁・上横構P1-P2



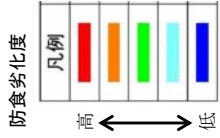
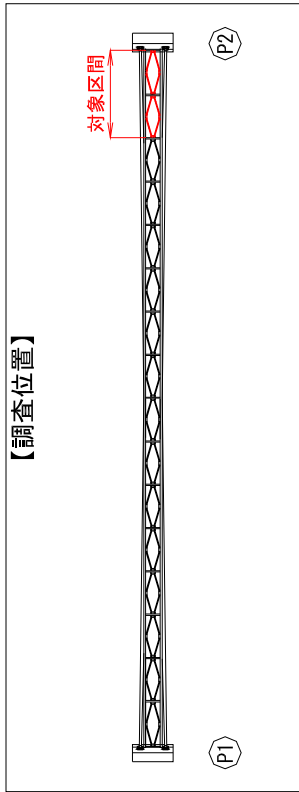
防食劣化度	横桁O114・上横構 O113				横桁O115・上横構 O114			
	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境など	塗替え時期	塗装仕様	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗替え時期	塗装仕様
	-	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に応じた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けないため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系	-	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に応じた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けないため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系
	-				-			
	-				-			
	-				-			



写真

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ 横桁・上横構P1-P2



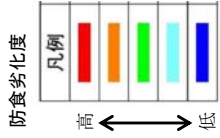
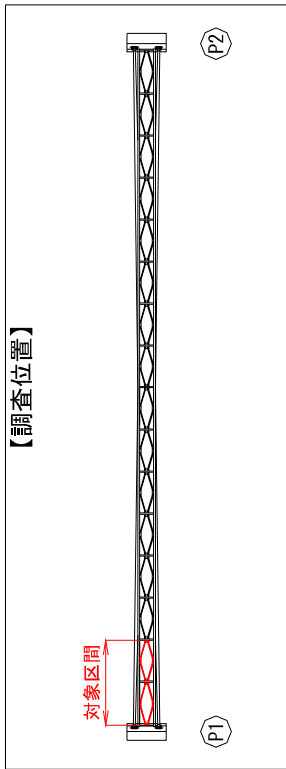
防食劣化度	横桁O116・上横構 O115				横桁O117・上横構 O116			
	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境など	塗替え時期	塗装仕様	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗替え時期	塗装仕様
	-	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に於じた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けなため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系	-	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にマイルドな環境に於じた軽微な防食機能の劣化が見られる程度である。 床版と主桁に覆われる部位であり、雨風や直射日光の影響を直接受けなため、多少の湿潤環境ではあるが、今後も劣化の進行は鈍いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系
	-				-			
	-				-			
	-				-			



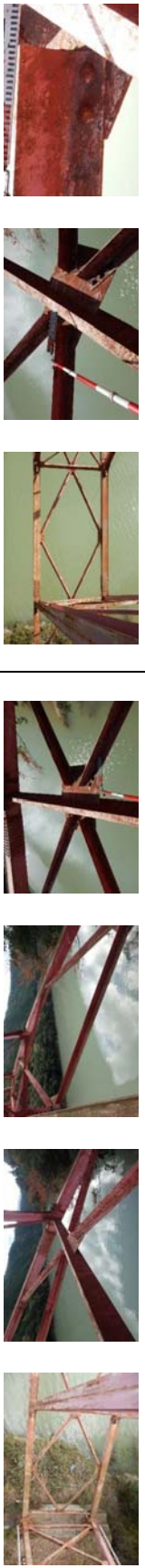
写真

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ 下横構P1-P2



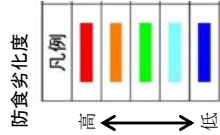
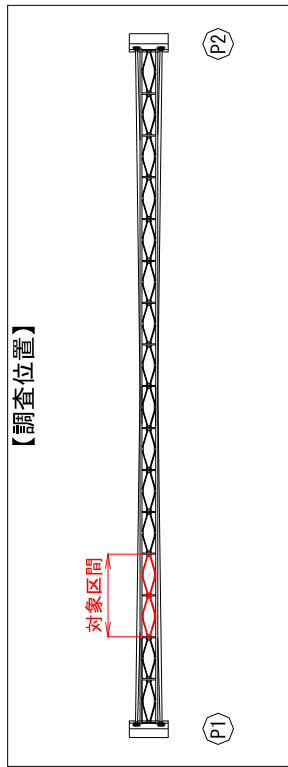
防食劣化度	下横構 0101				下横構 0102			
	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境など	塗替え時期	塗装仕様	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗替え時期	塗装仕様
	-	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水の滞水と、法面に繁茂する樹木の影響による日当たりの悪さが考えられ、劣化の進展程度に注意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	重防食系	-	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水の滞水と紫外線によるものと推定される。 雨風や直射日光の影響を直接受けるため、劣化の進展程度に注意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系
	-				-			
	-				-			
	-				-			



写真

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

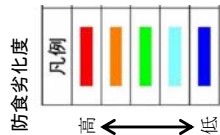
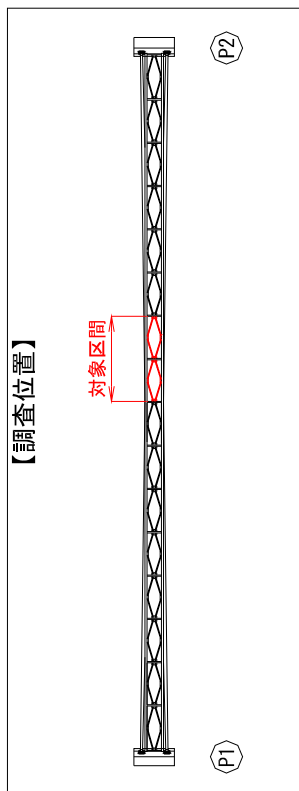
■ 下横構P1-P2



防食劣化度	下横構 0103		下横構 0104		劣化状況・劣化原因等	写真
	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境など	塗替え時期	塗装仕様		
	—	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水の滞水と紫外線によるものと推定される。 雨風や直射日光の影響を直接受けるため、劣化の進展程度に注意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系	—	
	—	—	—	—	—	
	—	—	—	—	—	
	—	—	—	—	—	
	—	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水の滞水と紫外線によるものと推定される。 雨風や直射日光の影響を直接受けるため、劣化の進展程度に注意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系	—	
	—	—	—	—	—	
	—	—	—	—	—	
	—	—	—	—	—	

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ 下横構P1-P2



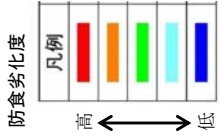
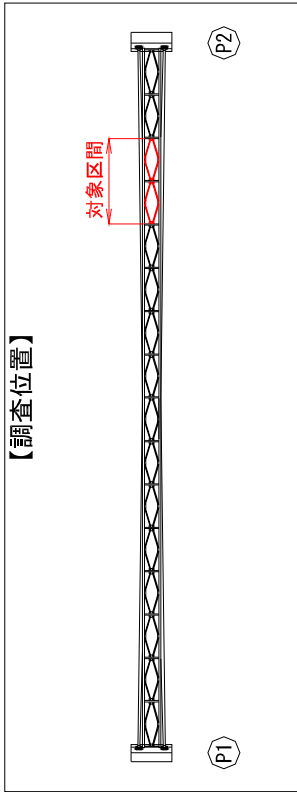
防食劣化度	下横構 O109				下横構 O110			
	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境など	塗替え時期	塗装仕様	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗替え時期	塗装仕様
	-	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な軽微な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線によるものと推定される。 経年に応じたマイルドな劣化進行を今後とも示すと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時など足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系	-	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な軽微な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線によるものと推定される。 経年に応じたマイルドな劣化進行を今後とも示すと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時など足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系
	-				-			
	-				-			
	-				-			



写真

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

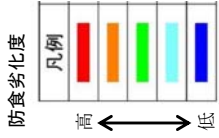
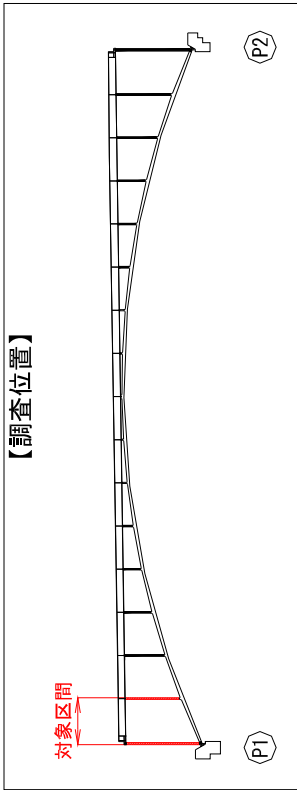
■ 下横構P1-P2



防食劣化度	下横構 O113		下横構 O114		劣化状況・劣化原因等	写真
	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境など	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境		
	-	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水の滞水と紫外線によるものと推定される。 雨風や直射日光の影響を直接受けるため、劣化の進展程度に注意する必要がある。 	-	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水の滞水と紫外線によるものと推定される。 雨風や直射日光の影響を直接受けるため、劣化の進展程度に注意する必要がある。 	塗装仕様 一般塗装系	
	-		-			
	-		-			
	-		-			
	-		-			
	-		-			

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

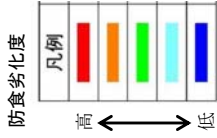
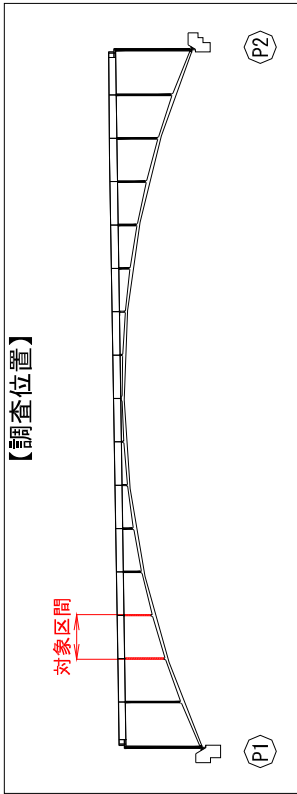
■ 対傾構P1-P2



防食劣化度	対傾構P1	対傾構P2
劣化状況・劣化原因等	<p>対傾構P1</p> <p>劣化状況および劣化原因・腐食環境など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的な防食機能の劣化と一部に腐食が見られる。 ・ 伸縮装置からの漏水、法面からの土砂が堆積が主な原因であり、湿潤環境にあるため劣化の進展は速まると考えられる。 ・ 伸縮装置の止水と土砂堆積の防止措置を合わせて講ずることが望ましい。 	<p>対傾構P2</p> <p>劣化状況および劣化原因・腐食環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的な防食機能の劣化が見られる。 ・ 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 ・ 下部については、雨風や直射日光の影響を直接受けやすいため、劣化の進展程度に注意する必要があるが、上部については下部に比べて、経年劣化進行は鈍いと考えられる。
写真		
	<p>部位</p> <p>-</p>	<p>部位</p> <p>-</p>
	<p>塗替え時期</p> <p>早めの塗替えを行うことが望ましい。 (部分塗替え)</p>	<p>塗替え時期</p> <p>・ 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などで足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。</p>
	<p>塗装仕様</p> <p>重防食系</p>	<p>塗装仕様</p> <p>一般塗装系</p>

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

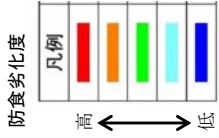
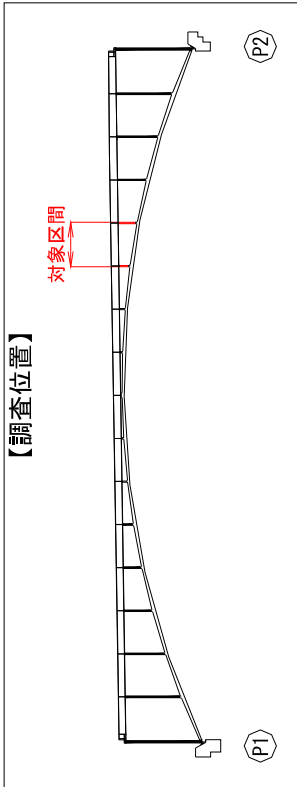
■ 対傾構P1-P2



防食劣化度	劣化状況・劣化原因等		写真
高		<p>対傾構0103</p> <p>劣化状況および劣化原因・腐食環境</p> <p>部位</p> <p>・全体的な防食機能の劣化が見られる。 ・主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 ・下部については、雨風や直射日光の影響を直接受けやすいため、劣化の進展程度に注意する必要があるが、上部については下部に比べて、劣化進行は鈍いと考えられる。</p>	
中		<p>対傾構0104</p> <p>劣化状況および劣化原因・腐食環境</p> <p>部位</p> <p>・全体的な防食機能の劣化が見られる。 ・主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 ・下部については、雨風や直射日光の影響を直接受けやすいため、劣化の進展程度に注意する必要があるが、上部については下部に比べて、劣化進行は鈍いと考えられる。</p>	
低			

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

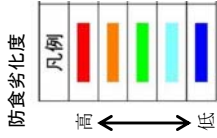
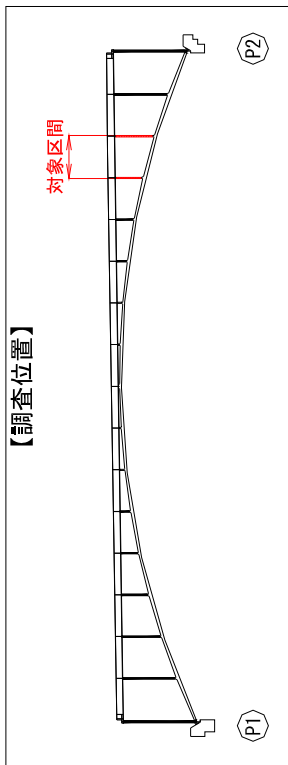
■ 対傾構P1-P2



防食劣化度	劣化状況・劣化原因等		写真
対傾構P1-P2			
対傾構O112			
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装時期	塗装仕様
-	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は紫外線による経年劣化である。 床版に覆われており、雨風の影響を直接受けにくいいため、劣化の進行は鈍いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などに足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系
-	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 下部については、雨風や直射日光の影響を直接受けやすいため、劣化の進展程度に注意する必要があるが、上部については下部に比べて、経年劣化進行は鈍いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などに足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系
-	-	-	-
対傾構O113			
部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装時期	塗装仕様
-	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られる。 主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 下部については、雨風や直射日光の影響を直接受けやすいため、劣化の進展程度に注意する必要があるが、上部については下部に比べて、経年劣化進行は鈍いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査時などに足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	一般塗装系
-	-	-	-

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

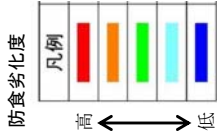
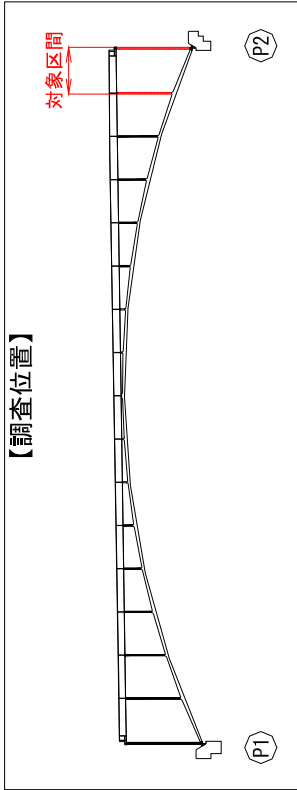
■ 対傾構P1-P2



防食劣化度	劣化状況・劣化原因等		写真
高		<p>対傾構O114</p> <p>劣化状況および劣化原因・腐食環境</p> <p>部位</p> <p>・全体的な防食機能の劣化が見られる。 ・主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 ・下部については、雨風や直射日光の影響を直接受けやすいため、劣化の進展程度に注意する必要があるが、上部については下部に比べて、経年劣化進行は鈍いと考えられる。</p>	
中		<p>対傾構O115</p> <p>劣化状況および劣化原因・腐食環境</p> <p>部位</p> <p>・全体的な防食機能の劣化が見られる。 ・主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 ・下部については、雨風や直射日光の影響を直接受けやすいため、劣化の進展程度に注意する必要があるが、上部については下部に比べて、経年劣化進行は鈍いと考えられる。</p>	
低			

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

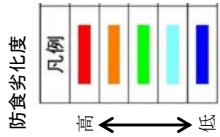
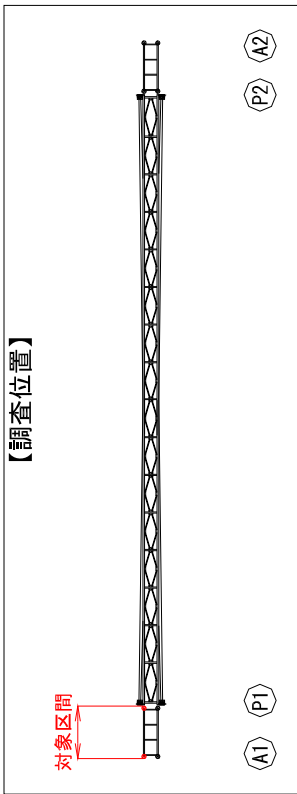
■ 対傾構P1-P2



防食劣化度	劣化状況・劣化原因等		写真					
	対傾構O116							
	<p>部位</p> <p>-</p>	<p>劣化状況および劣化原因・腐食環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的な防食機能の劣化が見られる。 ・主な原因は雨水と紫外線による経年劣化である。 ・下部については、雨風や直射日光の影響を直接受けやすいため、劣化の進展程度に注意する必要があるが、上部については下部に比べて、経年劣化進行は鈍いと考えられる。 	<p>塗装仕様</p> <p>一般塗装系</p>	<p>塗装時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当面経過観察とし、今後定期点検時や亀裂調査などでき足場を設置するときに効率的に塗替えを行うのがよい。 	<p>対傾構O117</p> <p>劣化状況および劣化原因・腐食環境など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的な防食機能の劣化と一部に腐食が見られる。 ・伸縮装置からの漏水、法面からの土砂が堆積が主な原因であり、湿潤環境にあるため劣化の進展は速まると考えられる。 ・伸縮装置の止水と土砂堆積の防止措置を合わせて講ずることが望ましい。 	<p>塗装仕様</p> <p>重防食系</p>	<p>塗装時期</p> <p>早めの塗替えを行うことが望ましい。(部分塗替え)</p>	

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ 支承A1-P1

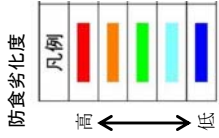
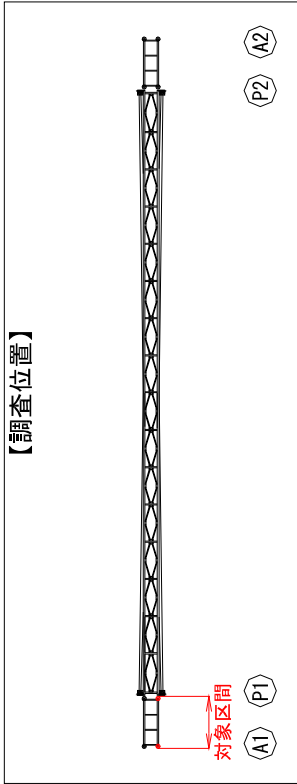


防食劣化度	支承O101		支承O102		塗装仕様
劣化状況・劣化原因等	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様
		<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が支承本体及びアンカーボルトに見られる。 主に伸縮装置からの漏水が原因で、その他、法面に繁茂する樹木の影響による風通し・日当たりの悪さが考えられる。 漏水対策を行わない場合は、今後劣化の進行は一層速まると考えられる。 		<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が支承本体及びアンカーボルトに見られる。今後は伸縮装置からの漏水が原因であり、漏水対策を行わない場合は、今後劣化の進行は一層速まると考えられる。 	重防食系
写真					

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ 支承A1-P1

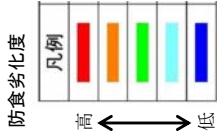
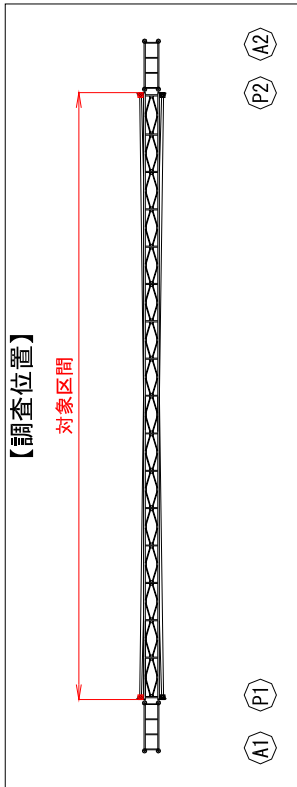
【調査位置】



防食劣化度	支承0201		支承0202	
劣化状況・劣化原因等	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境
		<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が支承本体及びアングルボルトに見られる。 主に伸縮装置からの漏水が原因で、その他、法面に繁茂する樹木の影響による風通し・日当たりの悪さが考えられる。 漏水対策を行わない場合は、今後劣化の進行は一層速まると考えられる。 		<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が支承本体及びアングルボルトに見られる。今 主に伸縮装置からの漏水が原因であり、漏水対策を行わない場合は、今後劣化の進行は一層速まると考えられる。
		<ul style="list-style-type: none"> 風通し・日当たりの悪さは改善されたいため、早めの塗替えを行うことが望ましい。 		<ul style="list-style-type: none"> 風通し・日当たりの悪さは改善されたいため、早めの塗替えを行うことが望ましい。
写真				

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

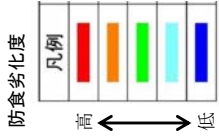
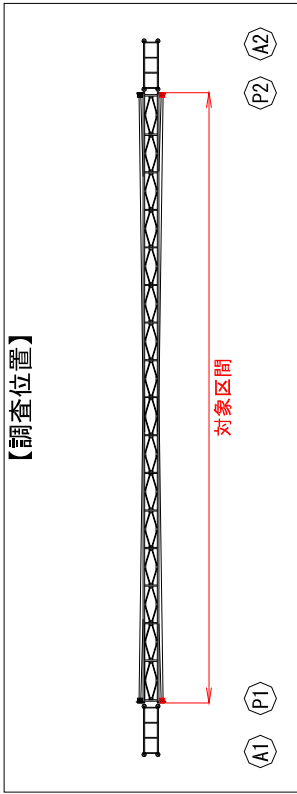
■ 支承P1-P2



防食劣化度	支承O101		支承O102	
劣化状況・劣化原因等	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境など	塗替え時期	塗装仕様
	-	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化及び一部に腐食が見られることから、腐食が支承本体及びアンカーボルトに見られる。 土砂堆積や植生が速いと考えられる。 また法面からの漏水や土砂の進入を防ぐ措置を講ずる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 部分的に腐食が進行しているため、早めの塗替えを行うことが望ましい。 (部分塗替え) 	重防食系
	-		-	-
	-		-	-
	-		-	-
写真				

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ 支承P1-P2



防食劣化度	支承0201		支承0202		塗装仕様
劣化状況・劣化原因等	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装仕様
	-	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が見られることから、温潤環境となっており、劣化の進行程度は速いと考えられる。 また法面からの漏水や土砂の進入を防ぐ措置を講ずる必要がある。 	-	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化及び一部に腐食が見られることから、温潤環境となっており、劣化の進行程度は速いと考えられる。 また法面からの漏水や土砂の進入を防ぐ措置を講ずる必要がある。 	重防食系
	-		-		-
	-		-		-
	-		-		-

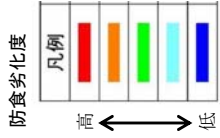
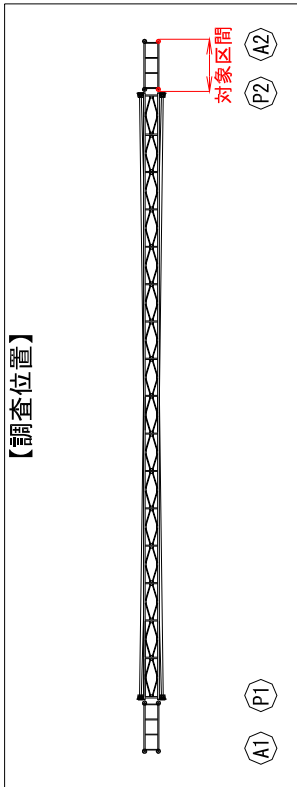


写真

各部位の防食機能劣化・腐食状況の整理

■ 支承P2-A2

【調査位置】



防食劣化度	支承0201				支承0202			
	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境など	塗替え時期	塗装仕様	部位	劣化状況および劣化原因・腐食環境	塗装時期	塗装仕様
高		<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が支承本体及びアレンカーボルトに見られる。 主に伸縮装置からの漏水が原因であり、漏水対策を行わない場合は、今後劣化の進行は一層速まると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 風通し・日当たりの悪さは改善されたいため、早めの塗替えを行うことが望ましい。 	一般塗装系		<ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化が支承本体及びアレンカーボルトに見られる。 主に伸縮装置からの漏水が原因で、その他、法面に繁茂する樹木の影響による風通し・日当たりの悪さが考えられる。 漏水対策を行わない場合は、今後劣化の進行は一層速まると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 風通し・日当たりの悪さは改善されたいため、早めの塗替えを行うことが望ましい。 	重防食系
中								
低								



(4) 閉断面部材内部の防食

1) 箱断面内部の滞水・湿潤調査

本橋ではアーチリブと端支柱は箱断面であるが、ボルトやリベットによる継手部には開口や母材遊間、ハンドホールの後埋め部などもあることから、部材内部の滞水が懸念される。

今回、アーチ端部と端支柱下端部の計8箇所について、まず赤外線カメラ調査により滞水の可能性を調査し、その結果滞水の可能性が疑われた1箇所について、ファイバースコープカメラにより箱内の状況を確認した。

調査結果を次々ページ以降に示す。

調査の結果、箱内には滞水は見られず、軽度の腐食が認められた程度で、現状では耐荷性能に影響がある可能性は低いと思われる。

また同時に、継手部にハンドホールが設けてあるアーチリブの内部についても、滞水・湿潤および腐食進行が見られないかどうか、ファイバースコープにより調査し、問題のないことを確認している。

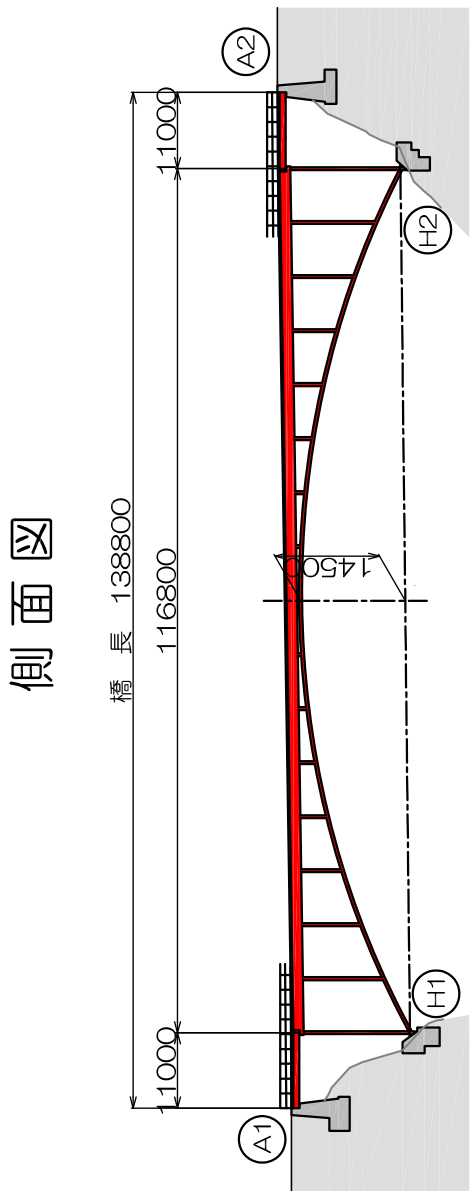
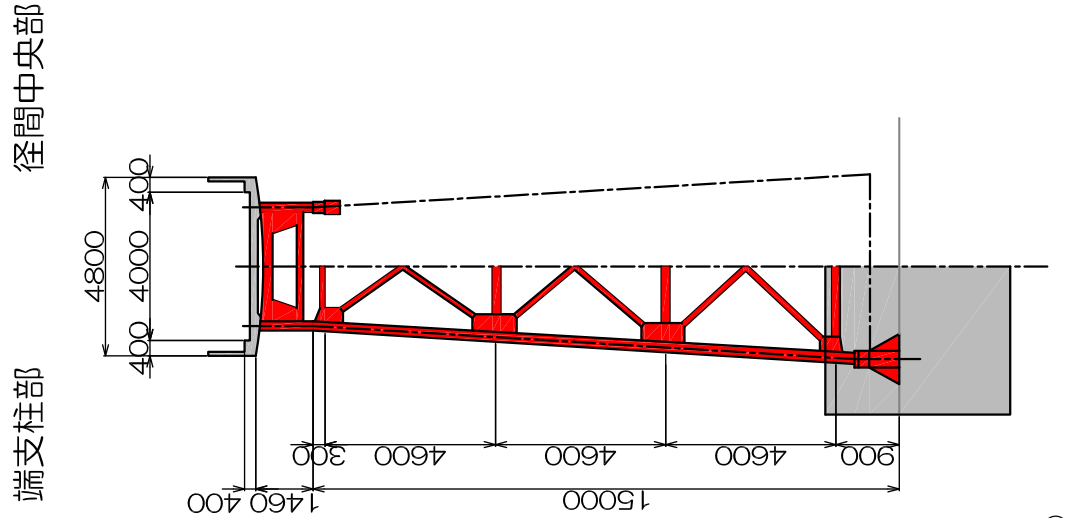


端支柱ハンドホール後埋め部

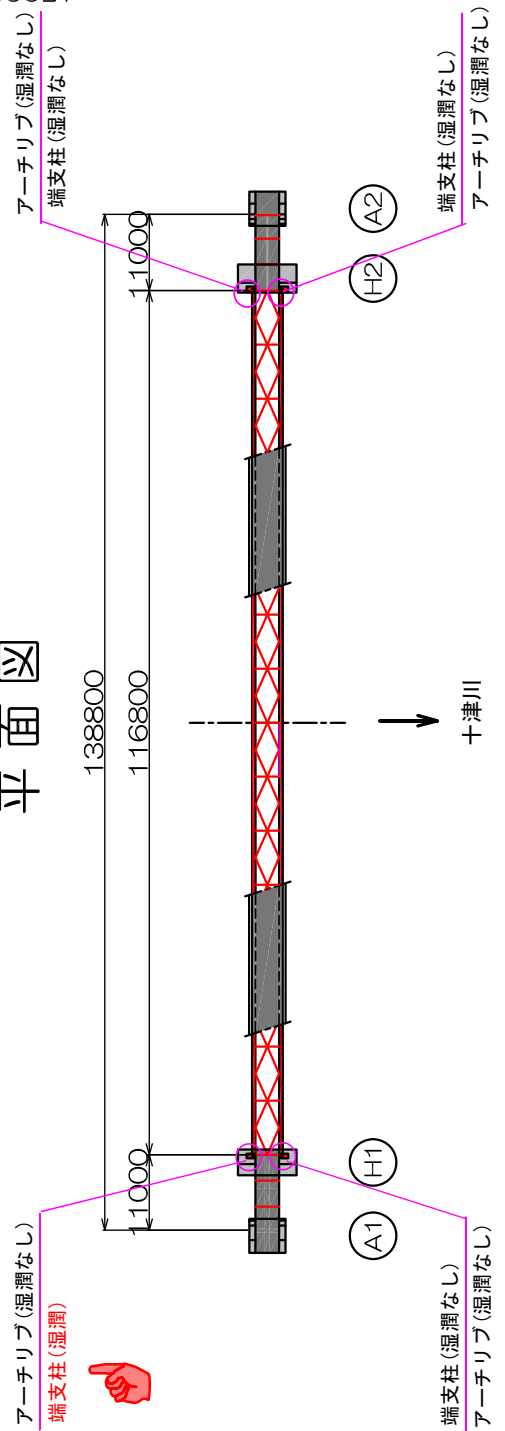
①赤外線カメラによる事前調査

全体一般図

側面図



平面図



計測結果

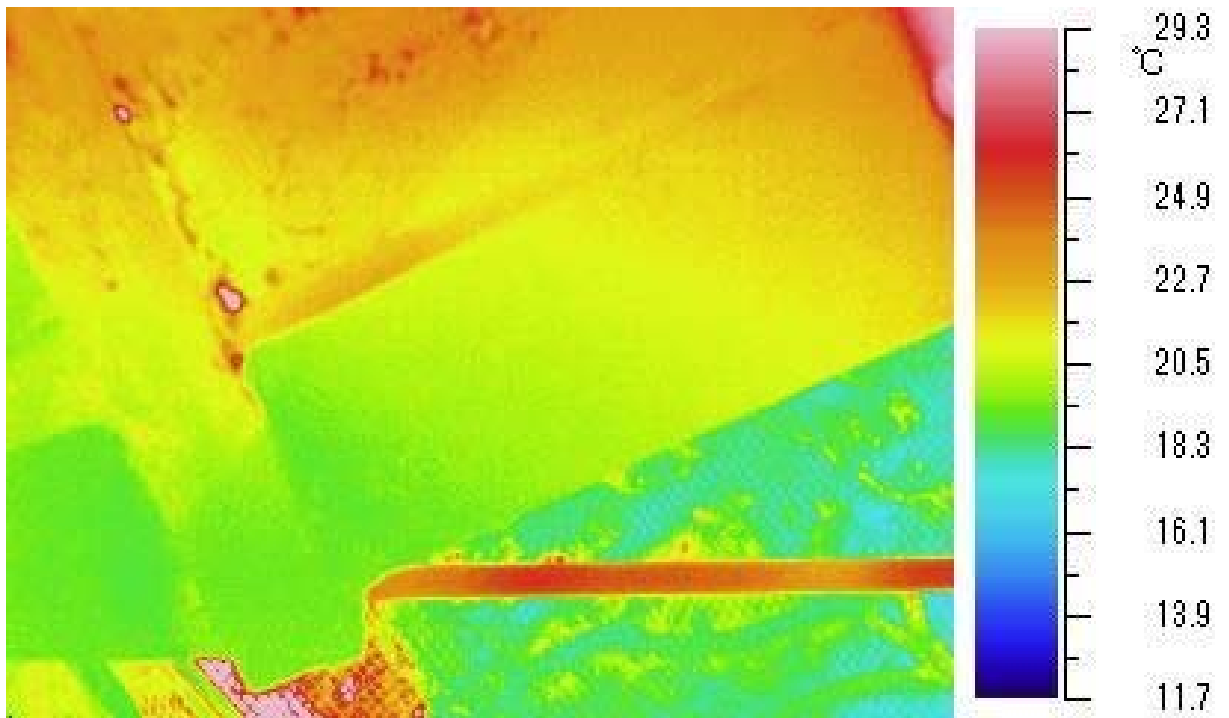


図-4 起点上流側アーチ



写真-1 赤外線撮影範囲(赤点線エリア)

鉄骨表面は低温度であることから内部に水は存在しないと思われる。リブの上下で温度帯域(オレンジ系と緑系)に分かれているがこれは日射の有無である。

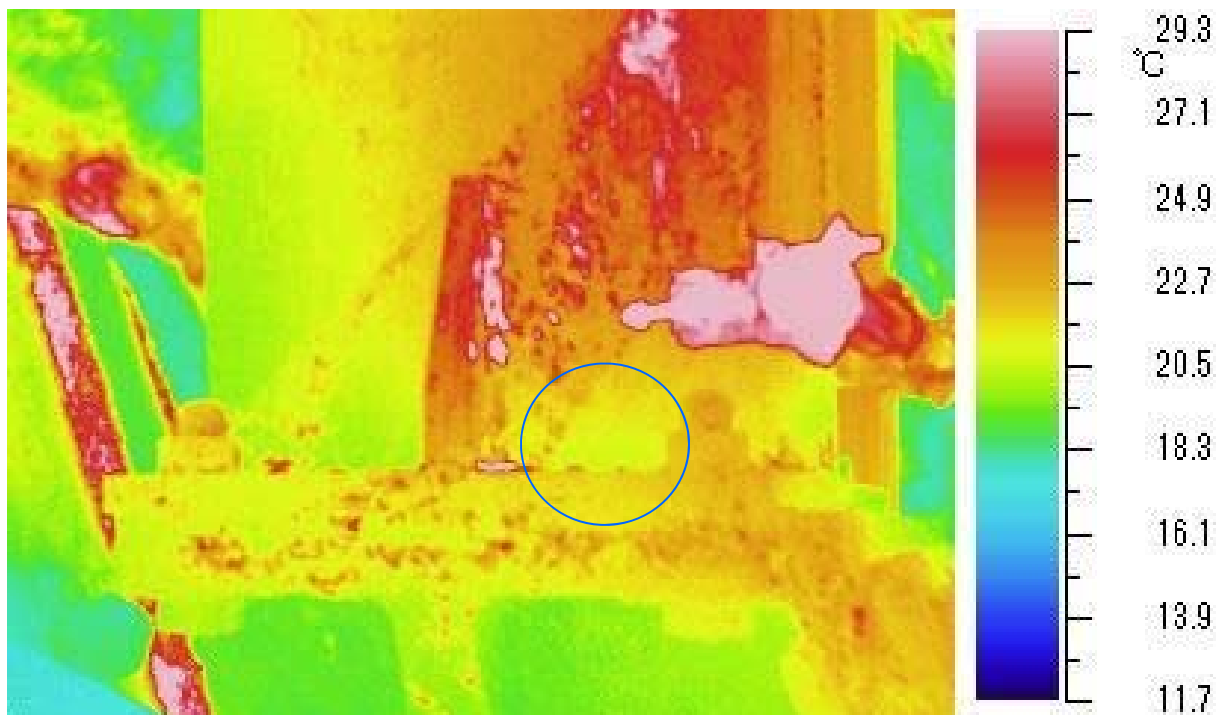


図-5 起点上流側柱

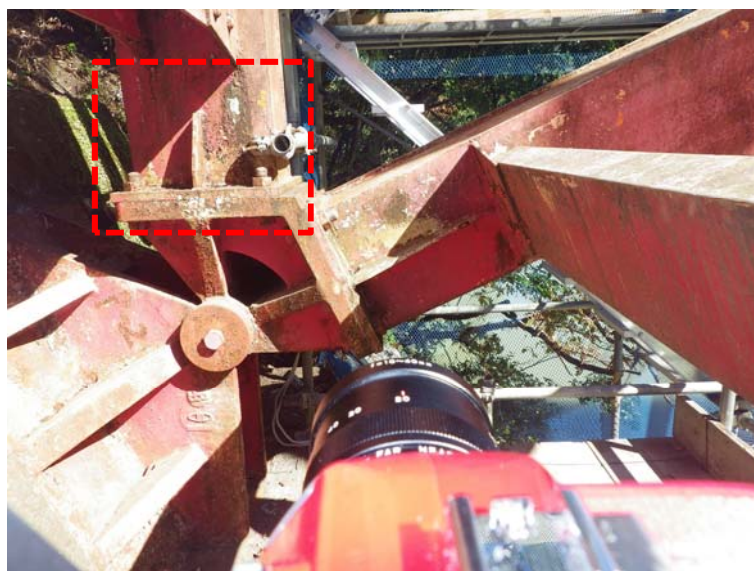


写真-2 赤外線撮影範囲(赤点線エリア)

鉄骨支柱の右側の底部に僅かに低温部が見られることから滞留水にはなっていないが、僅かな湿潤が予測される。但しこの湿潤が、雨水の浸入であるか結露であるかは判定できない。計測時の露点温度(結露が発生する温度)は約 15°C。

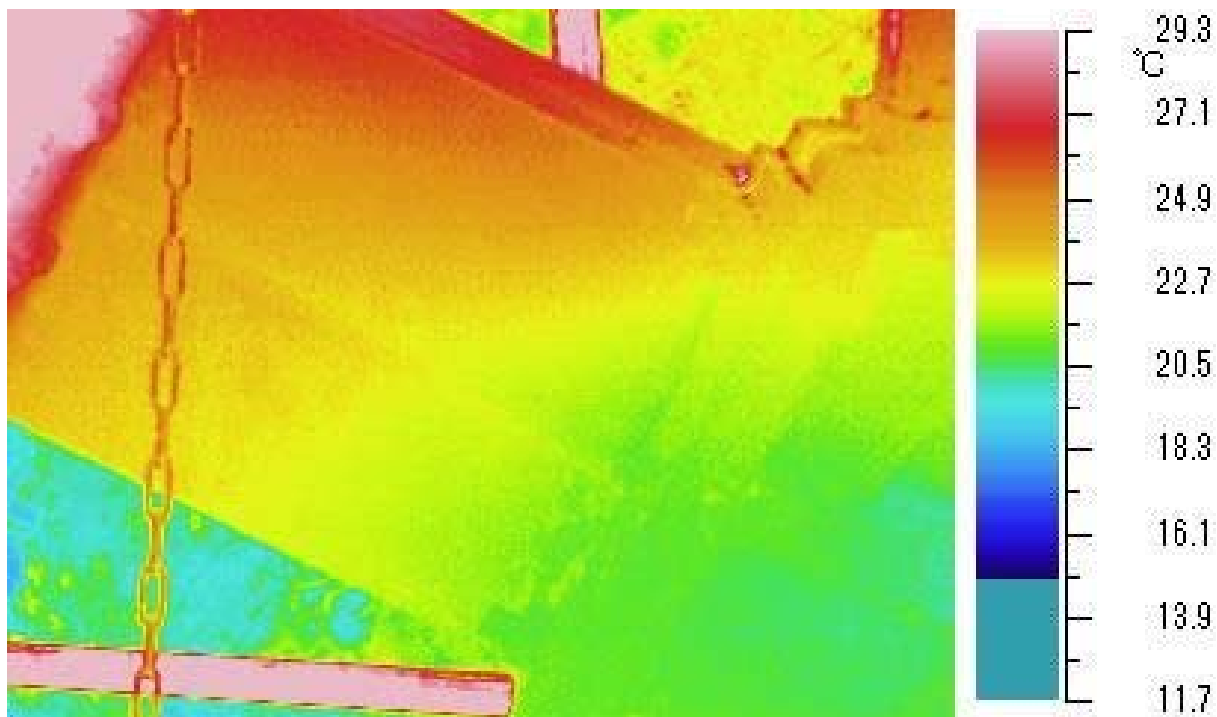


図-6 起点下流側アーチ



写真-3 赤外線撮影範囲(赤点線エリア)

この部分は日射が無い箇所である。背面(下流側)には日射があるため水が存在した場合は、その箇所が周辺より高温となる可能性が高い。赤外面像には高温部は見られない。赤外面像鉄骨上部は高温であるが、これは鉄骨天端に受けた日射の影響である。(一般的には熱かぶりと言う)



図-7 起点下流側柱



写真-4 赤外線撮影範囲(赤点線エリア)

この部分は日射が無い箇所である。背面及びアーチ側には日射があるため水が存在した場合は、その箇所が周辺より高温となる可能性が高い。赤外画像には高温部は見られない。

内部滞留水は無いと推測される。

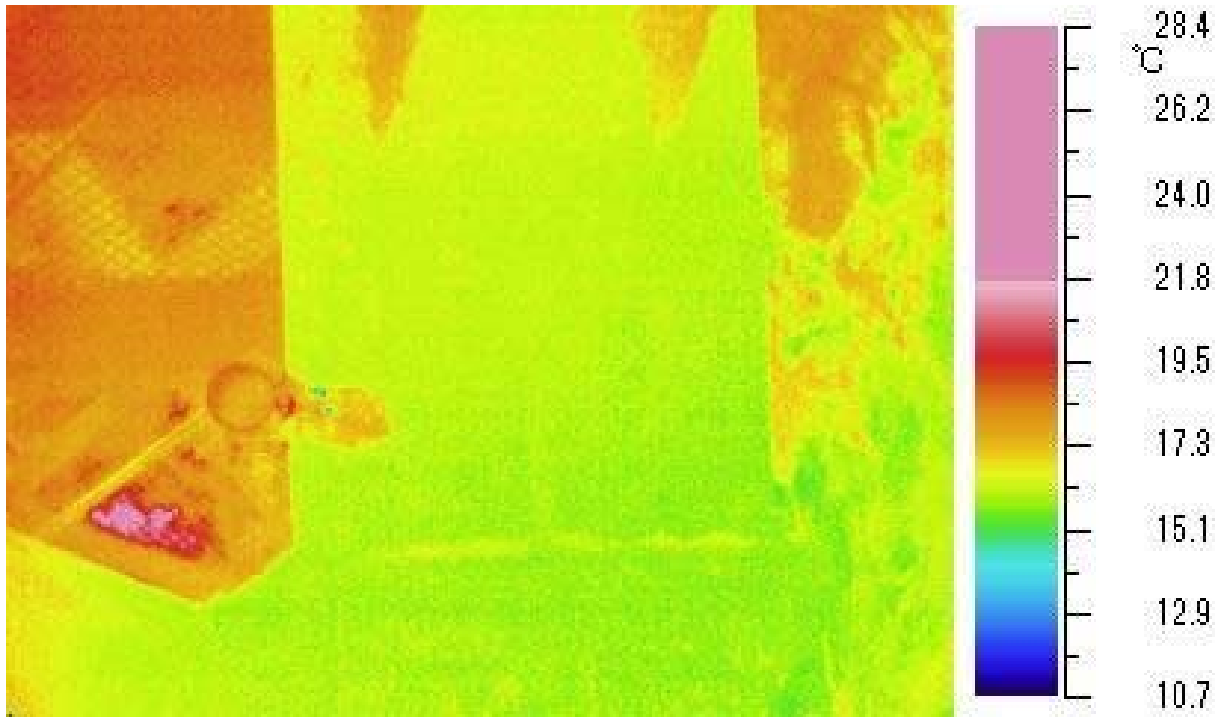


図-8 終点上流側柱

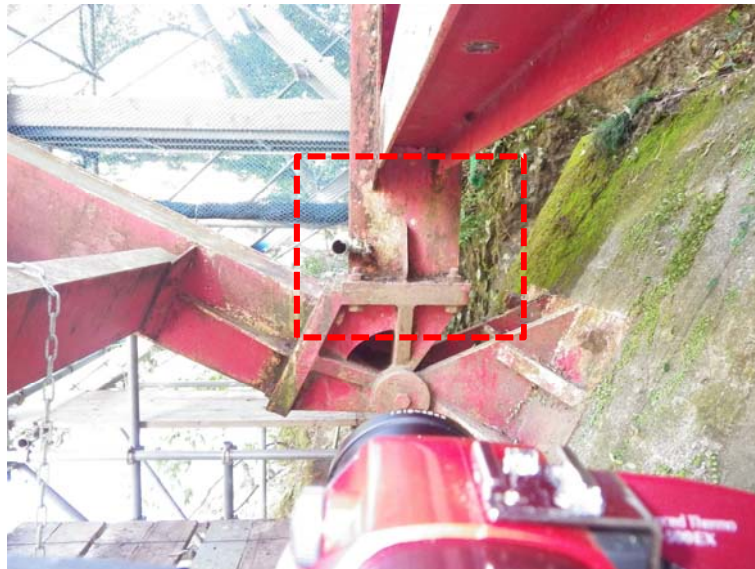


写真-5 赤外線撮影範囲(赤点線エリア)

この部分の鉄骨には全く日射が無い状態である。水が内部に滞留していれば熱源となるが、鉄骨表面の温度は平衡状態である。内部に水は存在しないと思われる。

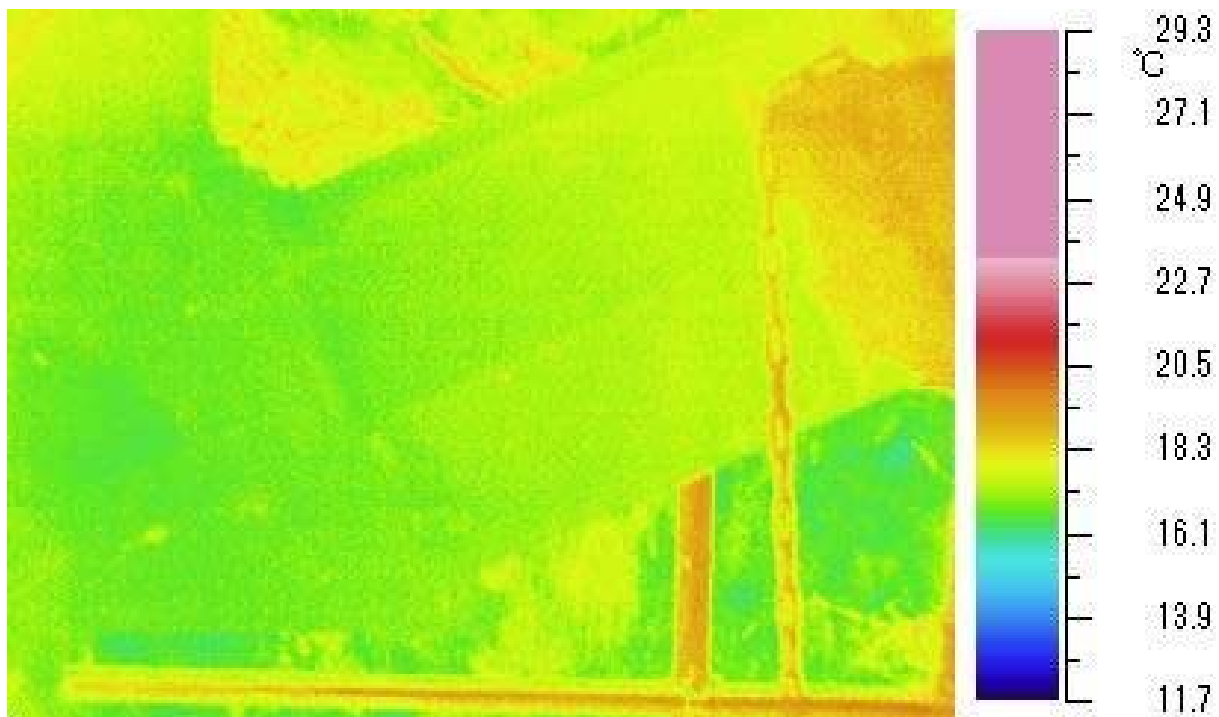


図-9 終点下流側アーチ

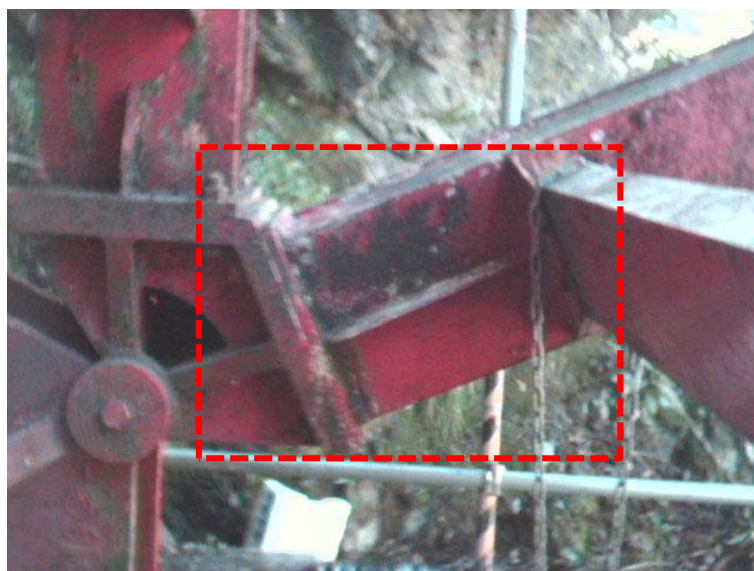


写真-6 赤外線撮影範囲(赤点線エリア)

この部分も全く日射が無い状態である。水が内部に滞留していれば熱源となるが、鉄骨表面の温度は平衡状態である。内部に水は存在しないと思われる。

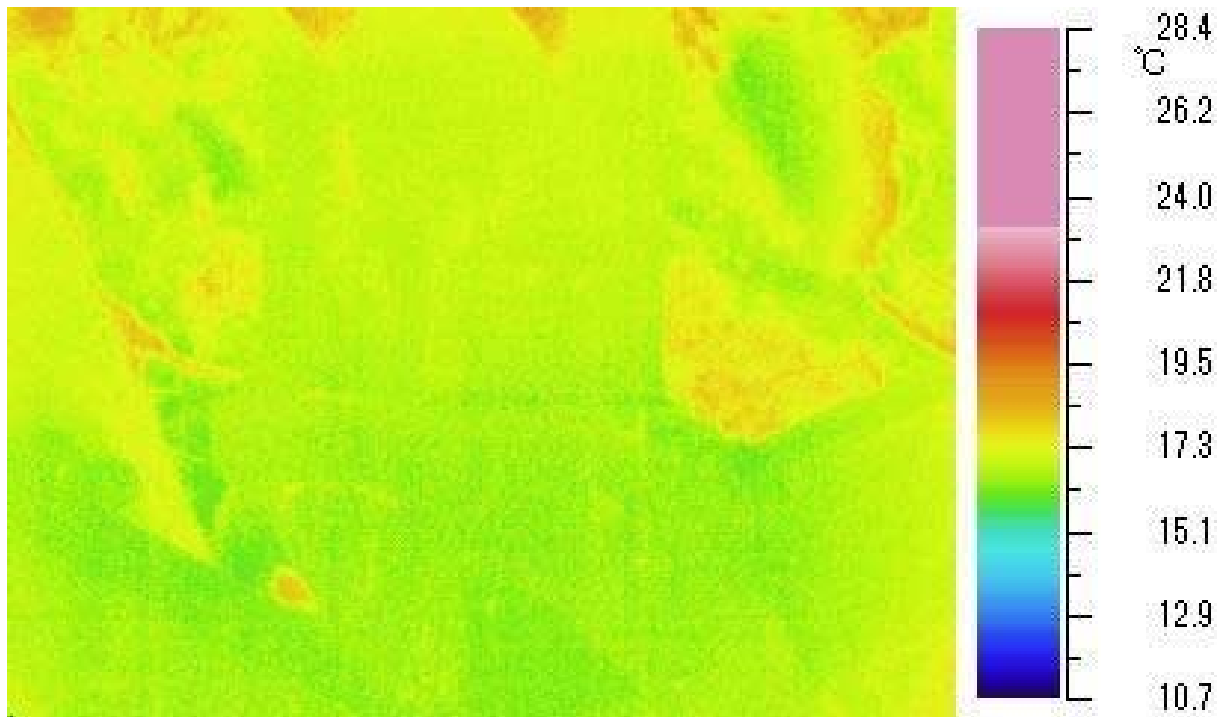


図-10 終点下流側柱





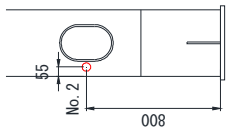

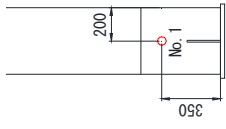
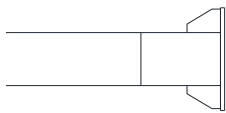
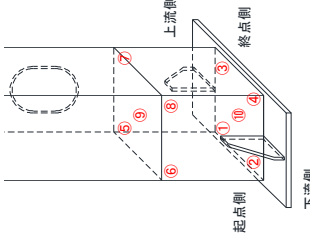








写真-7 赤外線撮影範囲(赤点線エリア)

柱根元及び側面に温度変化は無く平衡状態であることから内部に滞留水は存在しないと思われる。

※終点上流側アーチ部については、現地でデータ保存ができていなかったため、画像掲載は省略している。

なお、現地ではモニター画像により、湿潤していないことを確認している。

②ファイバースコープカメラによる箱断面内調査

箱内部調査結果				
アーチ基部				
調査位置	アーチ基部			
位置図	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>上流側</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>下流側</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>上流側</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>終点側</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>下流側</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>起点側</p>  </div> </div>			
調査写真 調査No. 1	①起点上流側(下) 溶接部 表面錆	②起点下流側(下) 溶接部 表面錆	③終点上流側(下) 溶接部 表面錆	④終点下流側(下) 溶接部 表面錆
	⑤起点上流側(上) 溶接部 表面錆	⑥起点下流側(上) 溶接部 表面錆	⑦終点上流側(上) 溶接部 表面錆	⑧終点下流側(上) 溶接部 表面錆
	⑨上側 ダイヤフラム下面 溶接部 表面錆	⑩アーチ基部 下面 セットボルト		
				
				
				
				

箱内部調査結果

アーチ基部

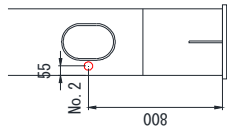
上流側



下流側



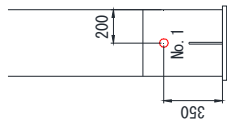
上流側



終点側



下流側



起点側



④終点下流側(下)
支材 局部的な腐食膨張



③終点上流側(下)
支材 局部的な腐食膨張



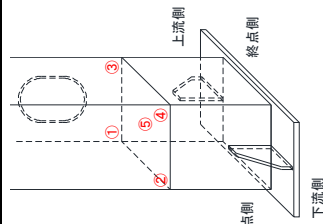
②起点下流側(下)
支材 局部的な腐食膨張



①起点上流側(下)
支材 局部的な腐食膨張



⑤下側 ダイヤフラム上面
局部的な腐食膨張



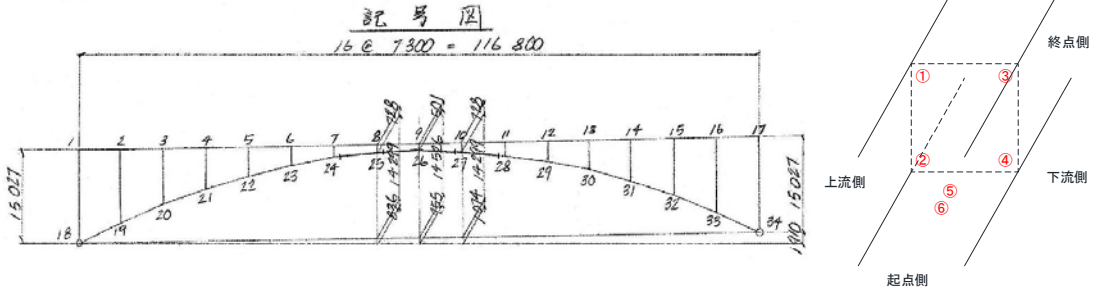
調査写真
調査No. 2

箱内部調査結果

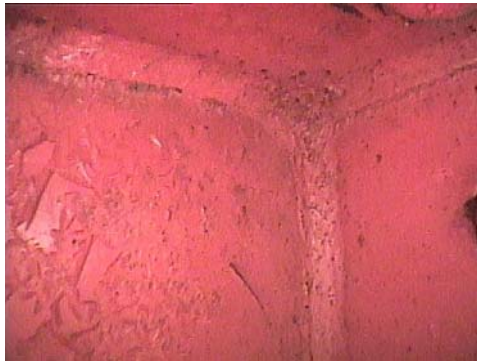
調査位置

アーチリブ ハンドホール

位置図



No. 24-25間(上流側)
①上流側上側



No. 24-25間(上流側)
②上流側下側



No. 24-25間(上流側)
③下流側上側



No. 24-25間(上流側)
④下流側下側



No. 24-25間(上流側)
⑤下面 局所的な腐食膨張



No. 24-25間(上流側)
⑥内部 正面



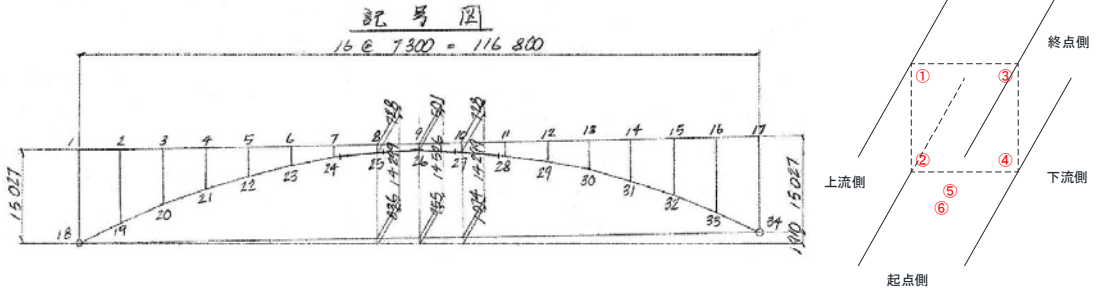
調査写真

箱内部調査結果

調査位置

アーチリブ ハンドホール

位置図



No. 25-26間(上流側)
①上流側上側



No. 25-26間(上流側)
②上流側下側



No. 25-26間(上流側)
③下流側上側



No. 25-26間(上流側)
④下流側下側



調査写真

No. 25-26間(上流側)
⑤下面 局部的に腐食膨張




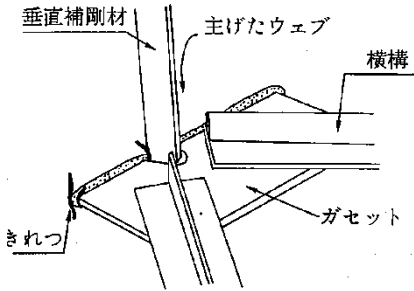

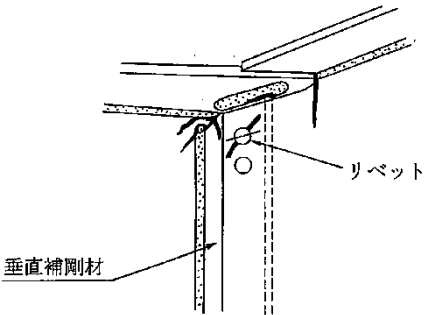

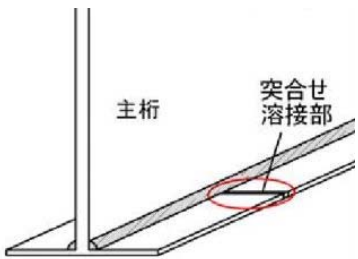
No. 25-26間(上流側)
⑥内部 正面



5-2. 疲労亀裂について

(1) 疲労亀裂が懸念される溶接継手

本橋の溶接継手の中には、他橋で過去に亀裂が確認されている継手と同じ形式の溶接継手が数多く確認される。猿飼橋において、既存の発生事例から疲労亀裂が懸念される溶接継手を以下に挙げる。

側径間桁部	
横構ガセットプレート	
	
垂直補剛材、横桁端部	
	
下フランジ板継ぎ部	
	

側径間桁部

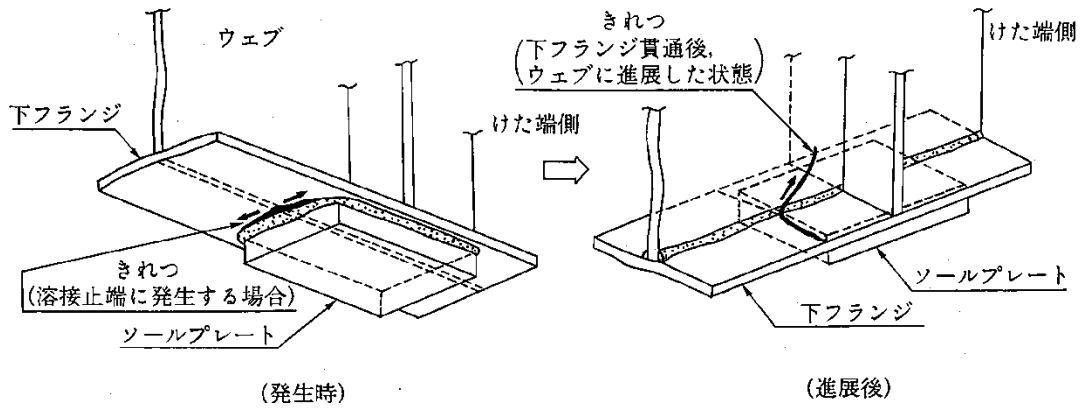
ソールプレート



(橋台側)



(ランガー補剛桁側)

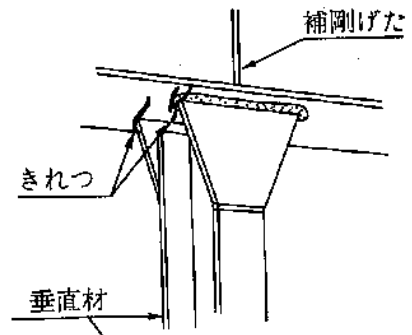


ランガー桁部

垂直材端部 (上部)



(補剛桁付きガセットの溶接部)

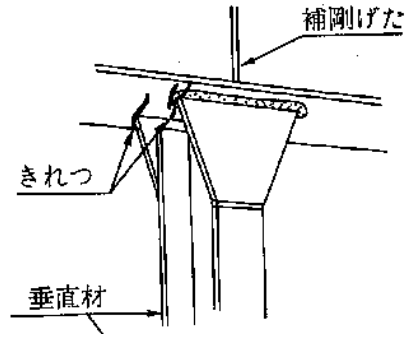


ランガー桁部

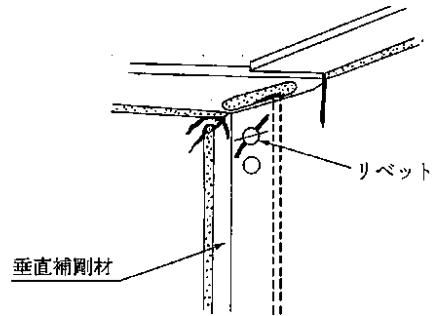
垂直材端部（上部）



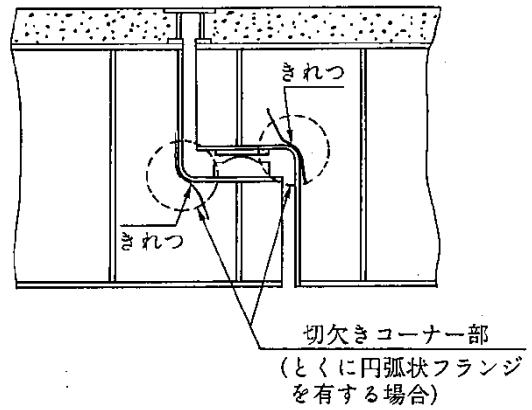
(接合プレートとガセットの溶接部)



主桁と横桁の取合い部



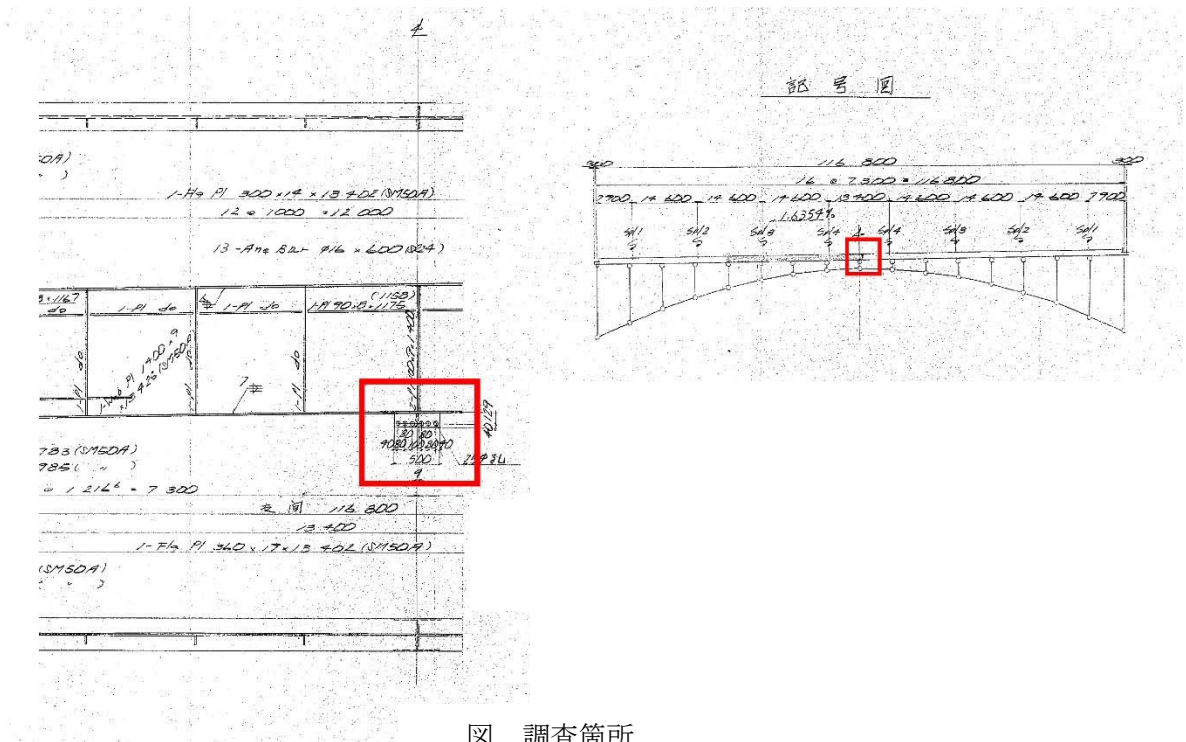
ゲルバーヒンジ部



(2) 亀裂調査

本橋と同種形式の橋梁で過去に疲労亀裂の事例がある垂直材端部（上部） 1箇所について、磁粉探傷試験（MT）を実施し亀裂の有無を確認した。

調査結果を次ページに示すが、亀裂は確認されなかった。



(3) 溶接箇所データベース作成の提案

名阪国道の鋼橋に対し、下記の事項を整理したデータベースが作成されている。今後、猿飼橋を維持管理して行く上でも、このデータベースは一助として有効と考えられるため、作成しておくことを提案する。

【データベースの整理内容】

- ・溶接種類別の溶接箇所数
- ・損傷箇所と箇所数
- ・疲労亀裂が生じた溶接箇所と同様なディテールを有する箇所数、等

5-3. 高力ボルト(F11T)について

(1) 高力ボルト(F11T)の特性

本橋には遅れ破壊(脆性破壊)が懸念されるF11T高力ボルトが一部の継手に使用されている。

遅れ破壊とは、高強度鋼部品が静的な負荷応力を受けた状態で、ある時間を経過したとき、外観上はほとんど塑性変形を伴うことなく、突然脆性的に破壊する現象である。

原因は材質の脆化現象によるもので主に水素脆性によるものと考えられており、鋼材中に外部から水素が侵入・拡散することで材質が脆くなる。

遅れ破壊を定性的、定量的に予測することは困難であるが、これまでの損傷事例や調査結果から一般的に次のような傾向が見られる。

- ・F11T高力ボルトのうち、昭和46年～52年頃製作されたものに多く見られる
- ・腐食環境の厳しい箇所に発生しやすい
- ・同一連結部で複数の破損が見られる場合、その連結部では継続して遅れ破壊が発生する可能性がある

(2) 遅れ破壊の可能性

今回の調査で、アーチクラウン部の継手1箇所について叩き点検を実施した。(後述)

結果、調査した範囲では緩みや遅れ破壊がないことを確認したが、本橋の供用開始が、過去に多く遅れ破壊が発生した事例のボルト製作年度にあたる昭和49年であることなどを考えると、腐食が進んでいる範囲で、今後突然遅れ破壊が発生する可能性も考えられる。

また、アーチクラウン部のF11T継手は全てボルト頭が箱内側、ナットが箱外側で、ボルト軸の突出はほとんどない状態である。接合部での母材遊間はほとんどなく密着しており、塗装の劣化は内外ともに限定的である。

これらの状況から、遅れ破壊ボルトの有無を確認の上、防食機能を予防保全し続けることで健全性の維持に一定の効果が期待できる。

そのため、該当する継手全箇所について全数叩き点検を行い、一旦緩みや遅れ破壊がないことを確認することが必要である。






写真 F11Tボルト軸突出状況

(3) 叩き点検調査

遅れ破壊が懸念される F11T ボルトが使用されている継手箇所について、叩き・緩み確認調査を実施した。

調査の結果、ボルト抜けや緩みなどの異常は確認できなかった。

なお、今回近接確認した箇所以外についても、目視の範囲でボルト抜けは確認されていない。

F11Tボルト調査		
調査位置	アーチリブ	
位置図	<p style="text-align: center;">記号区 16 @ 7300 = 116 800</p>	
調査写真	No. 25-26間(上流側)	No. 25-26間(上流側)
		
	No. 24-25間(上流側) 異常なし	
		

5-4. 洪水対策

(1) 過去の洪水による影響

過去の洪水の影響と考えられるアーチ基部周辺部材への土砂堆積、漂流物衝突痕が確認できる。また、アーチアバット周囲の表土に洪水により削られた状況が見られる。



A1 橋台側斜面



A2 橋台側斜面



漂流物衝突痕(横支材フランジ変形)



漂流物衝突痕(排水管欠損)



漂流物衝突痕(アーチリブ接触痕)



部材への土砂堆積

(2) 周辺地盤について

1) 現地の地質・地盤状況

- ・当該地は紀伊山地の中央、十津川の中流域である。
- ・紀伊山地は 1000m オーバーの山体が連なっており、十津川は深い V 字谷を刻んでいる。
- ・現在は下流部の二津野ダムによる堰止めで河川の流速は遅く、当該橋梁の上流部では川底に堆砂がみられる。
- ・当域の地質は白亜紀の日高川層群から構成される。
- ・当層群は、頁岩と砂岩の互層のリズミカルなフリッシュである。
- ・架橋位置の山側斜面の地質は、風化帯の生成とそれらの崩落により形成されたものではなく、動水勾配の急な河川に削り込まれたものであるため、岩質は概ね新鮮で硬質である。
- ・下流ダムにより堰き止められてはいるが、アーチアバットは常時には河川水位の上位にあるので洗掘に対しては問題はない。しかし、近年の記録的豪雨による河川水位の増大による洗掘の可能性はある。また、基礎構造物周辺に小規模でも岩盤崩壊が生じれば、基礎の安定性に支障をきたすおそれがある。なお、これらは目視観察で十分対応可能である。
- ・前述のとおり本域の岩盤はフリッシュで、割れ目の発達しやすいのが特徴である。従って、岩石は新鮮・硬質でも割れ目が発達し開口すれば、落石や岩盤崩壊が生じやすい。これは道路沿いの山側斜面と同様であり、定期的に点検・調査する必要があると考える。



岩露頭状況 (A1 橋台側)

(3) 法面保護工等対策工について

法面表層の風化岩や土砂が今後の大雨などによりアーチ基部周りに崩落し、それらが鋼部材に堆積することで局部的な著しい腐食を進行させる恐れが考えられるため、法面保護工の施工を検討するのが望ましい。

また、アーチ基部周りの部材に洪水時の漂流物の衝突痕なども見られるため、今後の洪水災害に対する漂流物防護工を検討することも重要部位である支承含めたアーチ基部にとって有用と考えられる。

5-5. 維持管理設備の必要性など

(1) 恒久的維持管理設備の必要性

橋の構造特性から、本橋で定期的に観察すべき損傷や変状は次の通りである。

- ・鋼材の疲労亀裂
- ・F11Tボルトの遅れ破壊
- ・床版の疲労損傷
- ・アーチアバット周辺の地盤変状

一方、橋梁規模も比較的大きく上路アーチ形式という特殊橋梁であること、両側とも橋台部の斜面勾配が非常に急で表層の堆積土砂も滑りやすいため斜面を降下するためにはロープや高い梯子などを補助手段として用いる必要があることなどから、災害時などの緊急点検や調査は点検車や仮設足場が必要となり、現状では速やかな対応が困難である。

そのため、以下に示すような恒久的な維持管理設備の設置について検討するのが望ましい。

【恒久的維持管理設備例】

- ① 補剛桁床版下面の桁間検査路
- ② アーチ基部アプローチ用の昇降設備



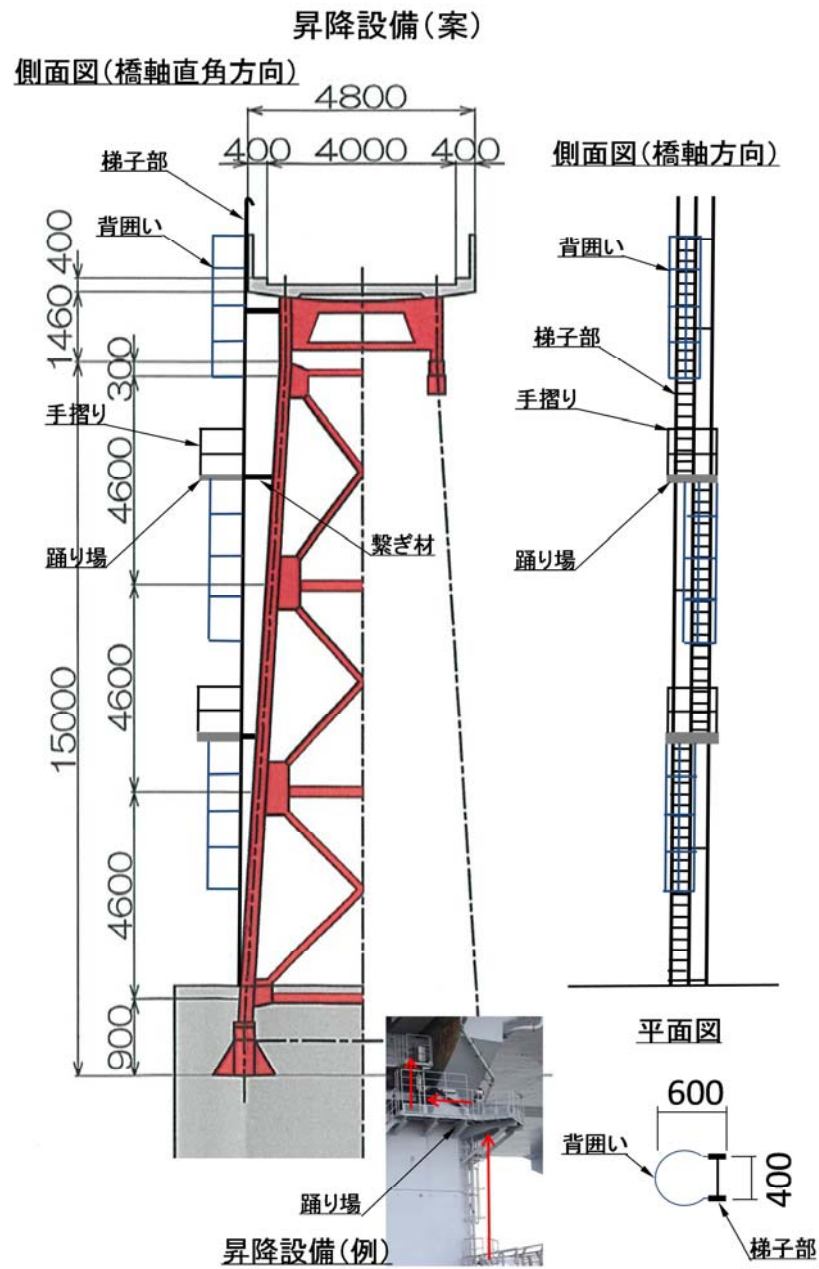
①補剛桁床版下桁間検査路の事例



背囲いリング付き梯子の事例



梯子および橋台前検査路の事例



②アーチ基部アプローチ用の昇降設備事例および設備案



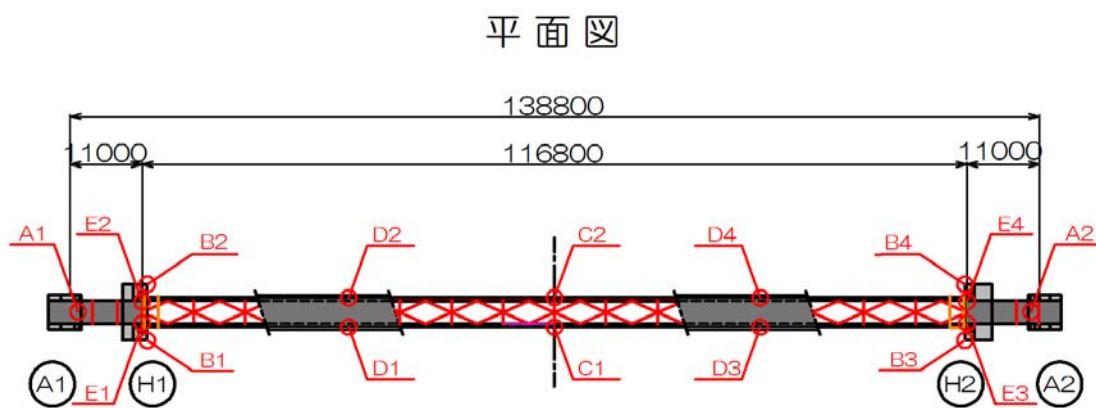
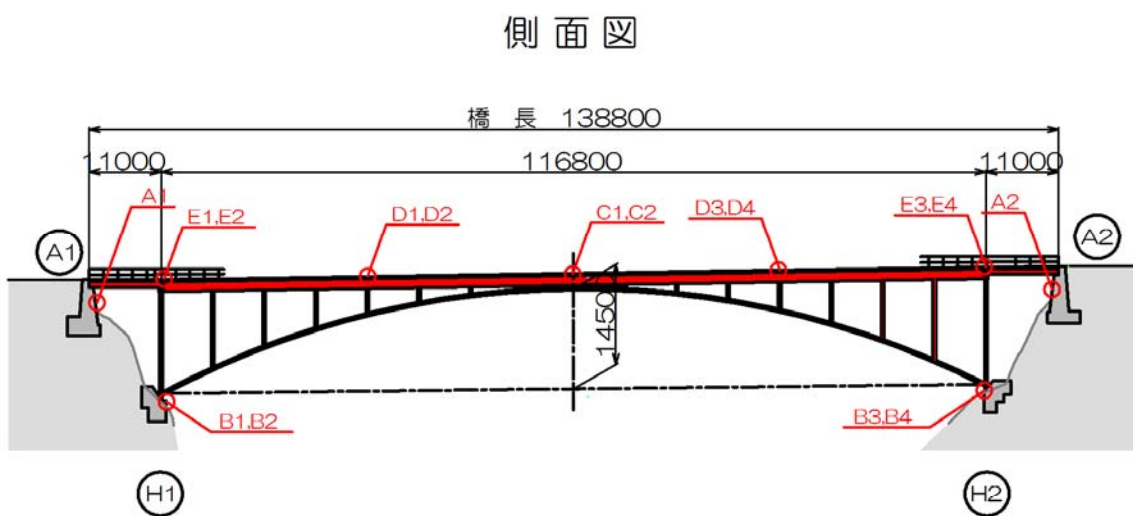
参考 アーチリブ点検方法の事例（仮設移動式足場）

(2) 今後の異常検知のための方策

■ 測量による現状把握（維持管理上の目安値の設定）

今後起こる可能性のある重大な影響を及ぼす洪水や地滑り等による下部工の異常を検知するために、測量により現状の橋梁主要点の位置（座標）および両側斜面の地形状況を計測し、その状態を初期値（維持管理上の目安値）として設定する。

測量結果については、別冊の測量報告書に示す。



【観測定点】	
A 1, A 2	: 橋台たて壁前面
B 1 ~ B 4	: アーチアバット
C 1, C 2	: アーチ支間中央（地覆上）
D 1 ~ D 4	: アーチ支間 L/4 点（地覆上）
E 1 ~ E 4	: 掛け違い部（地覆上）

図 観測定点配置

(白紙頁)

5-6. 各部損傷調査結果

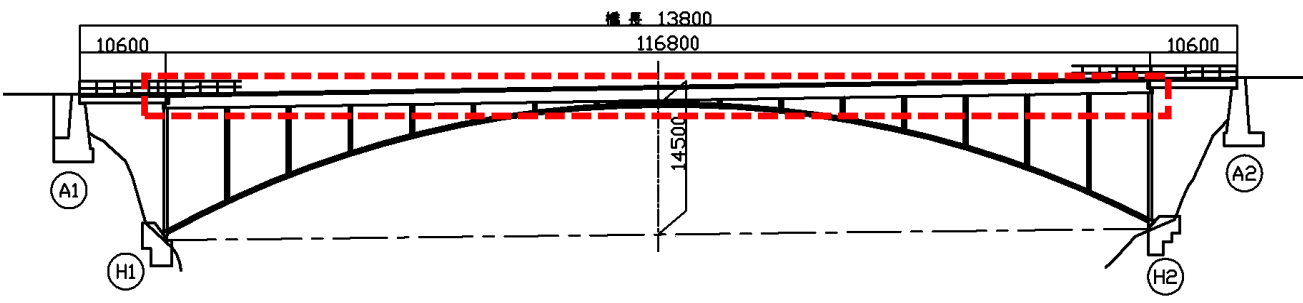






次ページ以降に、今回の直轄診断で実施した各部の調査点検結果をまとめて掲載する。

【掲載内容】

- 5-6-1. ランガー桁部
 - (1) 補剛桁
 - (2) アーチリブ
 - (3) 端支柱
 - (4) 支柱接合部
- 5-6-2. 側径間鈹桁部
- 5-6-3. 支承
- 5-6-4. 床版
- 5-6-5. 下部工
- 5-6-6. 橋面工・付属物
 - (1) 伸縮装置
 - (2) 排水装置
 - (3) 舗装・地覆
 - (4) 防護柵・親柱

5-6-1. ランガー桁部

(1) 補剛桁

対象部位	補剛桁	
構造概要	補剛桁・横桁・上横構	
対象位置図		
		
損傷状況	構造概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・防食機能の劣化が全般的に進行し、ゲルバー部においては母材に顕著な腐食が認められる。 ・補剛桁下フランジ上面においては局所的な腐食が発生している。 		
補剛桁 起点側端部(ゲルバー部)	補剛桁 終点側端部(ゲルバー部)	補剛桁 下フランジ上面
 <ul style="list-style-type: none"> ・防食機能の劣化が全般的に進行し、特にゲルバー部で顕著な腐食が確認できる。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・防食機能の劣化が全般的に進行し、特にゲルバー部で顕著な腐食が確認できる。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・下フランジ上面で滞水の影響と考えられる局所的な腐食が進行している。
横桁	上横構	補剛桁と上横構の接合部
 <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に防食機能の劣化が進行している。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に防食機能の劣化が進行している。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・防食機能の劣化が見られる。 ・ガセット溶接部で亀裂が疑われる塗膜割れは見られない。

損傷原因の推定

- ・ 全般的な防食機能の劣化は紫外線等による経年劣化が原因と思われる。
- ・ 下フランジ上面の腐食については、慢性的な雨水などの滞水による影響と思われる。
- ・ ゲルバー部の顕著な腐食は、伸縮装置からの漏水が原因と思われる。

耐荷性能の評価

- ・ 補剛桁はアーチリブに支えられる構造で、床組として橋面からの荷重をアーチリブに伝える重要な役割を果たす部材であるため、補剛桁の耐荷力低下は橋梁の性能低下に直結する。
- ・ 防食機能の劣化は全般に及んでいるものの、ゲルバー部や下フランジ上面以外には断面減少も見られないため、補剛桁の耐荷性能が著しく低下している可能性は低いと考えられる。
- ・ ゲルバー部の顕著な腐食部に対しては板厚測定や溶接部の亀裂調査を行い、現状での耐荷性能を検証しておく必要がある。

損傷の進行性と不確実性

- ・ 前回の塗替えから28年経過しているが、腐食に対して架設環境が良好で塗装仕様も適合していたことがうかがえ、全体的に経年に応じたムラの少ない塗膜の劣化状況を示している。しかしながら、ゲルバー部、側径間では腐食が進行しており、局部的に腐食が進行する可能性がある。
- ・ ゲルバー部の腐食については、このまま伸縮装置からの漏水を放置すると、進行性は早くなると思われる。

健全性の評価と対策方針

- ・ 全体的に防食機能の劣化は進行しているものの断面減少は見られないため、現状では補剛桁の健全性に影響を与えるような損傷は見つかっていないが、ゲルバー部、側径間などの防食機能の劣化の状況に照らして適切な機能回復を行うのが望ましい。
- ・ ゲルバー部などの顕著な腐食部に対しては板厚調査や亀裂調査などを実施して耐荷性能を検証した上、防食機能回復のために早期に塗替えを行うのがよい。また、伸縮装置の非排水化を検討することが望ましい。
- ・ 大型車の交通量は現状ではそれほど多くないものの、大型車両通行時のたわみや揺れもはっきり確認されるため、疲労亀裂の発生が危惧されることから、全溶接部に対して亀裂調査を行い耐荷性能を確認しておくことが望ましい。
- ・ 塗替え塗装仕様は、全体的に今後の重交通によって疲労亀裂の発生や亀裂補修工事が必要な状況が予測されるため、一般的な塗装仕様を適用し、塗替えを容易にしておくのが望ましい。

その他留意事項

- ・ 近い将来、本橋が残土処分場への運搬ルートとなり設計荷重を超えた大型ダンプの通る頻度が高くなることが確実な状況であるため、現状の余力耐荷力などを実橋の載荷試験を行って確認しておくことが必要である。載荷試験の結果、耐荷力不足となった場合は補強対策や通行荷重制限を検討する必要もある。

(2) アーチリブ

対象部位	アーチリブ	
構造概要	箱断面 (350×400)	
対象位置図		
<p style="text-align: center;">損傷状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防食機能の劣化は全体にわたり進行しているが、鋼材の腐食は限定的である。 ・アーチリブ端部の箱断面内部には滞水の様子は見られなかった。(赤外線カメラによる外部からの調査結果による) ・アーチクラウン部の継手にはF11T高力ボルトが使用されており、一部たたき点検の結果、遅れ破壊は確認されていない。 ・その他の継手部はリベット接合であるが、脱落等は確認されていない。 	<p style="text-align: center;">構造概要</p>	
継手部	継手部(ハンドホール)	継手部(箱内部)
<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に防食機能の劣化が進行している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に防食機能の劣化が進行している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・箱内に仮設材(ドリフトピン等)の置忘れが確認された。(撤去済み)
下端近傍	格点部(下側)	格点部(下側)
<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に防食機能の劣化が進行している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防食機能の劣化が進行している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防食機能の劣化が進行している。

損傷原因の推定

- ・防食機能の劣化の進行は、紫外線による経年劣化が原因と思われる。

耐荷性能の評価

- ・アーチリブは本橋で最も重要な部材であり、耐荷性能の低下がそのまま橋梁全体の耐荷性能に影響する。
- ・全体的に防食機能の劣化・腐食が進行しているものの、鋼材の腐食は限定的であり、現状ではアーチリブの耐荷性能に問題が生じている可能性は低いと考えられる。

損傷の進行性と不確実性

- ・前回の塗替えから28年経過しているが、腐食に対して架設環境が良好で塗装仕様も適合していたことがうかがえ、全体的に経年に応じたムラの少ない塗膜の劣化状況を示している。しかしながら、端部など一部の劣化は確実に進行しており、今後は進行速度が速まる可能性が高いと思われる。
- ・アーチリブは継手部以外は密閉構造の箱断面となっており内部の状況が外観からでは確認できないため、不確実性がある。
- ・アーチクラウン部でF11Tボルトが使用されており、現時点ではボルトの脱落は確認されていないが、竣工年度が比較的遅れ破壊の事例が多く発生している期間に当たることもあり、今後遅れ破壊が発生する可能性も否定できないため定期的な監視が必要である。

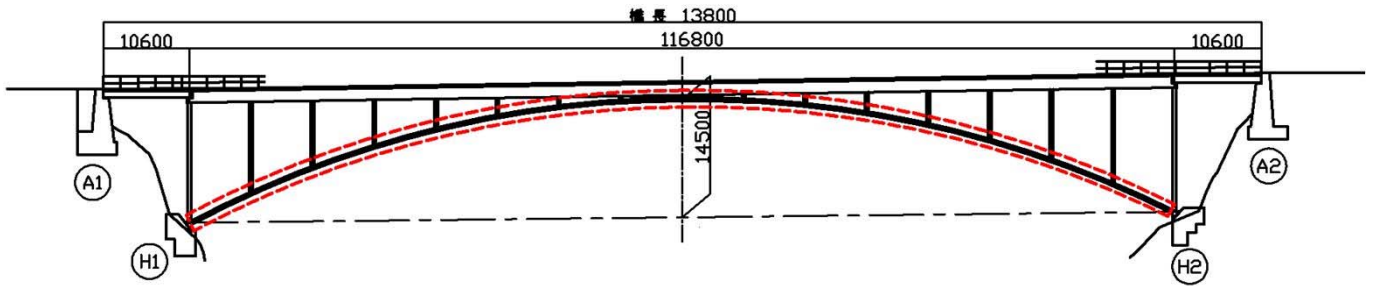
健全性の評価と対策方針

- ・現状では全体的に防食機能の劣化・腐食が進行しているものの、鋼材の腐食は限定的であり、健全性に影響を与えている可能性は低いと考えられるが、経年に伴う防食機能の劣化は確実に進行しており、このまま放置しておくことで端部などに局所的な腐食が進行するため、防食機能の回復措置を行うことが望ましい。
- ・塗替え塗装仕様は、足場設置が工事費に大きく影響するため、重防食塗装などの耐久性に優れる塗装を適用し、橋梁寿命までの塗替え回数を減らして、経済性（LCC）の低減を図ることが望ましい。
- ・架設時の残存物については第三者被害の恐れはないが、防食機能の劣化を促進するなどの可能性も懸念されるため、補修工事の足場を設置した際にでも撤去しておくことが望ましい。

その他留意事項

- ・近い将来、本橋が残土処分場への運搬ルートとなり設計荷重を超えた大型ダンプが通る頻度が高くなることが確実な状況であるため、現状の余力耐荷力などを実橋の載荷試験を行って確認しておくことが必要である。
- ・箱断面内部の状況を確認するための点検口の設置も有効と考えられる。

対象部位	アーチリブ横構
構造概要	
対象位置図	



損傷状況	構造概要
<ul style="list-style-type: none"> 防食機能の劣化が全体にわたり進行しており、一部腐食の発生も見られるが比較的軽微である。 	

アーチリブ横構(全景)	アーチリブ横構(交点部)	アーチリブ横構(交点部)
<ul style="list-style-type: none"> 全体的に防食機能の劣化が進行している。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に防食機能の劣化が進行している。 	<ul style="list-style-type: none"> 防食機能の劣化が進行している。
アーチリブ横構取付部	アーチリブ横構取付部	アーチリブ横構取付部
<ul style="list-style-type: none"> 防食機能の劣化が進行している。 	<ul style="list-style-type: none"> 防食機能の劣化進行およびリベット頭に軽微な腐食が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 防食機能の劣化が進行し、腐食発生しているが比較的軽微と考えられる。

損傷原因の推定

- ・防食機能の劣化は、紫外線による経年劣化と部材への滞水・湿潤の繰り返しが主な原因と思われる。

耐荷性能の評価

- ・アーチリブ横構は、風や地震による横荷重に抵抗する部材であり、アーチリブ間隔の保持など重要な役割を担った部材であるため、横構の耐荷性能の低下は特に横荷重に対する橋梁の耐荷性能の低下に直結する。
- ・一部腐食の進んでいる箇所も見られるものの顕著な断面減少も見られず、全体的には防食機能の劣化・腐食は軽微であるため、現状ではアーチリブ横構の耐荷性能に問題が生じている可能性は少ないと考えられ、橋梁の耐荷性能に影響は無いと思われる。

損傷の進行性と不確実性

- ・腐食に対して架設環境が良好で塗装仕様も適合していたことがうかがえ、全体的に経年に応じたムラの少ない塗膜の劣化状況を示している。しかしながら、接合部など局部的な腐食が進行しており、今後は進行速度が速まる可能性が高いと思われる。

健全性の評価と対策方針

- ・現状では全体的に防食機能の劣化・腐食は軽微であることから、健全性が確保された状態で特に問題ないと考えられるが、経年に伴う防食機能の劣化は確実に進行しており、このまま放置しておくとも部材の性能に影響を与えるため、塗替えを行うことが望ましい。
- ・塗替え塗装仕様は、足場設置が工事費に大きく影響するため、重防食塗装などの耐久性に優れる塗装を適用し、橋梁寿命までの塗替え回数を減らして、経済性（LCC）の低減を図ることが望ましい。
- ・取付部など局部的に腐食が進行している箇所については、優先的に早めの防食対策を施すことも合理的と思われる。

その他留意事項

(3) 端支柱

対象部位	端支柱、端支柱横支材	
構造概要	端支柱：箱断面 400×320、横支材：2-Flg 200×9 1-Web 200×8	
対象位置図		
損傷状況	構造概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な防食機能の劣化は他部材より進行が見られるが、顕著な腐食は支柱基部周りで局部的である。 ・端支柱下端は土砂等の堆積による湿潤の影響で、腐食が顕著であり、一部の部材に局部的な断面減少が見られる。 ・横支材にも枯葉や土砂の堆積が見られ、この影響で腐食が確認できる。 		
起点側端支柱	起点側端支柱(下端)	終点側端支柱(下端)
<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に防食機能の劣化が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防食機能の劣化および局部的に軽微な腐食が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・腐食による部材の断面減少が見られる。(リブ下端)
起点側端支柱(下端)	起点側端支柱横支材	終点側端支柱横支材
<ul style="list-style-type: none"> ・防食機能の劣化が見られる。 ・枯葉、土砂が堆積している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に防食機能が劣化している。 ・枯葉、土砂の堆積が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に防食機能の劣化が見られる。

損傷原因の推定

- ・防食機能の劣化は、紫外線による経年劣化と、過去の洪水による一時的な滞水や土砂堆積による湿潤状態の恒常化が劣化を進行・助長させた原因と思われる。
- ・土砂の堆積についても、過去の洪水の影響によるものと思われる。
- ・また、排水管長の不足により流末から端支柱下端部に散水・滴水している恐れがあることも腐食を助長させる一因と思われる。

耐荷性能の評価

- ・端支柱は補剛桁からの鉛直反力を受けるとともに、風・地震による横荷重に対し橋梁の横方向の安定を保持する重要な部材である。支柱下端は支承と直接接合され反力を伝える構造となっている。そのため、端支柱の耐荷性能の低下は特に橋梁の横方向の耐荷性能に影響を及ぼす。
- ・部材全般の防食機能の劣化は他の部材より進行が見られ、一部断面減少を伴うものの限定的である。

損傷の進行性と不確実性

- ・定期的に堆積した土砂や枯葉を除去することにより、他の部位と同程度の劣化進行性に留め維持することができると考えられるが、経年に伴う塗膜劣化が確実に進行しているため、今後は腐食進行性が早まる可能性が高いと思われる。
- ・端支柱は箱断面であるため外観からは内部の状況が確認できない。架設時ハンドホールの後埋め部も確認されることから、箱内部が湿潤などの腐食環境にある可能性も高いと思われる。そのため箱内部からの腐食進行程度が不確実性として懸念される。

健全性の評価と対策方針

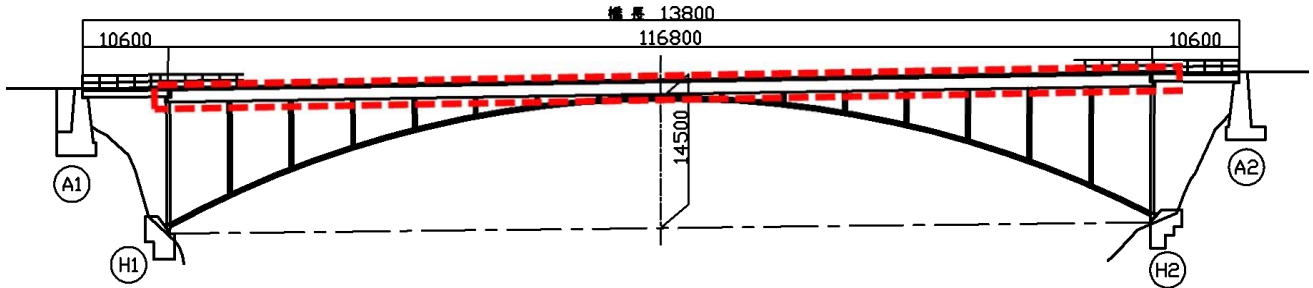
- ・全体的に防食機能の劣化は軽微であり顕著な断面減少も見られないため、現状では健全な状態と言えるが、経年的な塗膜劣化は確実に進んでおり、このまま放置すると耐荷性能に影響を及ぼす可能性があることから、塗替えを検討するのが望ましい。
- ・柱下端の顕著な腐食部に対しては板厚調査や亀裂調査などを実施して耐荷性能を検証した上、防食機能回復のために早期に塗替えを行うのがよい。塗替え塗装仕様は、洪水の影響を受けやすく、足場設置は支間部に比べ容易あるいは不要になると考えられることから、一般塗装系により塗替えを容易にしておくほうが望ましい。しかし、風通しが悪いなどの腐食環境は改善できないため、一般塗装系よりも耐久性の向上を図った塗装仕様を適用するのが望ましい。
- ・排水管流末からの滴水防止など、雨水排水システムの改善により腐食環境改善の効果が期待できる。
- ・堆積した土砂や枯葉は早急に除去・清掃を行い、腐食の進行を防止するのが良い。

その他留意事項

- ・土砂の堆積は洪水時のみではなく、平時雨天の際などの斜面堆積土砂の崩落によるアーチ端部への堆積も起こると考えられることから、定期的に監視しておく必要がある。そのため、簡単に近接アプローチできる点検路等の設置を検討するのが望ましい。

(4) 支柱接合部

対象部位	補剛桁と支柱の接合部
構造概要	普通ボルトで閉じられたシンプルな構造
対象位置図	



損傷状況	構造概要
<ul style="list-style-type: none"> 防食機能の劣化、腐食の他は顕著な損傷は見られない。 補剛桁と支柱の接合面に局所的な腐食の発生が見られる。 	

支柱接合部(起点側支点部)	支柱接合部(起点側支点部)	支柱接合部
<ul style="list-style-type: none"> 全体的に防食機能の劣化と接合面に腐食が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 接合面の防食機能の劣化、腐食が顕著である。 	<ul style="list-style-type: none"> 防食機能の劣化と接合面に軽微な腐食が見られる。
支柱接合部	支柱接合部(終点側支点部)	支柱接合部(終点側支点部)
<ul style="list-style-type: none"> 防食機能の劣化と接合面に腐食が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 接合面の防食機能の劣化、腐食が顕著である。 	<ul style="list-style-type: none"> 防食機能の劣化と接合面に腐食が見られる。

損傷原因の推定

- ・ 全般的な防食機能の劣化は紫外線等による経年劣化、および接合面への浸水や滞水によるものと思われる。

耐荷性能の評価

- ・ 補剛桁と支柱（腹材）との接合部は鉛直方向にボルトで閉じられたシンプルな構造で、補剛桁からアーチリブへ反力を伝える支柱上端の重要な部位であるため、接合部の耐荷力の低下は橋梁の性能低下に直接つながる。
- ・ 接合部のプレートに腐食は見られるが軽微であり板厚減少も無いこと、またボルトにも顕著な損傷は確認できないが、疲労亀裂が懸念される溶接構造が用いられているため、調査を行って亀裂の有無を確認しておくことが必要である。

損傷の進行性と不確実性

- ・ 腐食に対して架設環境が良好で塗装仕様も適合していたことがうかがえ、全体的に経年に応じたムラの少ない塗膜の劣化状況を示している。しかしながら、腐食は軽微であるが経年に伴う防食機能の劣化は確実に進行しており、今後は進行速度が速まる可能性が高いと思われる。
- ・ 特にメタルタッチの接合面は浸水・滞水しやすいため、このまま放置すると他部位より腐食が進行し耐荷性能に影響を及ぼす可能性があることから、早急に部分的な塗替えなどを検討するのが望ましい。

健全性の評価と対策方針

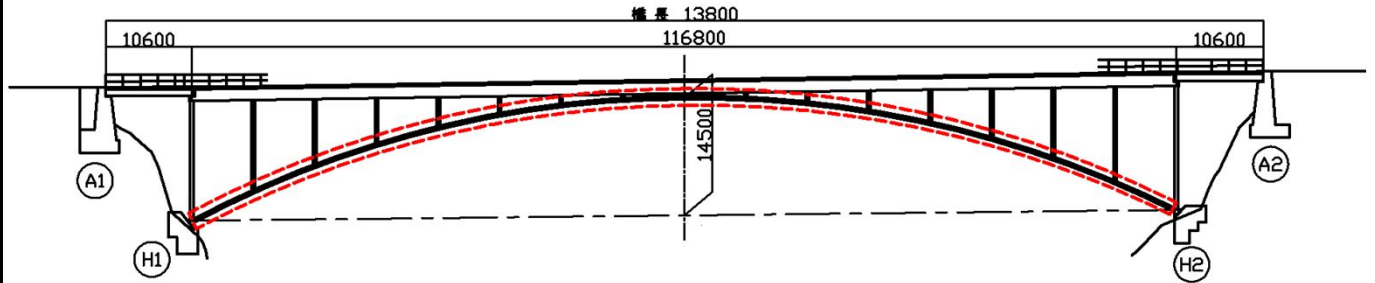
- ・ 現状では防食機能の劣化・腐食は軽微であり断面減少やボルトの損傷も無いため、耐荷性能への影響は小さいと考えられるが、今後の劣化進行防止のためには早期の塗替えが必要と思われる。
- ・ 接合プレートと補剛桁・支柱との溶接部は常時水平方向のせん断力が繰り返し作用していることから、全箇所に対し亀裂の有無を確認し、耐荷力を確実にしておく必要がある。
- ・ 塗替え塗装仕様は、全体的に今後の重交通によって疲労亀裂の発生や亀裂補修工事が必要な状況が予測されるため、一般的な塗装仕様を適用し、塗替えを容易にしておくのが望ましい。

その他留意事項

- ・ 接合面への水分の影響を出来るだけ低減できるよう、部分的な素地調整の強化や塗装仕様に差を付けること、あるいは構造的な工夫（水切り設置など）の補修対策を検討することが望ましい。

対象部位	アーチリブと支柱の接合部
構造概要	フランジプレートがアーチリブの腹部と一体で板取された構造

対象位置図



<p>損傷状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に鋼材の腐食は軽微である。 ・接合部にボルトの脱落が1本認められる。 	<p>構造概要</p>
---	-------------

<p>支柱接合部</p> <p>・全体的に防食機能の劣化、局部的に軽微な腐食が見られる。</p>	<p>支柱接合部</p> <p>・全体的に防食機能の劣化、局部的に軽微な腐食が見られる。</p>	<p>支柱接合部</p> <p>・全体的に防食機能の劣化が見られる。</p>
--	--	--

<p>支柱接合部(支間中央部)</p> <p>・全体的に防食機能の劣化が見られる。</p>	<p>支柱接合部</p> <p>・ボルトの脱落(F10T)が見られる。</p>	<p>支柱接合部</p> <p>・前写真の接写</p>
---	---	-----------------------------

損傷原因の推定

- ・ 全般的な防食機能の劣化は紫外線等による経年劣化が原因と思われる。
- ・ 高力ボルトの脱落については、F11Tであれば遅れ破壊も想定できるが、F10Tの脱落であるため腐食等による劣化・折損の可能性が高いと思われる。

耐荷性能の評価

- ・ 補剛桁からアーチリブへ反力を伝える支柱下端の重要な部位であるため、接合部の耐荷力の低下は橋梁の性能低下に直結する。ガセットプレートがアーチリブ腹板と一体成型されており、かつコーナー部にはフレットが設けられていることから。応力集中が緩和され亀裂に対して強い構造といえる。
- ・ 全体的に防食機能の劣化は軽微であるため現状では耐荷性能に問題が生じている可能性は低いと考えられ、橋梁の耐荷性能に影響は無いものと思われる。
- ・ 高力ボルトが脱落している接合部の耐荷性能は、照査した上で判断する必要がある。

損傷の進行性と不確実性

- ・ 腐食に対して架設環境が良好で塗装仕様も適合していたことがうかがえ、全体的に経年に応じたムラの少ない塗膜の劣化状況を示している。
- ・ 前回の塗替え時期から考えると防食機能回復を行うタイミングであると考えられること、このまま放置しておく耐荷性能に影響を及ぼす劣化が進む可能性が考えられることから、優先的に塗替えを検討することが必要と思われる。
- ・ 高力ボルト脱落の原因は特定が難しいことから、定期的に脱落が生じないかどうか観察しておくことが望ましい。

健全性の評価と対策方針

- ・ 1箇所ボルト脱落は見られるものの、全体的には防食機能の劣化・腐食は軽微であり断面減少など無いこと、亀裂の発生に対して有利な構造となっていることから、耐荷性能への影響は小さいと考えられるが、重要部位であることから今後の劣化進行防止のためには優先的な早めの塗替えが必要と思われる。
- ・ 塗替え塗装仕様は、足場設置が工事費に大きく影響するため、重防食塗装などの耐久性に優れる塗装を適用し、橋梁寿命までの塗替え回数を減らして、経済性(LCC)の低減を図ることが望ましい。特にアーチリブのガセットは溶接構造ではなく疲労亀裂発生の可能性は低く、今後の補修工事などの必要性も少ないと考えられるため、重防食塗装を適用することは有効である。
- ・ 高力ボルトが脱落している接合部については耐荷力に影響する可能性があり、他のボルトの健全性を確認した上で、交換する必要がある。

その他留意事項

5-6-2. 側径間鈹桁部

対象部位	主桁（側径間部）	
構造概要	鋼単純鈹桁	
対象位置図		
損傷状況	構造概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的に鋼材の腐食は軽微である。 ・ 現状では亀裂が懸念される塗膜割れは見られない。 ・ 桁端部やゲルバー部には一部顕著な腐食が見られる。 		
起点側側径間部主桁(桁端部)	起点側側径間部主桁(支間部)	起点側側径間部横桁(下面)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 防食機能の劣化および局部的に軽微な腐食が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的に防食機能の劣化が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的に防食機能の劣化が見られる。
終点側側径間部主桁(桁端部)	終点側側径間部主桁(支間部)	終点側ゲルバー部
<ul style="list-style-type: none"> ・ 防食機能の劣化および局部的に軽微な腐食が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的に防食機能の劣化が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防食機能の劣化と桁端部に顕著な腐食が見られる。

損傷原因の推定

- ・全般的な防食機能の劣化は紫外線等による経年劣化が原因と思われる。
- ・端支点部、ゲルバー部の顕著な腐食は伸縮装置からの漏水など、雨水排水システムの不備が主因と考えられる。

耐荷性能の評価

- ・側径間部の鋼単純鉄桁は主桁と床版が合成していない非合成形式であり、主構造の主桁を保全することが特に重要である。
- ・全体的に防食機能の劣化は進行しているが、腐食は桁端部やゲルバー部の範囲に限定されることから、耐荷性能に問題が生じている可能性は低いと考えられる。
- ・ゲルバー部などの顕著な腐食部に対しては、詳細調査・照査を行った上で耐荷性能の評価をすることが必要である。

損傷の進行性と不確実性

- ・腐食に対して架設環境が良好で塗装仕様も適合していたことがうかがえ、全体的に経年に応じたムラの少ない塗膜の劣化状況を示している。しかしながら、桁端部やゲルバー部の腐食は進行しており、今後は進行速度が速まる可能性が高いと思われる。
- ・桁端部やゲルバー部の腐食は、伸縮装置からの漏水が進行を助長する可能性が高いと思われる。

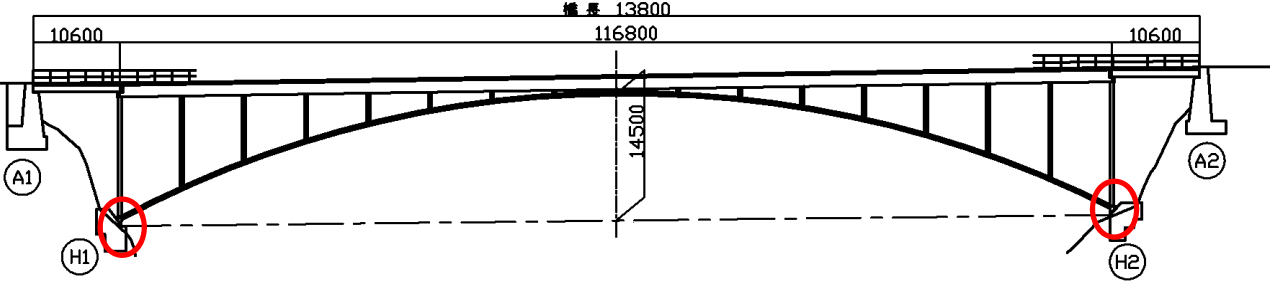
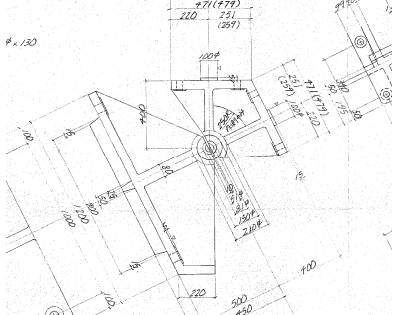




健全性の評価と対策方針

- ・現状では全体的に防食機能の劣化・腐食は軽微であることから、健全性が確保された状態で問題ないと考えられるが、経年に伴う防食機能の劣化は確実に進行しており、このまま放置しておく耐荷性能に影響する腐食へと早期に発展するため、ランガー桁部の塗替えに合わせて全面塗替えを行うのが望ましい。
- ・塗替え塗装仕様は、全体的に今後の重交通によって疲労亀裂の発生や亀裂補修工事が必要な状況が予測されるため、一般的な塗装仕様を適用し、塗替えを容易にしておくのが望ましい。
- ・重要部位であるゲルバー部などの顕著な腐食部に対しては、板厚調査や亀裂調査などを実施して耐荷性能を検証し、その結果により早めに対策を講じる必要がある。
- ・桁端部の塗替え塗装は、風通しが悪い腐食環境のため、他の部位よりも素地調整も程度を上げたり下塗りの増厚を検討するのが望ましい。また、同時に伸縮装置の取替えを検討するのがよい。
- ・過去の事例より疲労亀裂が発生しやすい溶接部に対し、亀裂調査を全箇所実施しておくことが健全性担保のために必要である。

その他留意事項

- ・近い将来、本橋が残土処分場への運搬ルートとなり設計荷重を超えた大型ダンプが通る頻度が高くなる可能性があるため、主桁の現状の余力耐荷力などを実橋の載荷試験を行って確認しておく必要がある。
- ・載荷試験の結果、耐荷力不足となった場合は補強対策や通行荷重制限を検討する必要もある。

5-6-3. 支承

対象部位	支承（アーチリブ下端）	
構造概要	鋼製ピン支承(SC46他)	
対象位置図		
		
損傷状況	構造概要	
<ul style="list-style-type: none"> 防食機能の劣化と局部的に軽微な腐食が見られる。 		
起点側アーチリブ下端ピン支承	起点側アーチリブ下端ピン支承	
 <ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と局部的な軽微な腐食が見られる。 	 <ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と局部的な軽微な腐食が見られる。 	
終点側アーチリブ下端ピン支承	終点側アーチリブ下端ピン支承	
 <ul style="list-style-type: none"> 全体的な防食機能の劣化と局部的な軽微な腐食が見られる。 	 <ul style="list-style-type: none"> 防食機能の劣化および軽微な腐食が見られる。 	

損傷原因の推定

・防食機能の劣化は、紫外線による経年劣化と過去の洪水による一時的な滞水、土砂堆積などが劣化を進行させた原因と思われる。

耐荷性能の評価

・アーチリブ反力をアーチアバットに確実に伝える本支承は、本橋の中で最も重要な部材のうちのひとつであり、支承の耐荷性能の低下が直接橋梁全体の耐荷性能に大きく影響を及ぼす。

・腐食が進行しているものの全体的に軽微であり、大きな断面減少も見られないことから、現状では耐荷性能に問題ないと思われる。

・支承の機能性についても特に問題は見られない。

損傷の進行性と不確実性

・恒常的な土砂堆積などにより経年劣化よりも少し進んだ劣化状況を示しているが、堆積した土砂や枯葉の清掃・撤去など定期的にメンテナンスを続けることで、他部位と同程度の経年劣化に応じた進行性に留められると思われる。

・雨水排水が支承に影響しないよう排水システムの改善を行い、劣化の進行を抑制することが必要である。

健全性の評価と対策方針

・腐食は全体的に軽微であり、大きな断面減少も見られないこと、機能性にも問題ないことからほぼ健全性は維持できていると思われるが、経年に伴う防食機能の劣化も確実に進行しており、このまま放置しておくとも耐荷性能に影響する腐食へと早期に発展するため、他の本体部材などと合わせて塗替えを行うのが望ましい。

・塗替え塗装仕様は、風通しの悪さなどの腐食環境が完全に改善されないため、桁端部と同様に一般塗装系よりも素地調整程度を上げ、また下塗りの増し塗りなどを考慮した耐久性の向上を図った塗装仕様を適用するのが望ましい。

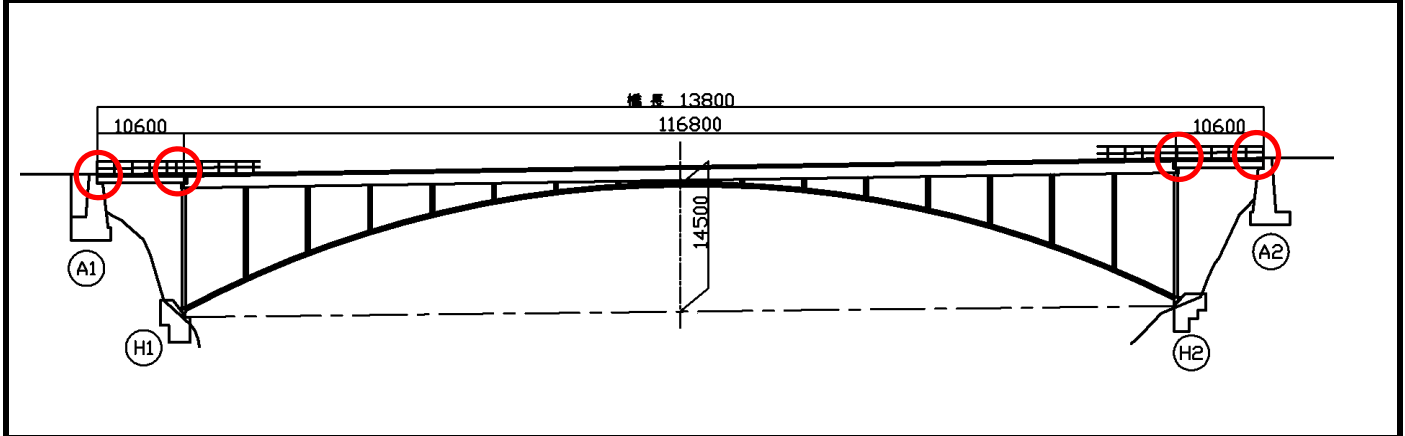
・腐食を促進する堆積物等の除去など、定期的にメンテナンスをしていくことが必要である。

その他留意事項

・日常的なメンテナンスを行うためには、支承へ簡単にアプローチできるよう点検路等の設置が必要と思われる。

・支承は風時（活荷重無載荷時）で構造が決定されているため、設計活荷重14tfを超える車両通行に対しても余耐力を保有していると思われる。

対象部位	支承（側径間桁端部、ゲルバー部）
構造概要	鋼製BP支承、鋼製線支承
対象位置図	



損傷状況	構造概要
<ul style="list-style-type: none"> ・防食機能の劣化と軽微な腐食が見られる。 ・沓座モルタルの欠損が見られる。 	

A1橋台部BP支承	A1部BP支承	起点側ゲルバー部線支承
<ul style="list-style-type: none"> ・防食機能の劣化と軽微な腐食が見られる。 ・沓座モルタルが欠損している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防食機能の劣化と軽微な腐食が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防食機能の劣化が見られる。
終点側ゲルバー部線支承	終点側ゲルバー部線支承	A2橋台部BP支承
<ul style="list-style-type: none"> ・防食機能の劣化が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防食機能の劣化および軽微な腐食が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防食機能の劣化および軽微な腐食が見られる。

損傷原因の推定

- ・全般的な防食機能の劣化・腐食は、紫外線等による経年劣化が原因と思われる。
- ・伸縮装置からの漏水が原因で部分的な腐食が進行している。

耐荷性能の評価

- ・本支承は、側径間桁の反力を橋台あるいはランガ一部補剛桁に伝える重要な部位であるため、支承の耐荷性能の低下は側径間桁の耐荷性能低下へ直接影響する。
- ・沓座モルタルの損傷は見られるが、支承本体の機能や耐荷性能に支障をきたす程度まで損傷は進行していないため、大きな問題はないと思われる。

損傷の進行性と不確実性

- ・桁端部やゲルバー部の支承の腐食は、伸縮装置からの漏水に対し対策を講じなければ、進行を助長する可能性が高いと思われる。

健全性の評価と対策方針

- ・現状では損傷は軽微であるため支承の健全性は確保できているが、伸縮装置からの漏水などに対する排水対策について検討することが健全性維持のために重要と思われる。
- ・塗替え塗装仕様は、風通しの悪さなどの腐食環境が完全に改善されないため、桁端部と同様に一般塗装系よりも素地調整程度を上げ、また下塗りの増し塗りなどを考慮した耐久性の向上を図った塗装仕様を適用するのが望ましい。

その他留意事項

- ・支承は常時で構造が決定されているため、今後設計活荷重14tfを超える車両通行が頻繁に起こる場合には、照査を行い耐荷力を確認しておく必要がある。

5-6-4. 床版

対象部位	床版（側径間部、ランガー桁部）	
構造概要	RC床版(t=21cm) コンクリート $\sigma_{ck}=21\text{N/mm}^2$ 、鉄筋SD295	
対象位置図		
		
損傷状況	構造概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に損傷は軽微で進行は遅いと考えられる。 ・一部遊離石灰や鉄筋露出が見られる。 ・ひびわれ幅も最大0.15mm程度であり、一方向が卓越したひびわれが生じている。 ・桁間床版のひびわれは一定間隔で生じている箇所が多い。 		
起点側側径間部床版(支間部)	起点側側径間部床版(張出部)	終点側側径間部床版
 <ul style="list-style-type: none"> ・主に橋軸方向にひびわれ(最大0.1mm)が見られる。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・張出し部に剥離・鉄筋露出が見られる。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・橋軸直角方向ひびわれ(最大0.1mm)が見られる。
終点側側径間部床版(張出部)	中央径間部床版(支間中央部)	中央径間部床版(張出部)
 <ul style="list-style-type: none"> ・張出し部に遊離石灰が見られる。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・主に橋軸直角方向ひびわれ(最大0.15mm)が見られる。 ・一部遊離石灰を伴う。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・張出し部に遊離石灰を伴うひびわれ(最大0.1mm)が見られる。

損傷原因の推定

- ・桁間床版の橋軸直角方向ひびわれは一定間隔で生じている箇所が多いため、打設当初の段階で生じた外部拘束ひびわれの可能性が高いと思われる。
- ・遊離石灰は橋面防水工が未施工であるため路面水の床版内部への浸入が原因と思われる。

耐荷性能の評価

- ・床版厚は現行基準と比べて薄い構造であるが、全体的にひびわれも軽微で鉄筋露出や腐食による断面減少も見られないことから、耐荷性能に問題が生じている可能性は低いと思われる。

損傷の進行性と不確実性

- ・現状では大型車の交通量はそれほど多くないため、今後急速にひびわれ等損傷が進行することはないと思われる。ただし、橋面防水機能の劣化に伴う床版への浸水、想定以上の大型車通行に対する耐荷力不足などにより、損傷が一気に進む可能性もあると思われる。

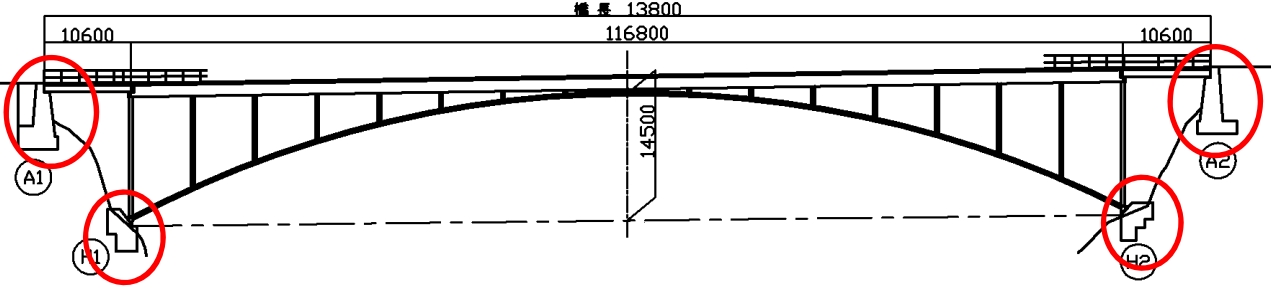

健全性の評価と対策方針

- ・全体的に損傷は軽微であり、現状では健全性に大きな問題はないと思われる。
- ・桁間床版のひびわれは一定間隔で生じている箇所が多く、鉄筋位置やスラブ止めとの関係性も疑われるため、全橋で全貌を正確に把握して原因と耐久性への影響を検討する必要がある。

その他留意事項

- ・近い将来、本橋が残土処分場への運搬ルートとなり設計荷重を超えた大型ダンプが通る頻度が高くなる可能性があるため、現状の余力耐荷力などを実橋の載荷試験を行って確認しておくことが必要である。
- ・今後の床版の耐久性確保のために、他の補修工事に合わせて早めに橋面防水工を施工することが望ましい。

5-6-5. 下部工

対象部位	橋台(A1, A2)、アーチアバット(H1, H2)	
構造概要	逆T式橋台、RCアーチアバット	
対象位置図		
		
損傷状況	構造概要	
<ul style="list-style-type: none"> 橋台に軽微なひびわれや漏水・遊離石灰が見られる。 アーチアバットには目立った損傷は見られない。 		
起点側A1橋台	終点側A2橋台	起点側アーチアバット
 <ul style="list-style-type: none"> ・ 堅壁にひびわれ、遊離石灰が見られる。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・ 堅壁にひびわれ、遊離石灰が見られ 	 <ul style="list-style-type: none"> ・ 正面全景 ・ 特筆すべき損傷は見られない。
終点側アーチアバット		
 <ul style="list-style-type: none"> ・ 正面全景 ・ 特筆すべき損傷は見られない。 		

損傷原因の推定

- ・主に経年劣化による損傷と思われる。
- ・過去の洪水により周囲の地山には表層が削られた痕跡も見られるが、基礎の洗掘などは見られないため、下部工への影響はないものと思われる。

耐荷性能の評価

- ・アーチアバットは、本橋のほとんどの反力を支え、その反力を堅固な地盤に伝える重要構造物である。
- ・現状では橋台およびアーチアバットに大きな損傷や変位が見られないこと、周囲の地盤状況から判断して安定した岩盤への定着が維持されていると判断できるため、橋梁の耐荷性能に問題ないと思われる。

損傷の進行性と不確実性

- ・今後、洪水等災害により周辺地盤の状況が大きく悪化しない限り、経年劣化に応じて損傷が進行すると思われる。
- ・過去の洪水災害の前の状態（正確な下部工位置など）が不明なため、現状において過去の災害の影響の有無に不確実性がある。

健全性の評価と対策方針

- ・橋台およびアーチアバットに大きな損傷や変位が見られないため、過去の洪水の影響もなく現状では健全性が維持できていると思われる
- ・アーチアバット周囲に表土が削られる等の洪水による影響が見られるため、今後の洪水によって不安定になるなどの悪影響が生じない状態かどうか確認しておく必要がある。

その他留意事項

- ・現在の本橋の状態を測量等により計測しておき、今後の洪水等災害に対する維持管理の目安（初期値）として参考にするのがよい。（アーチアバット位置も含む）
- ・また日常的に監視するためには、アーチアバットまで簡単にアプローチできるよう点検路等の設置が必要と思われる。

5-6-6. 橋面工および付属物

(1) 伸縮装置

対象部位	伸縮装置	
構造概要	鋼製ジョイント(SS400)	
対象位置図		
損傷状況	構造概要	
<p>・全体的に防食機能が劣化し、腐食のひろがりが見られる。</p>		
A1橋台上伸縮装置(EJ1,EJ2)	起点側ゲルバー部伸縮装置(EJ3,EJ4)	終点側ゲルバー部伸縮装置(EJ3,EJ4)
<p>・全体的な防食機能の劣化と軽微な腐食が見られる。</p>	<p>・全体的な防食機能の劣化と軽微な腐食が見られる。</p>	<p>・全体的な防食機能の劣化と軽微な腐食が見られる。</p>
A2橋台上伸縮装置(EJ1,EJ2)	終点側ゲルバー部伸縮装置(EJ3,EJ4)	
<p>・全体的な防食機能の劣化と軽微な腐食が見られる。</p>	<p>・漏水の影響と思われる局所的な腐食が見られる。</p>	

損傷原因の推定

- ・ 全般的な防食機能の劣化は紫外線等による経年劣化や路面の一時的な滞水・湿潤が原因と思われる。
- ・ 漏水はフェイスプレートとフランジプレートのすき間より生じているもので、非排水構造となっていないことが原因と思われる。

耐荷性能の評価

- ・ 防食機能の劣化・腐食は軽微であり、伸縮性能や本体の耐荷力は問題ないと思われる。

損傷の進行性と不確実性

- ・ 伸縮装置自体の腐食は、今後もこれまでと同等の経年劣化の進行性と考えられるが、放置しておくとな荷性能に影響する腐食へと進展する可能性もあることから、橋梁全体の塗替え時に合わせ防食機能の回復を行っておくことが望ましい。
- ・ 伸縮装置からの漏水により、主桁端部、端横桁、支承などの桁端部材の腐食の進行は早いと思われる。

健全性の評価と対策方針

- ・ 現時点で伸縮性能自体に問題は生じていないが、漏水により桁端部材の腐食進行が促進され、支承の機能障害等に至るため、伸縮装置の非排水化等を早めに検討するのがよい。

その他留意事項

- ・ 今後、設計活荷重14tfを超える車両通行が頻繁に起こる場合には、伸縮装置本体の照査を行い耐荷力を確認しておく必要がある。
- ・ 照査の結果、耐荷力不足となった場合には、非排水型の伸縮装置に取替えることも検討することが必要である。

(2) 排水装置

対象部位	排水装置	
構造概要	排水桝(FC-15)、排水管(114.3φ)	
対象位置図		
<p style="text-align: center;">損傷状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に排水桝の土砂詰まりがみられる。 ・排水管取付金具には全体的に腐食が見られ、一部破損箇所もある。 ・排水管長の不足など、流末処理に問題があり部材への飛散・滴水が懸念される。 	<p style="text-align: center;">構造概要</p>	
排水桝	排水管取付金具	排水管
<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に排水桝の土砂詰まりが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防食機能の劣化と軽微な腐食が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・排水管の流末が欠損している。(洪水時の漂流物衝突の影響と思われる。)
流末処理	流末処理	樹木による障害
<ul style="list-style-type: none"> ・排水管の流末が下フランジより上方となっているため、支承部等への排水飛散が懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・流末処理が不適當で、排水の飛散や滴下など構造物へ悪影響を与えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受桝から樹木が生育しており排水機能の障害となっている。

損傷原因の推定

- ・排水柵の土砂詰まりについては、定期的な清掃等の維持管理が不十分であることが原因と思われる。
- ・排水管取付金具の腐食や破損は防食機能の経年劣化によるものと思われる。

耐荷性能の評価

- ・排水機能に支障をきたしているため、十分な雨水処理ができていない。

損傷の進行性と不確実性

- ・排水機能が不全であるため、路面水の床版内部への浸入、流末からの重要部位への排水の飛散などが、本体構造の損傷を促進すると思われる。

健全性の評価と対策方針

- ・排水機能不全により本体構造へ悪影響を及ぼしている。
- ・アーチ基部や支承等、構造への飛散や滴下など、雨排水処理システムについては、耐久性確保の観点から改善を検討すべき余地がある。

その他留意事項

- ・排水管長不足によるアーチ基部（支承）の腐食、排水管取付金具の損傷、伸縮装置からの漏水等排水処理の改修を周辺部材への影響も考慮し、また構造物の防食機能の補修・更新と合わせてLCCの観点からも合理的なものとなるよう改修計画を検討する必要がある。

(3) 舗装・地覆

対象部位	舗装、地覆	
構造概要	コンクリート舗装(4cm)、RC地覆	
対象位置図		
損傷状況	構造概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・軽微な舗装ひびわれが一部に見られる。 ・地覆に軽微なひびわれや断面欠損が見られるが、凍結融解などによる損傷は見られない。 		
橋面全景(起点側より)	舗装	起点側橋台背面
<ul style="list-style-type: none"> ・舗装状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・舗装にひびわれが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・路面に段差(30mm)が生じている。
終点側橋台背面	地覆	
<ul style="list-style-type: none"> ・路面に段差(20mm)が生じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地覆にひびわれおよび断面欠損が見られる。 	

損傷原因の推定

- ・舗装、地覆ともに、ひびわれ等の損傷は経年劣化によるものと思われる。
- ・橋台パラペット背面部の段差については、踏掛版が施工していないと推定されるため、土工部の沈下が原因と思われる。

耐荷性能の評価

- ・舗装や地覆の損傷は直接橋梁全体の耐荷性能には影響しない。
- ・ただし、ひびわれから浸入した水が床版内部まで伝わり、床版の耐荷性能の低下に影響することもあるため、日常的に小まめな維持補修が必要と思われる。

損傷の進行性と不確実性

- ・舗装や地覆のひびわれが一部にしか見られないことから、今後も進行性はそれほど早くないと考えられるが、将来、設計活荷重を超える大型車の走行が頻繁になると、損傷の進行は一気に加速する可能性もあると思われる。

健全性の評価と対策方針

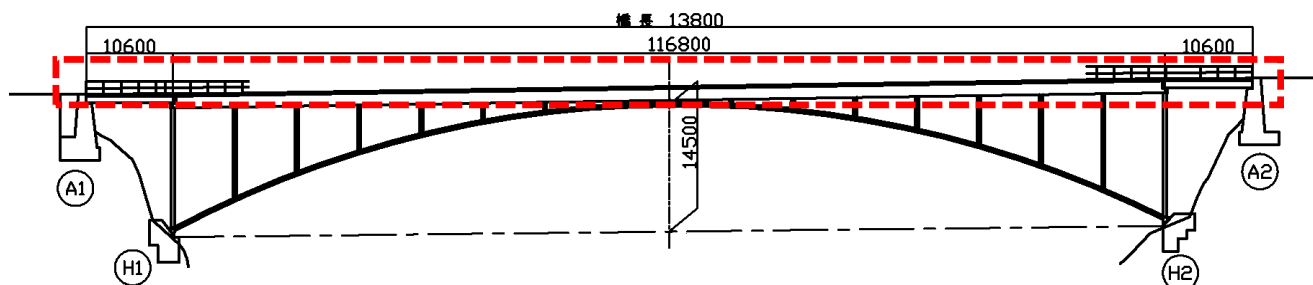
- ・今後、舗装・地覆ひびわれからの床版への浸水が懸念されるため、ひびわれ補修や橋面防水工の施工を床版耐久性向上のために検討するのがよい。
- ・橋台背面の段差については、走行性・安全性確保の観点から補修することが望ましい。

その他留意事項

(4) 防護柵・親柱

対象部位	防護柵、親柱
構造概要	ガードレール(H=1.0m)、RC現場打ち親柱

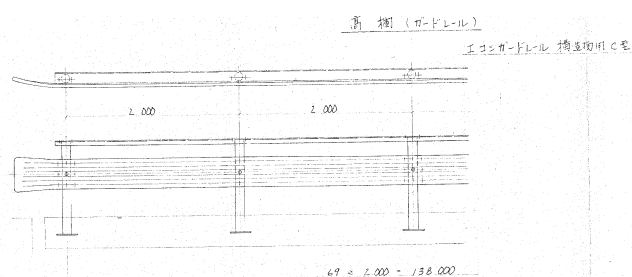
対象位置図



損傷状況

- ・全体的に防食機能の劣化、軽微な腐食がみられる。
- ・一部、ビーム取付ボルトの脱落が見られる。
- ・親柱に化粧モルタルの剥離が見られる。

構造概要



防護柵(上流側)



- ・全体的に防食機能の劣化が見られる。

防護柵(下流側)



- ・全体的に防食機能の劣化が見られる。

親柱



- ・化粧モルタルにひびわれや剥離が見られる。

親柱



- ・天端化粧モルタルが剥離している。

防護柵



- ・ボルトの脱落が見られる。

防護柵



- ・金属片の突出 (ガードレール重ね合せ部) が見られる。

損傷原因の推定

- ・ガードレールの全般的な防食機能の劣化は紫外線等による経年劣化が原因と思われる。
- ・ボルト脱落は車両走行に伴う振動、金属片突出は車両接触が原因と思われる。
- ・親柱の化粧モルタル剥離は、施工時に本体コンクリートと十分一体化が図られていなかったことが原因と思われる。

耐荷性能の評価

- ・ガードレールの防食機能劣化や腐食は全体的に軽微な範囲であり、現時点で防護柵の耐荷性能に問題が出ている可能性は低いと思われる。

損傷の進行性と不確実性

- ・腐食に対して架設環境が良好で塗装仕様も適合していたことがうかがえ、全体的に経年に応じたムラの少ない塗膜の劣化状況を示している。しかしながら、腐食は軽微であるが経年に伴う防食機能の劣化は確実に進行しており、今後は進行速度が速まる可能性が高いと思われる。

健全性の評価と対策方針

- ・防護柵の耐荷性能に影響が出ないうちに、局部的に腐食が顕著な箇所については早めに防食対策を施すことが必要である。
- ・また維持工事の範囲で、ボルト脱落部の対応や金属片撤去を速やかに行うことが安全上望ましい。

その他留意事項